

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Applied Writing Skills	前期	火2・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ヒーター シンプソン	3年		

学びの準備	ねらい The purpose of this class is provide opportunities to create English texts similar to those they will need in their everyday lives, either for work, leisure or international communication. In order to best make the content fit the interests of the class I aim to proceed by conducting a needs analysis which will form the basis of a negotiated syllabus.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) Class activities could include the creation of an online and/or print magazine incorporating various forms of graphic design to present based on an aspect of Okinawan society and culture, (Please refer to http://www.okinawasimpsons.com) exchange of messages/opinions through social media, recounts of personal experiences and anecdotes, stories based on cards and picture sequences, essays based on topical issues, writing job applications in English, and preparation for students who intend to study abroad or write their graduation thesis in English.	
	テキスト・参考文献・資料など No text book is required for this class.	
	学びの手立て	
	評価 Assessment will be based on class attendance, and participation, and successful completion of assignments. There will not be a test.	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名 アメリカの社会と文化	期別	曜日・時限	単位
		後期	月5・木5	4
	担当者 クレイグ K ジェコブソン	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This course is designed to assist students in learning about American society and culture and America's influence in the world. Extensive use will be made of audio visual materials depicting various aspects of American life.	メッセージ Students should read the text and answer the comprehension questions for each chapter before coming to class.
	到達目標 Students should understand that the films used in the class are directly related to chapters in the text and that knowledge of both is necessary to achieve a high score on the exams. Paying attention in class, participating in discussions and asking questions will help students to achieve that understanding.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	Study text
	2	Chapter 1. Intro to American Soc & Cul	Study text
	3	Chapter 2. Natural & Human Landscapes	Study text, test preparation
	4	Exam I: Map Quiz	Study text
	5	Chapter 3. Native Peoples of N. America	Study text
	6	Pocahontas (film)	Study text
	7	Chapter 4. Europeans Arrive in N. Am.	Study text
	8	Dances with Wolves (film)	Study text
	9	Chap. 5. Expansion across the Continent	Study text
	10	(continued)	Study text, test preparation
	11	Exam II	Study text
	12	Chapter 6. Expansion around the World	Study text
	13	(continued)	Study text
	14	Born on the Fourth of July (film)	Study text
	15	Chapter 7. Military Culture, Guns & War	Study text
	16	Bowling for Columbine (film)	Study text, test preparation
	17	Exam III	Study text
	18	Chapter 8. The Dominant Culture	Study text
	19	(continued)	Study text
	20	Chap. 9. Challenges to Dominant Culture	Study text
	21	Malcolm X (film)	Study text
	22	Chap. 10. Slavery and African Americans	Study text
	23	Amistad (film)	Study text
	24	Slavery & African Americans (continued)	Study text, test preparation
	25	Exam IV	Study text
	26	Chapter 11. American Religious Cultures	Study text
	27	30 Days: Muslims & America (film)	Study text
	28	Chap 12. Queer Nation: Gay Soc. and Cul.	Study text
	29	30 Days: Straight Man - Gay World (film)	Study text
	30	Chapter 13. American Car Culture	Study text, test preparation
31	Exam V		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>The text for this class will be available from the instructor.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>Students should not hesitate to do their own research in order to understand some of the concepts, f or example Manifest Destiny and American Exceptionalism, discussed in this class.</p>
	<p>評価</p> <p>Students will be evaluated based on attendance, class participation and written exams. The written exams will consist of comprehension questions based on the textbook and essays based on issues discussed in class, from the textbook and from films. One makeup exam will be allowed.</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>British Society and Culture, English Speaking Societies and Cultures</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アメリカ文学史	後期	火2・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	イギリスの社会と文化	前期	月4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	2年		

学びの準備	ねらい This class is intended to give students an opportunity to explore contemporary issues in British culture and society and reflect upon their relevance to contemporary societies elsewhere, particularly Okinawa and Japan.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice. A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.
	テキスト・参考文献・資料など No textbook is prescribed for this course.
	学びの手立て
	評価 Assessment will be based on the following: * assignments relating to course content * attendance and participation

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 英語で書かれた物語の誕生と発展の過程をたどることによって、英米の言語文化についての理解を深める。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	イギリス文学史	後期	火3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	2年		

学びの準備	ねらい 本講では、イギリスの代表的な作家とその作品について、時代順に解説していきます。時代ごとの歴史的、文化的特徴や、各作家の作品の特徴について学び、文学史の全体的な流れを掴むことを目指します。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>1週目：講義説明 2週目：中世 3～5週目：ルネッサンス 6週目：17世紀初期 7週目：王政復古期 8～9週目：18世紀 10週目：ロマン派 11～13週目：ヴィクトリア朝 14～15週目：20世紀 16週目：学期末試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>初回の授業で指示します 『イギリス文学史入門』川崎寿彦著（研究社） 『イギリス文学史概説』三ツ星堅三著（創元社）</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>講義内容は連続しているので、欠席した場合は配布資料に各自で目を通すなどして、聞き逃した部分を補うよう心掛けてください。</p>
	<p>評価</p> <p>レポート課題（20%）、学期末試験（80%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>英米演劇概論、英米詩概論</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	異文化理解 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岡野 薫	3年	授業時にお知らせします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ドイツ語圏はさまざまな文化圏との交流を通じて形成されてきた。日本との関係に限ってもシーボルトを筆頭に日欧の相互理解に重要な影響をおよぼした人物を多く輩出している。ドイツ語圏の人々の異文化理解に光をあて、彼らの日本イメージの変遷、さらに、イメージの背景をなすドイツ語圏の文化、社会を時代ごとに考察する。日本との比較のために中国、ユダヤ人などに言及することがある。	前半は講義、後半は受講者による口頭発表を予定している。その他、コメント、リアクション・ペーパーの提出を求めることがある。受講者は授業を聴くだけでなく、自分なりの考えをまとめて言語化してほしい。
到達目標	「異文化理解 I」では中世から初期近代までを扱う。授業を通じて次に挙げる三点を学習する。(1) 日本イメージの形成と展開とを学ぶ。(2) そのイメージを通じてドイツ語圏の文化を逆照射する。つまり、異文化という鏡に映ったドイツ語圏の文化を具体化して考察する。(3) 授業で扱ったテーマを手がかりに、現代における異文化ないし「異質」な他者との向きあい方を考える。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読んでください
	2	異文化と向きあう	
	3	「ドイツ語圏」とは	
	4	マルコ・ポーロの時代：伝説の島	
	5	フランシスコ・ザビエルの時代：異文化接触	
	6	フランシスコ・ザビエルの時代：異なる宗教と向きあう（一）	
	7	エンゲルベルト・ケンペルの時代：ドイツ語圏からの来日者	
	8	エンゲルベルト・ケンペルの時代：異なる宗教と向きあう（二）	
	9	エンゲルベルト・ケンペルの時代：異なる宗教と向きあう（三）	
	10	エンゲルベルト・ケンペルの時代：異なる宗教と向きあう（四）	
	11	第11週～15週 受講者による発表	
	12		
	13		
14			
15			
16	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：指定しない。</p> <p>参考文献：堀池信夫総編、石川文康、井川義次編『知は東から 西洋近代哲学とアジア』（明治書院 2013）。南塚信吾、秋田茂、高澤紀恵編『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える—』（ミネルヴァ書房 2016）。</p> <p>資料：授業時に随時紹介する。</p>		
学びの手立て	資料がある場合は、それを事前に読み、自分なりに考えをまとめてくること。		
評価	平常点（60%）と学期末レポート（40%）。平常点は出席、口頭発表、コメント、リアクションペーパーによる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：異文化理解 II
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	異文化理解Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岡野 薫	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>受講者によるグループ発表が柱となる。授業のテーマは「異文化を考える」である。異文化に関する人々の体験や考え、そして他の受講者の意見に耳を傾けながら、受講者ひとりひとりが「異文化理解とは何か」という問いを考え、言語化できるようにする。</p>	<p>初回（ガイダンス）は必ず出席すること。コメントやリアクション・ペーパーの提出を求めることがある。受講者は発表を聴くだけでなく、自分なりの考えを述べてほしい。</p>

到達目標	この授業を通じて、次の知識と技能を身につけることを目標とする。（1）異文化理解に対するさまざまな意見を知る。（2）異文化理解に関する知識を独力で調査することができる。（3）調べた内容をふまえ、自身の意見を表明できる。（4）他の受講者の意見を聞き、それに対する自分の考えを述べることができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスとグループ編成	テーマ決め
	2	異文化体験を考える	テーマ決め
	3	異文化理解の課題と問題	発表の準備
	4	第4週～13週 受講者による発表	発表の準備
	5		発表の準備
	6		発表の準備
	7		発表の準備
	8		発表の準備
	9		発表の準備
	10		発表の準備
	11		発表の準備
	12		発表の準備
	13		発表の準備
	14	異文化理解と異文化受容（一）	レポートの準備
15	異文化理解と異文化受容（二）	レポートの準備	
16	レポートの締切		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：指定しない。 資料：授業時に随時紹介する。</p>
----------------	---------------------------------------

学びの手立て	受講者の積極的な参加を期待する。
--------	------------------

評価	口頭発表（35%）、レポート（45%）、リアクション・ペーパー（20%）。
----	---------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目とくになし。
-------	-------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar I	前期	火2・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 英文法についての知識と理解を深めることで、実践的英語コミュニケーション能力の基礎をより確かなものにする。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar I	前期	火2・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-松田 節子	1年	E-mail: ptt1018@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、様々な練習問題を通して英文法についての知識と理解を深めながら、併せてリスニング、スピーキング、ライティング、リーディングの4技能を向上させることも目指す。	メッセージ 英文法は実践的英語コミュニケーション能力（いわゆる使える英語能力）の核とも言えます。文法能力を伸ばすことで、リスニング、スピーキング、ライティング、リーディングの能力も伸ばすことができます。国際社会で通用する英語が使える人材になることを目指して、日々の努力を怠らず、1回、1回の授業から何かを学ぶようにしてください。
	到達目標 動詞の時制、助動詞、動名詞と不定詞、その他の文法事項についての知識を確認し、それぞれの事項について説明できるようになる。併せて、リスニング、スピーキング、ライティング、リーディングを組み合わせた多種多様な練習問題を数多くこなすことで、長文などの読解能力、正しい文法に沿ったスピーキング能力、その他の能力を伸ばすよう	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	動詞の時制－1	指定箇所の文法事項などの予習
	3	動詞の時制－2	前週の復習と指定箇所の予習
	4	法助動詞－1	同上
	5	法助動詞－2	同上
	6	受動態	同上
	7	動名詞と不定詞	同上
	8	単数形と複数形	同上
	9	関係詞節	同上
	10	名詞節	同上
	11	比較	同上
	12	意味の関係を表す－1	同上
	13	意味の関係を表す－2	同上
	14	直接話法と間接話法	同上
	15	条件文	同上
	16	期末テスト	これまでの復習
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストを使用する。テキストは選定中であるので、テキスト名、詳しい授業予定等については授業開始時に配布するシラバスで紹介する。また、文法書、参考書、辞典などについても随時紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修にあたってはつぎの点に留意すること：(1)出席は評価の対象となるので、遅刻および無断欠席をしないこと。欠席する場合は必ず所定の「欠席届」を提出すること。(2)授業にはテキスト、ノート、辞典などを必ず持ってくること。(3)必ず予習をして授業に臨むこと。予習には、文法事項のチェック、語彙のチェック、例文・練習問題の意味および読みのチェックなどを含む。(4)不明な点、疑問に思う点などについては積極的に質問をすること。(5)自立的な学習を心がけること。</p>
	<p>評価</p> <p>(1) テスト・・・60% (2) 課題・・・20% (3) 平常点・・・20% (質問、コメント、予習・復習、出欠)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：English Grammar II (2) 次のステージ：英検、TOEIC、その他、種々の英語能力検定試験、資格試験を積極的に受験することで、自身の文法能力（英語能力）のレベルアップを目指す。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar I	前期	火2・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 和文	1年	ptt758@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>外国語として英語を学ぶ立場にある私たちにとって、英文法の知識を確かなものにするには、4技能(読む・書く・聞く・話す)のバランスのとれた向上をめざすうえで最も重要なことである。本講座においては、英文法の基礎知識を再確認し、日常起こりうる会話場面を想定した演習を数多く行うことで、主として発信に使える文法知識の習得をめざす。</p>	<p>外国語の習得に近道はありません。日々の積み上げが大事です。真剣な中にも、楽しく学んでいける環境作りを心がけますので、みなさんの積極的な授業参加を期待しています。</p>

到達目標	<p>(1)各文法項目を十分に理解し、課題英文をよどみなく読み上げることができ、比較的短い文章については暗誦できるようになる。(2)学習した文法知識をもとに、話したり書いたりするなど自らの発信につなげることができる。(3)期間中、Vocab-Notebookとよぶ「単語ノート」を自主作成し、継続的に語彙力増強に努めることができる。(4)毎週実施する語彙クイズでは、8割以上の正答率をめざし努力する。</p>
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Introduction, Vocabulary Size Check 1, Unit 1: Sentence Elements	・シラバスをよく読んで理解する。
	2	Unit 1: Basic Sentence Patterns, Parts of Speech, Quiz 01	
	3	Unit 2: Verbs - Tenses, Quiz 02	
	4	Unit 3: Verbs - Progressive Forms, Quiz 03	学期を通して以下の自律学習を行うこと。
	5	Unit 4: Verbs - Perfect Forms, Quiz 04	・毎回単語ノート(10語)を作成する。
	6	Unit 5: Verbs - Passive/Active Voice, Quiz 05	・課題英文は少なくとも2回音読をすませて毎回の授業にのぞむ。
	7	Unit 6: Conjunctions, Quiz 06	・教科書問題は、事前に解いて発表に備える
	8	Review the Quizzes, Midterm Examination	・週1回のクイズに備える。
	9	Unit 7: Infinitives, Quiz 07	・正答率の低いクイズ問題を復習し、定期テストに備える。
	10	Unit 8: Present/Past Participles, Quiz 08	
	11	Unit 9: Gerunds, Quiz 09	
	12	Unit 10: Modifiers -Adjectives/Adverbs, Quiz 10	
	13	Unit 11: Relative Pronouns, Quiz 11	
	14	Unit 12: Comparatives, Unit 13: Prepositions, Quiz 12	
	15	Unit 14: Modals, Quiz 13	
	16	Unit 15: Conditionals, Quiz 14, Final Examination	
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Learn More Grammar (基礎からの英文法), K. Fujioka and H. Oiwa, Snashusha (三修社), 2010 ※朝野書房にて販売。全受講生必携。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>1 「単語ノート」用に学習ノートを1冊準備すること。デザイン・サイズは問わないが、ルーズリーフおよび他教科との併用ノートは不可。2 授業日数の3分の1を超えて欠席すると、学則により単位は認められない。なお遅刻3回で、欠席1回とみなす。3 やむを得ず講義を休む(休んだ)場合は、すみやかに所定の様式で欠席届を提出すること。なお初回の講義では、大事な確認事項があるので、正当な理由がない限り欠席しないこと。4 積極的な辞書利用を奨励する。しかし、辞書機能のついた通信端末機器(スマートフォン等)については誤認を避けるため講義中の使用を認めない。5 定期試験およびクイズ等は、原則として追・再試験は行わない。やむを得ない事情で受験できない場合は、すみやかに講師に申し出て対応を協議すること。6 以下の行為は講義進行の妨げになるので厳に慎む：遅刻、私語、居眠り、ガム噛および飲食、携帯通信機器の使用、理由不明の離席および退席。</p>
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> - Midterm/Final Examinations 40% - Review Quizzes 30% - Vocabulary Notebook 20% - In-class Contributions 10%
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日々の学習成果を日記風に毎日数行英文を書き、復習しましょう。加えて、洋楽歌詞、外国映画台本や芸能・ファッション記事等、興味のある英語のネットコンテンツを日常的に閲覧して、学んだ文法知識を意識的に応用しましょう。このような地道な活動を継続することで、ややもすると文法の学習は、実践のコミュニケーション活動とかけ離れているつまらないものと思いがちになってしまう、そんな疑念など振り払うことができるでしょう</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar II	前期	水1・土1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	2年		

学びの準備	ねらい 本講では、English Grammar I で学んだ基礎知識をもとに、さらに複雑な表現ができるようになることを目指します。授業では、英文法に関する練習問題を数多くこなすことにより、応用力を身に付けていきます。	メッセージ
	到達目標 英文法の基本構造を理解し、その知識をもとに英語の表現力を高める。	

学びの準備	到達目標 英文法の基本構造を理解し、その知識をもとに英語の表現力を高める。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） プリント教材を用い、毎回一項目ずつ進みます。知識の定着をはかるために、月一回のペースで確認小テストを行います。あわせて、長文や複雑な英文を読む訓練も適宜行う予定です。
	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布します。 『英文法解説』江川泰一郎著、金子書房
	学びの手立て 辞書を引くときは、英和辞典だけでなく、英英辞典、類語辞典など、複数の辞書を積極的に活用すると幅広く学ぶことができます。
	評価 学期末テスト（90%）、課題および小テスト（10%）の結果で評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar II	前期	水1・土1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前澤 大樹	2年	h.maezawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>この授業では、英語で書かれた“名文”を読み進めながら関連する語法・文法問題に取り組むことで、英文法に対する理解を更に深めるとともに文法知識を活用し、文意を正確かつ十分に把握する力を養う。付属の設問への解答は、当該の語法・文法事項について「他の受講者に説明する」形で行うものとし、誤りや不足がある場合は講師から適宜訂正・補足を行う。</p>	<p>これまで英語学習を進める中で、基本的文法事項を学んできたことと思います。それらの文法知識は、単にルールのように暗記して頭に収めただけでは十分な価値を發揮しません。文法・語法を意識しながら“手加減”無しに書かれた文章を読むことで、英文の意味を正確に把握するための優れた道具として学んだ知識を活用することを是非学んでください。</p>
到達目標	<p>1. 既習の文法知識を、実際に正確な読解を行う中で有効に活用できる。 2. 教材として用意されたものではない、実践的な英文を読み解くことで、より高度な語彙・語法・文法知識を身に付ける。 3. 複雑な英文の構成を見通し、文法関係を明瞭に把握することができる。 *下記の進行日程はあくまで目安であり、受講者の活動実施や理解の状況により、実施手順を含め予定を変更する場合があります。基本的には進めるために無理に急ぐよりも、学習内容の十分な定着を優先する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業概要と学習の進め方、導入	第1部 1. 付属問題を解く
	2	第1部 1. 侍のロマン	第1部 2. 付属問題を解く
	3	第1部 2. 行動の規範	第1部 3. 付属問題を解く
	4	第1部 3. 西郷隆盛、～	第3部 10. 付属問題を解く
	5	第3部 10. 日本国憲法前文	第5部 19. 付属問題を解く
	6	第5部 19. 科学を通して見る世界1	第1部 4. 付属問題を解く
	7	第1部 4. サンタクロースは～	第2部 5. 付属問題を解く
	8	第2部 5. もし3日間だけ目が見えたら	第2部 6. 付属問題を解く
	9	第2部 6. 物を忘れる方法	第3部 11. 付属問題を解く
	10	第3部 11. ゲティスバーグ演説	第5部 20. 付属問題を解く
	11	第5部 20. 科学を通して見る世界2	第2部 7. 付属問題を解く
	12	第2部 7. 私の人生の物語	第2部 8. 付属問題を解く
	13	第2部 8. 読書論	第2部 9. 付属問題を解く
	14	第2部 9. 独立独行	第3部 12. 付属問題を解く
	15	第3部 12. ケネディ大統領就任演説	第5部 21. 付属問題を解く
	16	第5部 21. 常識と科学の違い	第4部 16. 付属問題を解く
	17	第4部 16. 二十年後	第4部 17. 付属問題を解く
	18	第4部 17. 雪女	第4部 18. 付属問題を解く
	19	第4部 18. 孤独	第3部 13. 付属問題を解く
	20	第3部 13. 経済学の領域と方法	第5部 22. 付属問題を解く
	21	第5部 22. 偉大なる発見	第6部 25. 付属問題を解く
	22	第6部 25. 日英語の鏡像関係	第6部 26. 付属問題を解く
	23	第6部 26. 言語の持つ性質	第6部 27. 付属問題を解く
	24	第6部 27. 言語とは何か	第3部 14. 付属問題を解く
	25	第3部 14. スポーツと競争心	第5部 23. 付属問題を解く
	26	第5部 23. ろうそくの科学	第6部 28. 付属問題を解く
	27	第6部 28. 言語と種の類似性	第3部 15. 付属問題を解く
	28	第3部 15. 思想の自由	第5部 24. 付属問題を解く
	29	第5部 24. 科学概論	指定した文章の付属問題を解く
30	第7部収録の文章よりいずれか1つ		
31	期末試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 野村忠央, 他 (2009) 『新版 一度は読んでおきたい名文から学ぶ総合英語』, DTP出版.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 辞書は毎回必ず持参すること。語の意味を調べるだけでなく、文法的性質を確認するためにも辞書は必須である。 2. 授業に臨んでは、該当範囲の予習を必ず行って欲しい。具体的には、文章は文法的な説明ができる程度にしっかり検討・理解し、設問の全てに取り組んでおくことを求めたい。 3. 予習した上で、解らなかった箇所や疑問点を整理しておき、授業は確認と質問の場として積極的に利用して貰うのが最も効果的である。 *授業ではMoodleを用いた活動も行うため、初回授業時にコースへの登録を行う。
	<p>評価</p> <p>(1) 期末試験: 50%、(2) 教科書付属の設問・その他の問題への解答(小テスト等を実施した場合はここに含める): 50% の配分で得点を計算し、評価を決定する。但し、活動状況等に特筆すべき点(良い面・悪い面とも)がある場合は、±10%を上限として加点・減点を行う。また、出席回数が全体の2/3 (20回)に満たない場合は、その時点で不可とする。この際、遅刻・早退は1/3欠席として扱う(何れも30分以内。それ以上の遅刻・早退は欠席)。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>直接的な応用としては、英語のリーディング・ライティングを扱う全ての科目でこの授業で学んだことを活かし、発展させることができます。もちろん、高度なリスニング・スピーキング能力を身に付ける上でも文法知識は重要ですから、その種の授業も意欲的に履修して学習をより有効なものにして欲しいと思います。</p>

※ポリシーとの関連性 英米言語文化学部専攻の学生達にとって言語の基本となる英文法を、これまで学んできたレベルよりも高いレベルでより深く学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Grammar II	前期	水1・土1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島村 麗	2年	E-mail: l-shimamura@hotmail.co.jp	

学びの準備	ねらい 英文法の目標を、英文和訳から「話す力」へとハードルを上げたとき、はっきりしていることは、その言語のシステム「文法」を理解しなければならない。話すための文をマスターし、同時に「リスニング」や「読解」などの、総合的な英語の力をやしなうことをねらいとする。	メッセージ 授業はPart 1(英語文の骨格)、Part II(修飾)、Part III(自由な要素)、Part IV(配置転換)、Part V(時表現)、Part VI(文の流れ)と、大まかに6つのPartに分け、各Partでchapter 1~chapter 18までをカバーする。イラストやCDなどを利用して、理解しやすい授業を進める。
	到達目標 英語は話すことができ、はじめて役に立つ。そのためにはシステムを理解しなければならない。例えば「to不定詞」や「動名詞」などを、いくら詳しく覚えたとしても、それは英文和訳には役立つが、話す力にはならない。ネイティブスピーカーのもつシンプルなシステムを理解し、「話せる英語」を達成することを到達目標とする。評価は各chapterごとのreview (dictation/speaking) などと、Final Exam による。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Chap.1(主語・動詞・基本文型) / Chap. 2 (名詞)	テキスト p 10-44 を予習
	2	Review & Chap. 3 (形容詞) / Chap. 4 (副詞)	テキスト p 46-55 を予習
	3	Review & Chap. 5 (比較)	テキスト p 58-63 を予習
	4	Review & Chap. 6 (否定)	テキスト p 66-69 を予習
	5	Review & Chap. 7 (助動詞)	テキスト p 72-80 を予習
	6	Review & Chap. 8 (前置詞)	テキスト p 82-84 を予習
	7	Review & Chap. 9 (WH修飾)	テキスト p 86-92 を予習
	8	Review & Chap. 10 (動詞-ING形) / Chap. 11 (TO不定詞)	テキスト p 96-105 を予習
9	Review & Chap. 12 (過去分詞形)	テキスト p 111-112を予習	
10	Review & Chap. 13 (節)	テキスト p 114-117 を予習	
11	Review & Chap. 14 (疑問文)	テキスト p 120-130を予習	
12	Review & Chap. 15 (さまざまな配置転換)	テキスト p 132-134 を予習	
13	Review & Chap. 16 (時表現)	テキスト p 136-154 を予習	
14	Review & Chap. 17 (接続詞)	テキスト p 156-162 を予習	
15	Review & Chap. 18 (流れを変える)	テキスト p 164-166 を予習	
16	Final Exam.	Rivew	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：タイトル「一億人の英文法・CDブック」 東真ブックス出版 大西 泰斗/ポール・マクベイ 著 定価：¥1,500円+税		
	学びの手立て ①「履修の心得」 遅刻・欠席をしないように。やむおえない事情で遅刻あるいは欠席する場合は、事前か事後に必ずその理由を届けでること。講義は携帯電話の使用は禁止。辞書を持参すること。 ②「学びを深めるために」各講義の前にそれぞれのChapterを予習しておくこと。		
	評価 評価方法：毎回のReview30%, Final Exam70%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 受講終了後は、English Conversation やdiscussion、通訳などのクラスを受講して、英語のスピーチ能力を高めてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English for Special Purposes	後期	月1・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-東恩納 ミシエル	2年	higaonna@okinawa-u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	Gain skills in self-expression in English. Learn language of discussion and debate, gain presentation skills, and develop critical thinking skills. Give opinions on many topics.	I hope you will Enjoy improving your English speaking ability through taking this class. You can learn useful language that you can use in everyday situations in English.

到達目標	Students will improve their English speaking ability. Class provides extended listening and speaking practice for students where students actively participate in meaningful exchanges during pair work and group work. Focus is on listening and speaking proficiency.
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introductions and class explanation	
	2	Introduction to language of discussion	Review lesson
	3	""	Preview lesson
	4	Self Improvement	Review lesson
	5	""	Preview lesson
	6	Friendship, Relationships	Review lesson
	7	""	Preview lesson
	8	Disagreements	Review lesson
	9	""	Choose topic
	10	Persuasive Speech Prep	Writing
	11	Persuasive Speech	Preview lesson
	12	Rules & Plagiarism	Review lesson
	13	""	Preview lesson
	14	Household responsibilities, work & careers	Review lesson
	15	""	Preview lesson
	16	Culture shock	Review lesson
	17	""	Choose topic
	18	Debate and Discussion Prep	Writing
	19	Debates and Discussions	Practice
	20	""	Preview lesson
	21	Racism	Review lesson
	22	""	Preview lesson
	23	Technology	Review lesson
	24	""	Preview lesson
	25	Societal roles	Review lesson
	26	""	Preview lesson
	27	War & Peace	Review lesson
	28	""	Full Review
	29	Consolidation	Interview prep
30	Review and Practice	Interview prep	
31	Final Interviews		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Impact Issues 3 - 20 stimulating issues for discussion and debate in English Pearson Longman ISBN 978-962-01-9932-5</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>It will be necessary to preview and review all lessons outside of class. You will need to write a speech and work with a group on a debate outside of class.</p>
	<p>評価</p> <p>1. Persuasive Speech 20%, 2. Debate/ Discussion 20% 3. Final interview 30%, 4. Daily attendance and participation 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>Students will gain skills in self-expression in English, learn language of discussion and debate, gain in presentation skills, develop critical thinking skills, and give opinions on many topics.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English for Special Purposes	後期	月1・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ペンソン サイモン	2年	Please talk to me after class.	

学びの準備	ねらい In this course the students will begin to develop the ability to give their opinions and then debate on issues of social importance.	メッセージ This is a great fun class with lots of talking and debating - you'll enjoy it and get much better at speaking in English.
	到達目標 Students will learn 1) how to give their opinions; 2) how to give details on their opinions; and 3) how to debate those opinions. They will also develop their ability to give presentations.	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introducing Presentation Skills	prep self-intro
	2	Self-intro presentations	none
	3	Introducing Opinion Presentations	prepare opinion
	4	Introducing Debate	research topic
	5	Introducing Debate 2	none
	6	Finding Opinions	prepare opinion
	7	Student Opinions: Group 1 presentations	Practice & prep
	8	Hot Seat: talking about Topic 1	research topic
	9	Difficult questions	prep agree list
	10	Debate	practice!
	11	Student Opinions: Group 2 presentations	none
	12	Hot Seat: talking about Topic 2	research topic
	13	Difficult questions	prep agree list
	14	Debate	practice!
	15	Student Opinions: Group 3 presentations	none
	16	Hot Seat: talking about Topic 3	research topic
	17	Difficult questions	prep agree list
	18	Debate	practice!
	19	Student Opinions: Group 4 presentations	none
	20	Hot Seat: talking about Topic 1	research topic
	21	Difficult questions	prep agree list
	22	Debate	practice!
	23	Student Opinions: Group 5 presentations	none
	24	Hot Seat: talking about Topic 1	research topic
	25	Difficult questions	prep agree list
	26	Debate	practice!
	27	Exam Prep 1: choosing a topic	research topic
	28	Exam Prep 2: agree and disagree	Agree&disagree
	29	Exam Prep 3: pair practice	practice!
30	Exam Day 1 (groups 1-3)	practice!	
31	Exam Day 2 (groups 4-5)	none	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>There will be no textbook for this course - all the content will come from your own brains!</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>This course is all about group conversation and critical thinking, so you should come prepared to speak lots of English and really discuss and debate with your classmates (only in ENGLISH!).</p>
	<p>評価</p> <p>Students will be assessed based on their attendance, participation in class activities, group presentations, and a final exam where they will discuss an opinion with me.</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>Students who complete this course should next take Debate.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading I	前期	月4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新垣 實	1年	090-9781-1042	

学びの準備	ねらい 英検準二級から二級レベルの英語基本構文を習得し、速読による読解力と英文解釈力の向上を目指す。毎時間英語基本構文あるいは英語の諺の暗記と発表があります。その中で英語の基本文型を習得し、疑問文、否定文の作り方などを学びます。	メッセージ 毎回の暗記宿題をしっかりと準備すること。積極的に発表すること。Substitution Drillやreading教材の予習をしっかりとやること。
	到達目標 英検準二級から二級レベルの英語の読解力を身につけることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Unit 1	
	2	Unit 2	
	3	Unit 3	
	4	Unit 4	
	5	Unit 5	
	6	Unit 6	
	7	Unit 7	
	8	Unit 8	
	9	Unit 9	
	10	Unit 10	
	11	Unit 11	
	12	Unit 12	
	13	Unit 13	
	14	Unit 14	
	15	Unit 15	
	16	中間試験	
	17	Unit 16	
	18	Unit 17	
	19	Unit 18	
	20	Unit 19	
	21	Unit 20	
	22	Unit 21	
	23	Unit 22	
	24	Unit 23	
	25	Unit 24	
	26	Unit 25	
	27	Unit 26	
	28	Unit 27	
	29	Unit 28	
30	Unit 29		
31	期末試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など プリント教材を配布します。その他はそのつど案内します。</p>
学 び の 実 践	<p>学びの手立て 語学（英語）はlistening, speaking, reading, writing技術の習得です。語学習得は自ら積極的にこれらの技術のトレーニングに励まなければなりません。座って講義を聴いているだけでは決して語学（英語）を身につけることはできません。毎日単語を覚え、単語を文の中で覚え、様々な英文を読んだり聴いたり、そして話す訓練をしなければなりません。自ら学ぶことによって英検二級の読解力は必ず身につきます。</p>
	<p>評価 欠席は5回までしか認めません。毎回の暗記の宿題と中間試験と期末試験および授業態度などで評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading I	前期	火4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 精読と多読を通して語彙力と読解力の強化を図ります。	メッセージ リーディング力向上には読むしかありません。興味のある本、読みやすい本をまず読んでみよう。
	到達目標 English Reading I・IIを通して英検2級～準1級レベルのリーディング力を身につける	

学びの準備	ねらい 精読と多読を通して語彙力と読解力の強化を図ります。	メッセージ リーディング力向上には読むしかありません。興味のある本、読みやすい本をまず読んでみよう。
	到達目標 English Reading I・IIを通して英検2級～準1級レベルのリーディング力を身につける	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	
	2	Intensive Reading 1	Extensive Reading 1
	3	Intensive Reading 2	Extensive Reading 2
	4	Intensive Reading 3	Extensive Reading 3
	5	Intensive Reading 4	Extensive Reading 4
	6	Intensive Reading 5	Extensive Reading 5
	7	Intensive Reading 6	Extensive Reading 6
	8	Intensive Reading 7	Extensive Reading 7
	9	Intensive Reading 8	Extensive Reading 8
	10	Intensive Reading 9	Extensive Reading 9
	11	Intensive Reading 10	Extensive Reading 10
	12	Intensive Reading 11	Extensive Reading 11
	13	Intensive Reading 12	Extensive Reading 12
	14	Intensive Reading 13	Extensive Reading 13
	15	Intensive Reading 14	Extensive Reading 14
	16	Mid-term Exam	Extensive Reading 15
	17	Intensive Reading 15	Extensive Reading 16
	18	Intensive Reading 16	Extensive Reading 17
	19	Intensive Reading 17	Extensive Reading 18
	20	Intensive Reading 18	Extensive Reading 19
	21	Intensive Reading 19	Extensive Reading 20
	22	Intensive Reading 20	Extensive Reading 21
	23	Intensive Reading 21	Extensive Reading 22
	24	Intensive Reading 22	Extensive Reading 23
	25	Intensive Reading 23	Extensive Reading 24
	26	Intensive Reading 24	Extensive Reading 25
	27	Intensive Reading 25	Extensive Reading 26
	28	Intensive Reading 26	Extensive Reading 27
	29	Intensive Reading 27	Extensive Reading 28
30	Intensive Reading 28, Extensive Reading Reporting		
31	Final Exam		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 指定された席に座る (2週間に1回席替えをする) (2) 講義は基本的に英語で (学生も英語を積極的に使うことが望まれる) (3) 無断欠席、遅刻をしない (遅刻2回で欠席1回と見なします) (4) 授業では精読、授業外では多読を行う (5) ポートフォリオを作成し、学期末に提出する
	<p>評価</p> <p>授業態度 (出席率、積極性、発言) 50%</p> <p>テスト 20%</p> <p>提出物 (読書記録、ポートフォリオ) 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>English Reading II</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading I	前期	月4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-松田 節子	1年	E-mail: ptt1018@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、スキミング、スキミング、予測読みなど、リーディングの基礎的なスキルを身につける練習をする。同時に各英文に出てくる文法、表現、背景的知識などについての知識と理解を深め、読んだ内容について英語で概要を述べる練習をする。	リーディングは、語彙力、表現力、情報収集能力等の増強に役立つだけでなく、実践的英語コミュニケーション能力（いわゆる使える英語能力）の基礎作りにもつながります。英語が使える人材になることを目指して、日々の努力を怠らず、1回、1回の授業から何かを学ぶようにしてください。

到達目標
まず、英文の読みに必要なリーディングスキルを身につけることから始めて、各単元で学ぶ語彙、表現などを自分の英語として使えるようになる。つぎに、CDのモデルリーディングを繰り返し聴くことで、明瞭な発音と英語らしいイントネーションで英文が読めるようになる。そして、各単元のまとめとして読んだ英文の内容を口頭で要約できるようになる。これらの練習を通して、リーディングの基礎力を強固にする

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーションおよび英語学習に関するアンケート	
	2	スキミングスキルを使った読み方	指定箇所の語彙、構文等の予習
	3	同上	同上
	4	スキミングスキルを使った読み方	同上
	5	同上	同上
	6	復習テスト1	
	7	パラグラフのメインアイデアを見つける読み方	指定箇所の語彙、構文等の予習
	8	同上	同上
	9	予測読みの仕方	同上
	10	同上	同上
	11	復習テスト2	
	12	パラグラフリーディングの仕方	指定箇所の語彙、構文などの予習
	13	同上	同上
	14	いろいろなリーディングスキルを組み合わせた読み方	同上
	15	同上	同上
	16	期末テスト	
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
29			
30			
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストを使用する。テキストは選定中であるので、テキスト名、詳しい授業予定等については授業開始時に配布するシラバスで紹介する。また、英語学習上必要な辞典、文法書、参考書などについても随時紹介する。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修にあたってはつぎの点に留意すること：(1)出席は評価の対象となるので、遅刻および無断欠席をしないこと。欠席する場合は必ず所定の「欠席届」を提出すること。(2)授業には必ずテキスト、ノート、辞典などを持っていくこと。(3)必ず予習をして授業に臨むこと。(4)不明な点、疑問に思う点などについては積極的に質問すること。(5)自立的な学習を心がけること。</p>
	<p>評価</p> <p>(1) テスト・・・50% (2) 課題・・・20% (3) 平常点・・・30% (質問、コメント、予習・復習、出欠)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期開講のEnglish Reading IIを履修して、リーディングの能力をさらに伸ばすようにする。2年生から4年生にかけては英米文学、時事英語、異文化理解などの科目を履修して、高度の英文を読む能力を身につける努力をする。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading II	後期	月4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新垣 實	1年	090-9781-1042	

学びの準備	ねらい 英検二級レベルの英語基本構文を習得し、速読による読解力と英文解釈力kの向上を目指す。毎時間英語基本構文あるいは英語の諺の暗記と発表があります。その中で英語の基本文型を習得し、疑問文、否定文の作り方などを学びます。	メッセージ 毎回の暗記宿題をしっかりと準備すること。積極的に発表すること。Substitution Drillやreading教材の予習をしっかりとやること。
	到達目標 英検二級レベルの英語の読解力を身につけることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Unit 1	
	2	Unit 2	
	3	Unit 3	
	4	Unit 4	
	5	Unit 5	
	6	Unit 6	
	7	Unit 7	
	8	Unit 8	
	9	Unit 9	
	10	Unit 10	
	11	Unit 11	
	12	Unit 12	
	13	Unit 13	
	14	Unit 14	
	15	Unit 15	
	16	中間試験	
	17	Unit 16	
	18	Unit 17	
	19	Unit 18	
	20	Unit 19	
	21	Unit 20	
	22	Unit 21	
	23	Unit 22	
	24	Unit 23	
	25	Unit 24	
	26	Unit 25	
	27	Unit 26	
	28	Unit 27	
	29	Unit 28	
30	Unit 29		
31	期末試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など プリント教材を配布します。その他はそのつど案内します。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 語学（英語）はlistening, speaking, reading, writing技術の習得です。語学習得は自ら積極的にこれらの技術のトレーニングに励まなければなりません。座って講義を聴いているだけでは決して語学（英語）を身につけることはできません。毎日単語を覚え、単語を文の中で覚え、様々な英文を読んだり聴いたり、そして話す訓練をしなければなりません。自ら学ぶことによって英検二級の読解力は必ず身につきます。</p>
	<p>評価 欠席は5回までしか認めません。毎回の暗記の宿題と中間試験と期末試験および授業態度などで評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading II	後期	月4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	松田 節子	1年	E-mail: ptt1018@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、前期で身につけたリーディングスキルを活用して中級レベルの英文を読む。読んだ英文についてはその概要や要点を英語でまとめる練習をすることで英語の表現能力（話す能力、書く能力）の伸長も目指す。また、授業の後半では多読にも挑戦する。	メッセージ リーディングは、語彙力、表現力、情報収集能力の増強に役立つだけでなく、実践的英語コミュニケーション能力（いわゆる使える英語能力）の基礎作りにもつながります。英語が使える人材になることを目指して、日々の努力を怠らず、1回、1回の授業から何かを学ぶようにしてください。
	到達目標 前期のリーディングの授業で身につけたいろいろなリーディングスキルを活用して、中級レベルの英文がスムーズに読めるようになる。同時に、語彙力と表現力をさらに伸ばし、英語で自己表現がかなりの程度自由にできるようになる。音読についても、前期同様練習を重ねることでより明瞭な発音とイントネーションで英文が読めるようになる。授業の後半ではリーディング能力の伸長に欠かせない多読に挑戦する。読みやすい教材を使って多読の練習をすることで、気軽に、楽しく英語を読む姿勢を培う。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	スキニングスキルを使った読み方の発展練習	指定箇所の語彙、構文等の予習
	3	同上	同上
	4	スキミングスキルを使った読み方の発展練習	同上
	5	同上	同上
	6	復習テストー1	
	7	パラグラフのメインアイデアを見つける読み方の発展練習	指定箇所の語彙、構文等の予習
	8	同上	同上
	9	予測読みのしかたの発展練習	同上
	10	同上	同上
	11	復習テストー2	
	12	パラグラフリーディングの発展練習	指定箇所の語彙、構文などの予習
	13	多読	教材の再読（復習）
	14	同上	同上
	15	同上	同上
	16	期末テスト	
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストを使用する。テキストは選定中であるので、テキスト名、詳しい授業予定等については授業開始時に配布するシラバスで紹介する。また、英語学習上必要な辞典、文法書、参考書などについても随時紹介する。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>履修にあたってはつぎの点に留意すること：(1)出席は評価の対象となるので、遅刻および無断欠席をしないこと。欠席する場合は必ず所定の「欠席届」を提出すること。(2)授業にはテキスト、ノート、辞典などを必ず持ってくること。(3)必ず予習をして授業に臨むこと。予習には語彙のチェック、構文のチェック、音読などを含む。(4)不明な点、疑問に思う点などについては積極的に質問をすること。(5)自立的な学習を心がけること。</p>
	<p>評価</p> <p>(1) テスト・・・50% (2) 課題・・・20% (3) 平常点・・・30% (質問、コメント、予習・復習、出欠)</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年生から4年生にかけて、英米文学、時事英語、異文化理解など、できるだけ多くの専門科目を履修して高度の英文を読む練習を積むようにする。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	English Reading II	後期	火4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期に引き続き精読・多読・速読により語彙力、読解力を強化を図ります。	メッセージ English Reading I・IIで最低10万語を読もう。
	到達目標 English Reading I・IIを通して英検2級～準1級レベルのリーディング力を身につける	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation, English Proficiency Test	
	2	Intensive Reading 1	Extensive Reading 1
	3	Intensive Reading 2	Extensive Reading 2
	4	Intensive Reading 3	Extensive Reading 3
	5	Intensive Reading 4	Extensive Reading 4
	6	Intensive Reading 5	Extensive Reading 5
	7	Intensive Reading 6	Extensive Reading 6
	8	Intensive Reading 7	Extensive Reading 7
	9	Intensive Reading 8	Extensive Reading 8
	10	Intensive Reading 9	Extensive Reading 9
	11	Intensive Reading 10	Extensive Reading 10
	12	Intensive Reading 11	Extensive Reading 11
	13	Intensive Reading 12	Extensive Reading 12
	14	Intensive Reading 13	Extensive Reading 13
	15	Intensive Reading 14	Extensive Reading 14
	16	Mid-term Exam	Extensive Reading 15
	17	Intensive Reading 15	Extensive Reading 16
	18	Intensive Reading 16	Extensive Reading 17
	19	Intensive Reading 17	Extensive Reading 18
	20	Intensive Reading 18	Extensive Reading 19
	21	Intensive Reading 19	Extensive Reading 20
	22	Intensive Reading 20	Extensive Reading 21
	23	Intensive Reading 21	Extensive Reading 22
	24	Intensive Reading 22	Extensive Reading 23
	25	Intensive Reading 23	Extensive Reading 24
	26	Intensive Reading 24	Extensive Reading 25
	27	Intensive Reading 25	Extensive Reading 26
	28	Intensive Reading 26	Extensive Reading 27
	29	Intensive Reading 27	Extensive Reading 28
30	Intensive Reading 28, Extensive Reading Reporting		
31	Final Exam		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業の中で連絡します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>(1) 指定された席に座る (2週間に1回席替えをする) (2) 講義は基本的に英語で (学生も英語を積極的に使うことが望まれる) (3) 無断欠席、遅刻をしない (遅刻2回で欠席1回と見なします) (4) ポートフォリオを作成し、学期末に提出する</p>
	<p>評価</p> <p>授業参加 (出席状況、発言、積極性) 50% テスト 20% 提出物 (読書記録、ポートフォリオ) 30%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターネット英語	後期	月2・木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語音声学	前期	月3・木3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	3年	By appointment only. e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This course combines theory and practice in articulatory phonetics with a focus on the basic concepts of English speech sounds.</p>	<p>There is no shortcut to success. Anyone who is serious about improving their pronunciation skills must practice, practice, practice.</p>

到達目標	By the end of the course, students will have identified their personal strengths and weaknesses as a speaker of English and gained the knowledge and skills that help them communicate more effectively.
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	To be announced in class.
	2	The Vocal Organs; Sound Classes	"
	3	Consonants: Places of Articulation	"
	4	Consonants: Manners of Articulation	"
	5	Vowels: Articulation & Classification	"
	6	The Transcription of English Vowels & Consonants	"
	7	Consonant & Vowel Charts; Midterm Exam	"
	8	The Syllable	"
9	Accent	"	
10	Rhythm	"	
11	Coarticulation & Other Phonological Processes	"	
12	Intonation (1)	"	
13	Intonation (2)	"	
14	World Englishes (1)	"	
15	World Englishes (2)	"	
16	Final Exam	"	
	テキスト・参考文献・資料など		
	To be announced in class.		
	学びの手立て Regular class attendance and active participation are essential. Failure to comply with classroom rules, to participate in class activities, or to submit homework assignments will result in poorer grades, possibly zero points.		
	評価 Attendance, Class Participation & Homework (50%). Mid-term & Final Exams (50%).		

学びの継続	次のステージ・関連科目 Pronunciation Workshop
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語学概論	後期	月3・木3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	2年	By appointment. e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This course introduces students to the basics of linguistics by exploring the history of English and the underlying systematic rules of the English sound system, words, phrases, sentences, discourse and pragmatics. Other topics include language variation, change, and issues in English language teaching and learning.</p>	<p>This course will be taught in English and Japanese. Anyone who is interested in learning more about the scientific study of the English language is welcome. We will learn about the core topics of linguistics using examples from English and discuss some of the major contributions coming from various disciplines.</p>
到達目標	As a result of this course, students should be able to explain some basic facts and concepts about the English language and how they relate to the study of acquisition, variation and historical change.	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	To be announced in class.
2	What is English Linguistics?	"	
3	Sounds and Sound Patterns (1)	"	
4	Sounds and Sound Patterns (2)	"	
5	The Construction of Words	"	
6	The Combination of Words (1)	"	
7	The Combination of Words (2)	"	
8	Review & Mid-term Exam	"	
9	The Meaning of Words & Phrases (1)	"	
10	The Meaning of Words & Phrases (2)	"	
11	Meaning in Context (1)	"	
12	Meaning in Context (2)	"	
13	Historical Change & Language Contact	"	
14	Dialect Variation & World Englishes	"	
15	Issues in English Language Teaching	"	
16	Review & Final Exam	"	
テキスト・参考文献・資料など	To be announced in class.		
学びの手立て	Regular class attendance and active participation are essential. All students are expected to comply with classroom rules, participate in class activities and discussion, and turn in homework assignments on time. Failure to do so will result in poorer grades, possibly zero points.		
評価	Attendance, Class Participation & Assignments (50%). Mid-term & Final Exams (50%).		

学びの継続	次のステージ・関連科目 Pronunciation Workshop、英語音声学、英語学特殊講義
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語学特殊講義	前期	月2・木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	3年	研究室を訪問ときは必ず事前に予約を取る。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、英語と日本語の言語現象を通して、言語使用に関するメカニズムを語用論的視点から学ぶことを目的とする。語用論の基礎を学び、発話者がどのように言葉を使っているか、また、どんな時に誤解や不快感が生じるのかを分析する。更に、外国語学習や異文化理解への応用について考える。	使用言語：日本語・英語。ワークショップ型の授業なので、自ら進んで参加する積極的な姿勢を期待する。講義だけではなく、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイングなど様々な活動を取り入れる。
到達目標	語用論を学ぶことによって、ことばの本質への理解を深め、自身の言語運用能力も高まる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	各回の授業ごとに指示する。
	2	言語学習 vs. 言語運用	"
	3	語用論とは何か	"
	4	発話行為	"
	5	会話の含意	"
	6	間接発話行為	"
	7	ポライトネス理論	"
	8	異文化間語用論（1）	"
9	異文化間語用論（2）	"	
10	中間言語語用論（1）	"	
11	中間言語語用論（2）	"	
12	英語学習への応用（1）	"	
13	英語学習への応用（2）	"	
14	英語学習への応用（3）	"	
15	研究計画・口頭発表（1）	"	
16	研究計画・口頭発表（2）	"	
実践	テキスト・参考文献・資料など	講義開始時に指示する。	
学びの手立て	①課題期限を厳守する。②指定文章の輪読・発表・ディスカッションを通じて、学術論文を正確に読む・書く能力を養い、理論的・批判的思考力を高める。③学んだ知識とスキルを応用展開させる。		
評価	出席率及び授業参加態度（50%）、口頭発表及びレポート（50%）により総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「英語学概論」、「言語学概論」
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育学	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	2年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、2年次後期履修の英語科教育法Ⅰの introduction になります（従って、英教法履修予定者は“原則”受講することが望ましいです）。英語科教育の現状を overview し、問題点を把握します。そして、今後目指すべき英語科教育の方向性を明らかにします。指定時間内に各 group が略式 presentation を行います。「わかる」段階に留まらず、「使える・説明できる」段階を模索し	メッセージ 英語科教育関連の最初の科目です。英語を教える意義を多角的に眺めます。
	到達目標 英語を教える際の advantages のみならず disadvantages も把握できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で連絡します。 講義内で別途配布または連絡します。
	学びの手立て textbook を読むだけでは全く足りません。関連する図書を1冊でも多く読破しましょう。
	評価 ① 授業出席度（原則皆勤） ② presentation（group 毎） ③ 個人・相互評価 ④ 質疑応答 ⑤ 課題テスト および中間・期末試験 ⑥ 受講姿勢 ⑦ book report ⑧ project 学習

学びの継続	次のステージ・関連科目 早期英語教育と関連づける。英語科教育法Ⅰ＆Ⅱ・英語教育教材研究とつなげる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語教育教材研究	後期	火3・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、英教法Ⅰの実践編及び英教法Ⅱの補足編になります。従って、英教法履修者は、“原則”履修することが望ましいです。文部科学省検定中学・高校教科書を取り上げ、抽出した各 section / lesson の題材を分析し、理想的な教材を作成します。flash/picture cards の作り方、target sentences の導入・理解・運用を目指す各種活動、復習・定着・まとめの ideas、黒板・教室の使い方	メッセージ 理論研究を徹底的に行い、新出教材の導入に焦点を当てる。
	到達目標 target items の導入を原理・原則に照らして行える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 別途連絡します。 別途連絡します。
	学びの手立て 説明を極力減らし、interaction を図りながら target の定着を確実にする方法を探ろう。
	評価 ① 授業出席度 (原則皆勤) ② presentation ③ 個人・相互評価 ④ 質疑応答 ⑤ 課題テストおよび中間・期末試験 ⑥ 受講姿勢 ⑦ 教材作成 ⑧ project 学習

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法Ⅰと関連づける。英語科教育法Ⅱや英語科教育法演習Ⅰ・Ⅱにつなげる。
-------	--

※ポリシーとの関連性 While this class will mainly be conducted in English, language support will be provided by bilingual student assistants.

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語圏社会文化特殊講義	後期	月3・木3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	3年	peter@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	This class is intended to give students an opportunity to explore and question issues relating to society and culture in parts of the world outside Britain and the United States where the English language serves some function.	For the purposes of this class, "English-speaking societies" does not only refer to such places as Canada and Australia, but also includes societies in Asia, Africa and Europe.

到達目標	To raise awareness of the nature and history of the spread of English and encourage students to reflect on this.
------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice.</p> <p>A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>No textbook is required for this class. Instead, students will be expected to find information from a variety of sources.</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>Before the class, please watch films and documentaries, and learn as much about English speaking societies and cultures outside the United States and the United Kingdom.</p>
	<p>評価</p> <p>Assessment will be based on the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> * assignments relating to course content * attendance and participation

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>British Society and Culture, American Society and Culture.</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理 I	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真島 知秀	1年	ptt808@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、資料収集、まとめ、発表などに必要なパソコン操作の基本技能を習得することを目的に、Wordを使って実践的な演習を行います。また課題をこなす中で英文のブラインドタッチのマスターおよび入力速度の向上も図ります。その他パソコンを使った総合的な演習を通じて、大学生活で必要な情報処理技術を身に付けます。</p>	<p>毎週英語と日本語のタイピング練習を行います。毎週テーマごとの課題もあります。課題は毎回メールを通じて提出してもらいますが、メールの書き方やマナーなどもしっかり指導します。これからの大学生活は勿論、社会に出てからも活かせる情報処理技術を身につけて行きます。パソコンは毎日触れながら覚えていくものですので、授業以外でも毎日使うように心掛けてください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラインドタッチができるようになる（日本語／英語）。 ・メールの正しい書き方（マナー）を理解して相手に失礼にならないようなメールが作成できる。 ・インターネットを使用する上での注意点を理解し、大学生活に必要な基本的な操作ができる。 ・Wordの基本操作を習得し、大学生活に必要な機能や応用操作を活用できる。 ・文書作成を効率よく行うためのショートカットキーを覚えて活用することができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	文字入力	メールの基本マナー
	3	文字装飾	課題01
	4	箇条書き	課題02
	5	論文体裁演習①	課題03
	6	論文体裁演習②	課題04
	7	自由レポート作成	課題05
8	表作成・編集、カレンダー作成	課題06	
9	クイック表作成	課題07	
10	図形作成	課題08	
11	地図作成	課題09	
12	オートシェイプ、ワードアート	課題10	
13	ショートカットキー	課題11	
14	総復習①	課題12	
15	総復習②、タイピングテスト	課題13	
16	Wordテスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など なし（毎回の課題で参考になるデータ等を提供します）		
	学びの手立て	<p>※一週間に1回しか授業がないので（全15回の授業）必ず全ての授業を受けてください。5回以上休んだ時点で期末試験の受験資格を失います。 ※欠席届は、所定の様式と証明書類を添付の上提出してください。ただし内容によっては公欠・病欠が認められない場合もあります。 ※分からないことは積極的に質問したり、友達同士教え合う雰囲気を作りましょう。</p>	
	評価	<p>期末試験・タイピングテスト（40%）、課題（30%）、平常点（30%）により評価する。 授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。 ※課題は提出期限を過ぎて出すと大幅な減点になりますので注意しましょう。 ※平常点の評価は、知っている知識を友達と共有するなど、授業中の積極的な活動も含まれます。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>英語情報処理Ⅱでは、Excel、PowerPointの演習も行います。前期で習った知識を土台に、実践力に繋がる機能を毎週紹介していきますので、期待してください。最後のPowerPointの発表で、英語情報処理科目の総仕上げを行います。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真喜志 満	1年	ptt040@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講座は、キーボード練習によるブラインドタッチをマスターすることから始め、最終的には外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する英文書類を作成する能力を身につけることを目的とする。進め方は、実際の書類を教材に演習を行っていく。使用ソフトはMicrosoft WordやPowerPointが中心である。	メッセージ 演習にあたっては、常に10本の指をフルに使ったブラインドタッチの基本を忘れないようにすること。
	到達目標 ・書類を見ずにブラインドタッチで入力ができる・Microsoft Wordの基本的機能を理解し、活用することができる。・パワーポイントでプレゼンテーション資料を作成することができる。・異なったビジネスレターが書けるようになる。・英文履歴書が書けるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義内容の説明、導入
	2	ブラインドタッチ演習・初級～中級
	3	ブラインドタッチ演習・上級
	4	入力速度測定
	5	段組のある雑誌記事での入力演習
	6	学級プロジェクトその1〈パワーポイント使用〉
	7	学級プロジェクトその2〈パワーポイント使用〉
	8	文書作成：ビジネスレター、英文履歴書
	9	実地的ビジネスレターの作成
	10	筆記体からのビジネスレターの作成
	11	メモ書きを基にした実地的書類作成
	12	和文英訳をしながらのレター作成
	13	ワード機能をフルに使った演習
	14	英文履歴書等の課題の仕上げ・印刷
15	期末試験	
16	提出物・成績最終確認 / 追試・補講	
実践	テキスト・参考文献・資料など 使用せず。毎回演習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。図書館所蔵の各種Microsoft Office マニュアル本。	
学びの手立て	この機会に、これまでの自己流の入力方法を反省し、正しい姿勢で正しい入力方法を習得してほしい。今日与えられた課題は、今日あるいは期限内に提出できるよう一生懸命取り組むこと。長い時間提出が遅れると、よい成績は取れない。欠席した場合は、クラスメイトから欠けた情報を収集すること。	
評価	出席30%、入力速度測定10%、作成文書や宿題等の提出物50%、期末試験10%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。演習を中心の授業なので、評価の配分は試験より実践のほうがはるかに高い。学生には、とにかく毎回出席して、与えられた課題をこなし提出することが望まれる。課題提出に関して特に注意してほしいことは、提出期限から1日遅れるごとに1.5点マイナスされるので、遅れる場合でもできるだけ早く仕上げ提出することである。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 このコースが修了しても、ブラインドタッチを継続発展させることが重要である。ビジネスレターに使用する署名も、他人の真似のできないデザインや書き方に改良することも重要である。
-------	--

※ポリシーとの関連性 This course is conducted in English, and concentrates on IT skills of particular relevance to English majors.

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	1年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062	

学びの準備	ねらい This is an introductory course in information processing for English majors. The language of instruction in this course is primarily English, and secondarily Japanese. Wherever possible, English language versions of software are used.	メッセージ Don't be shy about asking questions.
	到達目標 To acquire intermediate level IT knowledge and skills necessary for student life at the university, and beyond. The foundational computing, networking, web research, data collection, organization, analysis, and presentation skills taught in this course are prerequisite to virtually all professional occupations.	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>This course provides English major students with the fundamentals of:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) computer hardware 2) operating systems and user interfaces 3) file systems 4) networking 5) eMail and social networking 6) spreadsheets 7) eLearning systems 8) Internet search techniques and strategies 9) Boolean operators and other search engine syntax 10) deep Internet searching and data mining 11) intellectual property and copyright 12) online language learning resources 13) word processing 14) digital correspondence in English 15) computer graphics
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Reading: 大串夏身、文科系学生のインターネット検索術、青弓社Any good paper or electronic English-Japanese / Japanese-English dictionary.</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>This is a hands on active learning style class. Not only study, but extensive practice is necessary to master the skills taught in this course.</p>
	<p>評価</p> <p>Quizzes - 20%</p> <p>Assignments: 30%</p> <p>Final exam: 50%</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>英語情報処理II、英語情報処理III、英語情報処理IV</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	真喜志 満	1年	ptt040@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講座は、キーボード練習によるブラインドタッチをマスターすることから始め、最終的には外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する英文書類を作成する能力を身につけることを目的とする。進め方は、実際の書類を教材に演習を行っていく。使用ソフトはMicrosoft WordやPowerPointが中心である。	メッセージ 演習にあたっては、常に10本の指をフルに使ったブラインドタッチの基本を忘れないようにすること。
	到達目標 ・書類を見ずにブラインドタッチで入力ができる・Microsoft Wordの基本的機能を理解し、活用することができる。・パワーポイントでプレゼンテーション資料を作成することができる。・異的なビジネスレターが書けるようになる。・英文履歴書が書けるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義内容の説明、導入
	2	ブラインドタッチ演習・初級～中級
	3	ブラインドタッチ演習・上級
	4	入力速度測定
	5	段組のある雑誌記事での入力演習
	6	学級プロジェクトその1 <パワーポイント使用>
	7	学級プロジェクトその2 <パワーポイント使用>
	8	文書作成：ビジネスレター、英文履歴書
	9	実地的ビジネスレターの作成
	10	筆記体からのビジネスレターの作成
	11	メモ書きを基にした実地的書類作成
	12	和文英訳をしながらのレター作成
	13	ワード機能をフルに使った演習
	14	英文履歴書等の課題の仕上げ・印刷
15	期末試験	
16	提出物・成績最終確認 / 追試・補講	
実践	テキスト・参考文献・資料など 使用せず。毎回演習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。図書館所蔵の各種Microsoft Office マニュアル本。	
学びの手立て	この機会に、これまでの自己流の入力方法を反省し、正しい姿勢で正しい入力方法を習得してほしい。今日与えられた課題は、今日あるいは期限内に提出できるよう一生懸命取り組むこと。長い時間提出が遅れると、よい成績は取れない。欠席した場合は、クラスメイトから欠けた情報を収集すること。	
評価	出席30%、入力速度測定10%、作成文書や宿題等の提出物50%、期末試験10%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。演習を中心の授業なので、評価の配分は試験より実践のほうがはるかに高い。学生には、とにかく毎回出席して、与えられた課題をこなし提出することが望まれる。課題提出に関して特に注意してほしいことは、提出期限から1日遅れるごとに1.5点マイナスされるので、遅れる場合でもできるだけ早く仕上げ提出することである。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 このコースが修了しても、ブラインドタッチを継続発展させることが重要である。ビジネスレターに使用する署名も、他人の真似のできないデザインや書き方に改良することも重要である。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理Ⅱ	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真島 知秀	1年	ptt808@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、資料収集、まとめ、発表などに必要なパソコン操作の基本技能を習得することを目的に、Excel、PowerPointを使って実践的な演習を行います。また課題をこなす中で英文のブラインドタッチのマスターおよび入力速度の向上も図ります。その他パソコンを使った総合的な演習を通じて、大学生活で必要な情報処理技術を身に付けます。</p>	<p>毎週英語と日本語のタイピング練習を行います。毎週テーマごとの課題もあります。課題は毎回メールを通じて提出してもらいますが、メールの書き方やマナーなどもしっかり指導します。これからの大学生活は勿論、社会に出てからも活かせる情報処理技術を身につけて行きます。パソコンは毎日触れながら覚えていくものですので、授業以外でも毎日使うように心掛けてください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラインドタッチができるようになる（日本語／英語）。 ・メールの正しい書き方（マナー）を理解して相手に失礼にならないようなメールが作成できる。 ・インターネットを使用する上での注意点を理解し、大学生活に必要な基本的な操作ができる。 ・Excelの基本操作を習得し、大学生活に必要な機能や応用操作を活用できる。 ・PowerPointを使って分かりやすくプレゼンテーションができる。 	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	エクセル基本操作①	課題01	
	2	エクセル基本操作②	課題02	
	3	表装飾	課題03	
	4	計算式、オートサム	課題04	
	5	絶対参照	課題05	
	6	IF関数	課題06	
	7	条件付き書式	課題07	
8	グラフ作成	課題08		
9	ピボットテーブル	課題09		
10	総復習	課題10		
11	エクセル試験			
12	パワーポイント作成①			
13	パワーポイント作成②	課題11		
14	プレゼンテーション①	課題12		
15	プレゼンテーション②	課題13		
16	タイピングテスト			
実践	テキスト・参考文献・資料など	なし（毎回の課題で参考になるデータ等を提供します）		
学びの手立て	<p>※一週間に1回しか授業がないので（全15回の授業）必ず全ての授業を受けてください。5回以上休んだ時点で期末試験の受験資格を失います。</p> <p>※欠席届は、所定の様式と証明書類を添付の上提出してください。ただし内容によっては公欠・病欠が認められない場合もあります。</p> <p>※分からないことは積極的に質問したり、友達同士教え合う雰囲気を作りましょう。</p>			
評価	<p>試験・タイピングテスト（40%）、課題（30%）、平常点（30%）により評価する。</p> <p>授業回数の3分の1以上欠席の場合、期末試験と関係なく不可とする。</p> <p>※課題は提出期限を過ぎて出すと大幅な減点になりますので注意しましょう。</p> <p>※平常点の評価は、パワーポイントの発表も含まれます。</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	習った機能はすぐに忘れてしまいます。引き続きパソコンに毎日触れる習慣をつけましょう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真喜志 満	1年	ptt040@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講座の主な目的は、外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する書類を英語で作成する能力を身につける為のコースである。進め方としては、実際の英文書類を教材として、作表やグラフ作成などの演習を行っていく。インターネットも活用するが、使用ソフトはMicrosoft Excelが中心である。	演習にあたっては、単にワープロ感覚で作表するのではなく、パソコンにできる様々なデータ処理機能を活用しながら、それを学んでいくことが大切である。

到達目標	・Microsoft Excelの基本的な機能を理解することができる。・Excelで語彙力増強の管理ができる。・基本的な関数を理解・応用できる。・表とグラフを関連させ作成することができる。・Microsoft Officeのアプリケーションを英語学習に応用することができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容の説明、導入	
	2	アドレス帳の作成	
	3	単語帳の作成とインターネットの活用	
	4	日程表の作成	課題：自分の日程表を作成
	5	作表：Co's Report Their Earnings + Mo. Income	
	6	作表：Nikkei 225 Futures	
	7	作表+グラフ作成：Statistics on Japanese Population	課題：人生カレンダー
	8	作表+グラフ作成：Expenditure Analysis	
	9	複雑な体裁を整える演習：Voice Messaging Matrix	
	10	作表：Import Calculation <前編>	
	11	作表：Import Calculation <後編>	
	12	作表：成績表<前編>	
	13	作表：成績表<後編>	
	14	特別講義：試験の傾向と対策 + 成績シミュレーション + 授業評価アンケート	
15	期末試験	予め普通教室を確認のこと	
16	特別講義：提出物・成績最終確認・追加作業		

テキスト・参考文献・資料など	使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。図書館所蔵の各種Microsoft Office マニュアル本。
----------------	---

学びの手立て	前期に習得したブラインドタッチを意識して10本の指で入力することを忘れてはならない。加えて後期は数字の正しい入力方法も意識してほしい。今日与えられた課題は、今日あるいは期限内に提出できるよう一生懸命取り組むこと。長い時間提出が遅れると、よい成績は取れない。欠席した場合は、クラスメイトから欠けた情報を収集すること。
--------	---

評価	席35%、提出物35%、宿題15%、期末試験15%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。実践的演習を中心に行う授業なので、評価の配分は試験よりも日頃の実践のほうが高い。また、提出期限を過ぎてからの提出物については、一日の遅れにつき1.5ポイントの減点となる。従って、課題を貯めて、期末に提出しても意味がない。とにかく学生は毎回出席して、授業に集中し、与えられた課題をこなして期限内に提出することが望まれる。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報処理に興味のある人は、さらに上級の情報処理コースを履修することを推奨する。さらに情報関係の検定にも挑戦してほしい。語学にさらに向学心がある人は、専門科目を深めるとともに、英語の各種検定や資格試験に挑戦することを推奨する。
-------	---

※ポリシーとの関連性 This course is conducted in English, and concentrates on IT skills of particular relevance to English majors.

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	1年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This is an introductory course in information processing for English majors. The language of instruction in this course is primarily English, and secondarily Japanese. Wherever possible, English language versions of software are used. This is an introductory course in information processing for English majors.</p>	<p>Don't be shy about asking questions.</p>
到達目標	<p>To acquire intermediate level IT knowledge and skills necessary for student life at the university, and beyond. The foundational computing, networking, web research, data collection, organization, analysis, and presentation skills taught in this course are prerequisite to virtually all professional occupations.</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p># Theme Homework</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Orientation, LMS signup. LMS signup 2 Database management part 1 Database project 3 Database management part 2 Database project 4 Mind mapping part 1 Mind mapping project 1 5 Mind mapping part 2 Mind mapping project 2 6 Spreadsheet formulas Spreadsheet task 7 English through eLearning Evaluation of eLearning 8 Data gathering and analysis Text readings 9 Graphics for presentations Graphics practice 10 Preparation, design and delivery Presentation planning 11 Advanced presentation techniques Presentation practice 12 digital correspondence in English Business letter 13 Intermediate word processing techniques Improve efficiency 14 Word processing for academic papers Preparing research 15 Introduction to VBA programming Practice programming 16 Final exam
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献: Reynolds, Garr. Presentation Zen Atkinson, Cliff. Beyond Bullet Points Any good paper or electronic English Japanese / Japanese English dictionary.</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>This is a hands on active learning style class. Not only study, but extensive practice is necessary to master the skills taught in this course. As each class builds upon what was presented in the previous session, class participation is essential in this course. Students who miss classes are responsible for getting their own lecture notes.</p>
	<p>評価</p> <p>database file 10%, mind maps10% presentation using Powerpoint 30% business letter 5% Final exam 45%</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>英語情報処理Ⅲ、英語情報処理Ⅳ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	真喜志 満	1年	ptt040@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講座の主な目的は、外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する書類を英語で作成する能力を身につける為のコースである。進め方としては、実際の英文書類を教材として、作表やグラフ作成などの演習を行っていく。インターネットも活用するが、使用ソフトはMicrosoft Excelが中心である。	メッセージ 演習にあたっては、単にワープロ感覚で作表するのではなく、パソコンにできる様々なデータ処理機能を活用しながら、それを学んでいくことが大切である。
	到達目標 ・Microsoft Excelの基本的な機能を理解することができる。・Excelで語彙力増強の管理ができる。・基本的な関数を理解・応用できる。・表とグラフを関連させ作成することができる。・Microsoft Officeのアプリケーションを英語学習に応用することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義内容の説明、導入
	2	アドレス帳の作成
	3	単語帳の作成とインターネットの活用
	4	日程表の作成
	5	作表：Co's Report Their Earnings + Mo. Income
	6	作表：Nikkei 225 Futures
	7	作表+グラフ作成：Statistics on Japanese Population
	8	作表+グラフ作成：Expenditure Analysis
	9	複雑な体裁を整える演習：Voice Messaging Matrix
	10	作表：Import Calculation <前編>
	11	作表：Import Calculation <後編>
	12	作表：成績表<前編>
	13	作表：成績表<後編>
	14	特別講義：試験の傾向と対策 + 成績シミュレーション + 授業評価アンケート
	15	期末試験
16	特別講義：提出物・成績最終確認・追加作業	
		時間外学習の内容
		課題：自分の日程表を作成
		課題：人生カレンダー
		予め普通教室を確認のこと

実践	テキスト・参考文献・資料など 使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。図書館所蔵の各種Microsoft Office マニュアル本。
----	---

学びの手立て	前期に習得したブラインドタッチを意識して10本の指で入力することを忘れてはならない。加えて後期は数字の正しい入力方法も意識してほしい。今日与えられた課題は、今日あるいは期限内に提出できるよう一生懸命取り組むこと。長い時間提出が遅れると、よい成績は取れない。欠席した場合は、クラスメイトから欠けた情報を収集すること。
--------	---

評価	席35%、提出物35%、宿題15%、期末試験15%、その他+/-5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。実践的演習を中心に行う授業なので、評価の配分は試験よりも日頃の実践のほうが高い。また、提出期限を過ぎてからの提出物については、一日の遅れにつき1.5ポイントの減点となる。従って、課題を貯めて、期末に提出しても意味がない。とにかく学生は毎回出席して、授業に集中し、与えられた課題をこなして期限内に提出することが望まれる。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 情報処理に興味のある人は、さらに上級の情報処理コースを履修することを推奨する。さらに情報関係の検定にも挑戦してほしい。語学にさらに向学心がある人は、専門科目を深めるとともに、英語の各種検定や資格試験に挑戦することを推奨する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理Ⅲ	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	2年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062	

学びの準備	ねらい この授業では大学に必要な情報処理の基礎知識と技能を身につける。情報アーキテクチャと情報組織化を基礎としたウェブサイトの構築とデザインを学習し、イントラネットやインターネットでユーザに情報を提供する為に必要な知識と技術を習得する。授業でウェブサイトを実際に開発しながら情報処理術を学ぶ。	メッセージ Don't be shy about asking questions.
	到達目標 To acquire intermediate to advanced DTP and web publishing skills, and be able to use those skills in an all English or multi-lingual environment.	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p># Theme Homework</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、LMSの登録 LMSの登録 2 ウェブサイトのしくみ Text reading 3 情報アーキテクチャの概要 1 Text reading 4 情報アーキテクチャの概要 2 Text reading 5 ナビゲーションの設計とラベリングシステム Text reading 6 イラストレーションと画像処理ソフトの入門 Text reading 7 画像処理入門 1 Editing practice 8 画像処理入門 2 Editing practice 9 画像処理入門 3 Editing practice 10 画像処理入門 4 Editing practice 11 画像処理入門 5 Editing practice 12 HTML入門 1: Basic Tags, Links, Lists Editing practice 13 HTML入門 2: Images Editing practice 14 HTML入門 3: Tables Editing practice 15 HTML入門 4: Page Layout Editing practice 16 Final project completion
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献:</p> <ul style="list-style-type: none"> *Rosenfeld and Morville共著, 篠原稔和 監訳、情報アーキテクチャ入門、2002, オライリー・ジャパン. * Steve Krug, ウェブサイトユーザビリティの法則、2001, SoftBank Publishing. * Jesse James Garrett, The Elements of User Experience, New Riders, 2003. * 柘植, 上原, 吉田, 大西, 坂本. Photoshop 操作とデザインの教科書, 2014.
	<p>学びの手立て</p> <p>This is a hands on collaborative project-based class.</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>英語情報処理Ⅳ</p>
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英語情報処理IV	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ダグラス トライスタット	2年	https://bee.okiu.ac.jp/mod/page/view.php?id=7062	

学びの準備	ねらい この授業では大学に必要な英語情報処理の基礎知識と技能を身につける。情報アーキテクチャと情報組織化を基礎としたウェブサイト構築する方法を学習し、イントラネットやインターネットでユーザに情報を提供する為に必要な知識と技術を習得する。	メッセージ Don't be shy about asking questions.
	到達目標 To acquire intermediate to advanced IT graphic editing and publishing skills, and be able to use those skills in an all English or multi-lingual environment.	

学びの準備	到達目標 To acquire intermediate to advanced IT graphic editing and publishing skills, and be able to use those skills in an all English or multi-lingual environment.

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p># Theme Homework</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、LMSの登録 LMSの登録 2 ウェブユーザビリティ、ユーザの調査 Text reading 3 サイトの戦略、規模、と構造 Text reading 4 概念によるビジュアルデザイン Text reading 5 ウェブグラフィックス処理 I Editing practice 6 ウェブグラフィックス処理 II Editing practice 7 ウェブグラフィックス処理 III Editing practice 8 ウェブグラフィックス処理 IV Editing practice 9 ウェブグラフィックス処理 V Editing practice 10 HTML5の革命 Editing practice 11 HTML5のテクニック Editing practice 12 HTML5のテクニック Editing practice 13 HTML5とCSS3 Editing practice 14 Javascript入門 Editing practice 15 ウェブコンテンツのアクセサビリティ Editing practice 16 Final project completion
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J.M. スプール、et. al.、Webサイトユーザビリティ入門、2002、東京電機大学出版局。 ・ ヤコブ・ニールセン、ユーザビリティエンジニアリング原論、2002、東京電機大学出版局 ・ Rosenfeld and Morville共著、篠原稔和 監訳、情報アーキテクチャ入門、1998、オライリー・ジャパン。 ・ Jesse James Garrett, The Elements of User Experience, New Riders, 2003. ・ Steve Krug, ウェブサイトユーザビリティの法則、2001, SoftBank Publishing. ・ 柘植, 上原, 吉田, 大西, 坂本. Photoshop 操作とデザインの教科書, 2014.
	<p>学びの手立て</p> <p>This is a hands on collaborative project-based class.</p>
	<p>評価</p> <p>Quizzes - 20%, Graphics - 30%, Final project - 50%</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米演劇概論	前期	火4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	3年		

学びの準備	ねらい 本講では、英米の演劇史の流れを概観しながら、代表的な作品をいくつか取り上げます。劇作品は小説とは異なり、舞台上で演じられることを前提として書かれているため、セリフを手掛かりにして、立体的な舞台を想像しながら読んでいくという面白さがあります。それぞれの時代の歴史的、文化的特徴について解説を加えながら、演劇の表現形態がどのように変化してきたのかを見ていきます。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目 講義内容の説明 2週目 イギリス中世演劇 3～5週目 シェイクスピアと大衆演劇 6～7週目 サヴォイ・オペラ 8～10週目 風習喜劇：Oscar Wilde の作品読解 11週目 アメリカ大衆演劇 12～14週目 アメリカ家庭演劇：Tennessee Williams の作品読解 15週目 現代演劇
	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布する。 講義のなかで適宜紹介する。
	学びの手立て
	評価 学期末試験60%、授業への貢献度40%

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米詩概論	後期	火4・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	3年		

学びの準備	ねらい 本講では、英米の代表的な詩人たちによる作品をいくつか読みます。日常の使い慣れた言葉では表現しがたい事柄を、英米の詩人たちがどのように表現しているのか、時代背景の理解とともに、探っていきます。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>英米の代表的な詩人の作品をそれぞれ一編ずつ鑑賞する予定です。</p> <p>1週目：講義説明 2週目：詩のコンベンション、リズム 3週目：Edmund Spenser 4週目：William Shakespeare 5週目：John Donne 6週目：Alexander Pope 7週目：William Blake 8週目：S. T. Coleridge 9週目：Nursery Rhyme 10週目：Edgar Allan Poe 11週目：Emily Dickinson 12週目：T. S. Eliot 13週目：Hart Crane 14週目：Elizabeth Bishop 15週目：Sylvia Plath 16週目：試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>プリントを配布します 講義のなかで適宜紹介します</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>学期末試験（60%）、授業への貢献度（40%）</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米小説概論	後期	火3・木3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	2年		

学びの準備	ねらい 本講では、英米の代表的な作家による小説をいくつか取り上げ、表現上の特徴や作風について紹介する。物語の世界を楽しみながら、英米の言語や文化について理解を深めることを目標とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1週目：講義スケジュールの説明 2～3週目：Charlotte Bronte 4～5週目：Charles Dickens 6～7週目：Thomas Hardy 8～9週目：E.M. Forster 10～11週目：Edgar Allan Poe 12～13週目：Mark Twain 14～15週目：J.D. Salinger 16週目：テスト
	テキスト・参考文献・資料など 『イギリス小説入門』川口喬一著（研究者出版） 『英米小説の読み方・楽しみ方』林文代編（岩波書房）
	学びの手立て
	評価 授業への貢献度30%、テスト70%で評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文学概論	前期	火1・金1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英米文学特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山本 伸	3年	yamamoto@yokkaichi-u.ac.jp にて/授業終了後教室にて	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	英米文学を非英米の視点（カリブ海地域、他）から眺めた時に見えてくる現代世界の構造的本質について、観念的、文学的アプローチと歴史的、文化人類学的アプローチを統合することで立体化した総括的概念としてとらえることを第一義とする。第二義的には、視点をさらに日本そして沖縄に絞り込んでいくことで現代世界と自己の関係性について主観的、客観的に考える。	「木を見て森を見ず」にはならないように、現代世界全体における日本、そして沖縄を考えるためのあくまでひとつの素材としてカリブ文学を利用します。カリブ文学を理解することによって沖縄を理解し、現代世界を理解するのが目的ですので、受講者の沖縄の視点は極めて重要です。毎回、沖縄を常に意識しながら講義を進めていきたいと思っています。
到達目標	本専攻のポリシーの四本柱は、1. 実践的な英語運用能力 2. 情報処理技術に関する基礎的知識とその運用能力 3. 英語圏の言語や文化に関する専門的知識 4. 多様な文化的背景を持つ人々と相互に協力し、自立的に判断し行動する力、をそれぞれ身につけることであるので、(1)カリブの英語がどのような特徴を持つのかを学ぶ、次に(2)カリブの社会や文化および習慣や哲学等について知る、さらには(3)それらと沖縄および自己とを連関させることで自己を客体化すると同時に主体化する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/授業説明/その他	
	2	カリブ海地域の歴史と教育①	沖縄の教育の特徴をまとめる
	3	カリブ海地域の歴史と教育②（沖縄のパースペクティブから）	
	4	カリブ海地域の社会、人種、アイデンティティー①	ウチナーンチュとは誰かを考える
	5	カリブ海地域の社会、人種、アイデンティティー②（沖縄パースペクティブ）	
	6	カリブ海地域の文化とコミュニティー①	沖縄のコミュニティーを考える
	7	カリブ海地域の文化とコミュニティー②（沖縄パースペクティブ）	
	8	カリブ海地域の文化と宗教①	沖縄の宗教/しきたりを調べる
	9	カリブ海地域の文化と宗教②（沖縄パースペクティブ）	
	10	クレオリズムとグローカリズム①	チャンバラリズムについて調べる
	11	クレオリズムとグローカリズム②（沖縄パースペクティブ）	
	12	平和①	沖縄から見た平和とは何かを考える
	13	平和②（沖縄パースペクティブ）	
	14	カリブ文学研究の現代的意義	カリブと沖縄の連関性を考える
15	質疑応答/意見交換		
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：山本伸著『カリブ文学研究入門』（世界思想社）/配布プリント 参考文献：山本 伸著『琉神マブヤー—じ読本：ヒーローソフィカル沖縄文化論』（三月社）

学びの手立て	百科全書である文学を通してカリブ海地域のあらゆる概念を全般的に理解することを手始めに、授業を重ねていくうちにカリブと沖縄の連関性を深く意識することで、沖縄に生きる諸君が「自己」を分析、理解できるように持っていければと思っています。授業（および課題メール）では深みのある内容の意見交換や議論をぜひともしたいと思っているので積極的な取り組みの姿勢と発信ができるようご準備願います。
--------	--

評価	課題メール等に関する積極性25%、受講態度25%、試験50%
----	--------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 カリブ文学・文化に限らず、異文化・異文学を学ぶことは必ず事故へと還元されることを忘れないで、最終的には卒業論文に向けての総論的視点（より広い視野での現代世界観、他者との関連性を通しての自己、現代社会と沖縄、文化と社会、等々）を意識した研究姿勢へとつなげてほしいと思います。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期	月1・木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	学びの手立て

学びの実践	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期	月1・木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ジョンソン ハッチャー	1年	hatcher_john@hotmail.com	

学びの準備	ねらい The aim of this class is to get students speaking more fluently and naturally in English, and feeling more confident in doing so.	メッセージ Please use this class as your chance to practice English speaking, and don't be afraid to express your feelings and opinions.
	到達目標 Students will be asked to participate in individual, pair and group work, and will also give presentations in front of the class. We will use the textbook "Communication Strategies I" during the semester, and the final test will be an interview test based on the vocabulary within.	

学びの準備	ねらい The aim of this class is to get students speaking more fluently and naturally in English, and feeling more confident in doing so.	メッセージ Please use this class as your chance to practice English speaking, and don't be afraid to express your feelings and opinions.
	到達目標 Students will be asked to participate in individual, pair and group work, and will also give presentations in front of the class. We will use the textbook "Communication Strategies I" during the semester, and the final test will be an interview test based on the vocabulary within.	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Friends	90分
	2	Friends	90分
	3	Free Time	90分
	4	Free Time	90分
	5	The Past	90分
	6	The Past	90分
	7	The Family	90分
	8	The Family	90分
	9	Work	90分
	10	Work	90分
	11	City Life	90分
	12	City Life	90分
	13	Beliefs	90分
	14	Beliefs	90分
	15	Mid-term test	90分
	16	The Future	90分
	17	The Future	90分
	18	Transportation	90分
	19	Transportation	90分
	20	Vices	90分
	21	Vices	90分
	22	Marriage	90分
	23	Marriage	90分
	24	Animals	90分
	25	Animals	90分
	26	Computers	90分
	27	Computers	90分
	28	The Generation Gap	90分
	29	The Generation Gap	90分
30	Travel	90分	
31	Final test	90分	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など Communication Strategies I by David Paul</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て Please bring a notebook, writing implements and the textbook to the class.</p>
	<p>評価 Active participation in class during the semester: 70%, Mid-term test: 10%, Final test: 20%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 This is a mandatory class for English students.</p>

※ポリシーとの関連性 Students should have fun, make new friends and speak as much English as possible.

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期	月1・木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	1年	peter@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい In this course I aim to encourage students to become more confident speakers of English. In doing so I use a variety of low-stress activities, usually involving pair or group work, and co-operative (and hopefully fun) activities which require students to use the language they know.	メッセージ Students who have studied English abroad, who speak English at home or have passed Eiken level two are encouraged to take the Craig Jabobsen's Challenge class.
-------	---	--

到達目標 To create a supportive environment for students to use English in small groups and pairs and provide motivating activities for students to gain confidence and motivation.
--

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) See text book
-------	--

テキスト・参考文献・資料など Marathon Mouth Plus. Paul Shimizu & Brent Gaston
--

学びの手立て Practice everyday English and communicate outside as well as inside the classroom.
--

評価 This is likely to be based on attendance and participation, informal interviews, and homework assignments designed to prepare for or reinforce class activities.
--

学びの継続 次のステージ・関連科目 Oral Communication 2&3, English for Special Purposes, Discussion, Debate, Public Speaking.
--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期	月1・木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ペビンソン サイモン	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい Students will develop their ability to have informal conversations on familiar topics, asking questions and giving information about their own interests, likes and dislikes.	メッセージ This is a great fun class, with lots and lots of talking so you'll get lots of conversation practice.
	到達目標 By the end of this course students will be able to give a detailed self-introduction, and interview a partner about their live, likes and dislikes. Students will have developed their ability to talk at length in English, and will have become very proficient at asking, understanding, and answering questions.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	First meetings	None
	2	How are you (communicative answers)	None
	3	Free time 1 - listening	None
	4	Free time 2 - basic conversation	prepare content
	5	Free time 3- detailed conversation	none
	6	Free time 4 - free conversation	none
	7	Occupations and part-time jobs - listening	prepare content
	8	Occupations and part-time jobs - conversation	none
	9	Review 1	none
	10	Review 2	none
	11	Can and can't 1 - listening	none
	12	Can and can't 2 - basic conversation	none
	13	Can and can't 3 - advanced conversation	prepare content
	14	Time 1 - listening	none
	15	Time 2 - conversation	none
	16	Daily routine 1 - listening	none
	17	Daily routine 2 - basic conversation	prepare content
	18	Daily routine 3 - advanced conversation	none
	19	Like 1 - listening	none
	20	Like 2 - basic conversation	none
	21	Like 3 - advanced conversation	prepare content
	22	Past 1 - listening	none
	23	Past 2 - basic conversation	none
	24	Past 3 - advanced conversation	prepare content
	25	Past 4 - free conversation	none
	26	Future 1 - listening	none
	27	Future 2 - basic conversation	none
	28	Future 3 - advanced conversation	prepare content
	29	Review 1	none
	30	Exam practice	practice
31	Exam	none	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>There is no textbook for this course - instead we will use photocopied materials prepared by me.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>This course is all about talking in English, in groups and partners. So please come ready to try your best to talk in English only for all the talking activities.</p>
	<p>評価</p> <p>Students will be assessed on their attendance, participation in classroom activities, and their performance on a final exam where they will have a short self-introduction conversation with me.</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>Oral Communication II</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication I	前期	月1・木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジャコブソン	1年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This course is designed to help first year students improve their English speaking and listening skills and their overall ability to communicate.	メッセージ Students must bring their textbook and a notebook to every class.
	到達目標 Develop autonomous learners	

学びの準備	到達目標 Develop autonomous learners
-------	-------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	Listening & vocabulary practice
	2	Unit 1 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	3	Unit 2 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	4	Unit 3, Presentations & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	5	Unit 4 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	6	Unit 5 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	7	Unit 6 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	8	Unit 7, Interviews & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	9	Unit 8 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	10	Unit 9 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	11	Unit 10, Presentations & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	12	Unit 11 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	13	Unit 12 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	14	Unit 13 & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
15	Unit 14, Presentations & Listening Tests	Listening & vocabulary practice	
16	Interview Tests	Listening & vocabulary practice	
	テキスト・参考文献・資料など Shimizu, P. & Gaston, B. Marathon Mouth Plus, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)		
	学びの手立て Regular attendance and a willingness to communicate in English are crucial for this class.		
	評価 Students will be evaluated based on their attendance, class participation, oral presentations and a variety of listening exams. Students should note that there are no makeup exams for listening exams that they might miss. Missing one listening exam, however, will not have any impact on one's final grade.		

学びの継続	次のステージ・関連科目 Oral Communication II
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	東恩納 ミシエル	1年	higaonna@okinawa-u.ac.jp	

学びの準備	ねらい Students to increase ability to converse and communicate in English. Listening, speaking, pronunciation and vocabulary acquisition focus.	メッセージ I hope you will Enjoy improving your English speaking ability through taking this class. You can learn useful language that you can use in everyday situations in English.
	到達目標 Students will improve their English speaking ability. Class provides extended listening and speaking practice for students where students actively participate in meaningful exchanges during pair work and group work. Focus is on listening and speaking proficiency.	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Greetings and Introduction to the class	Preview lesson
	2	Geographical regions, Food staples, Climate	Review lesson
	3	""	Preview lesson
	4	Culture, communication, gestures	Review lesson
	5	""	Preparation
	6	Presentation 1	Preview lesson
	7	City life and maps	Review lesson
	8	""	Preview lesson
	9	Human organs, parts of the body, ailments	Review lesson
	10	""	Preview lesson
	11	Physical and mental challenges	Review lesson
	12	""	Preparation
	13	Presentation 2	Preview lesson
	14	Stages of Life	Review lesson
	15	""	Preview lesson
	16	Luxury Items, Import / Export	Review lesson
	17	""	Preview lesson
	18	Animals / Nature/ Adverbs of manner	Review lesson
	19	""	Preview lesson
	20	The past, history	Review lesson
	21	""	Preview lesson
	22	Travel, vacations and the airport	Review lesson
	23	""	Preview lesson
	24	Careers	Review lesson
	25	""	Preview lesson
	26	Festivals, holidays, Celebrations	Review lesson
	27	""	Consolidation
	28	Consolidation	Consolidation
	29	Review and Practice	Prep for Exam
30	Review and Practice	Prep for Exam	
31	Final Exam		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など World English 2 Heinle Cengage Learning. ISBN 978-1-4240-5091-8, Listening Homework handout</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て Presentations must be prepared outside of class. Powerpoint slides are required. Groups will need to practice outside of class.</p>
	<p>評価 1. Two oral presentations 20% each 2. Attendance and participation 30% 3. Final presentation 20% 4. 10 hours listening 10%.</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 Increasing ability to converse, improving listening, speaking, pronunciation and vocabulary acquisition as well as presentation skills will be used in future student careers.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ジョンソン ハッチャー	1年	hatcher_john@hotmail.com	

学びの準備	ねらい The aim of this class is to get students speaking more fluently and naturally in English, and feeling more confident in doing so.	メッセージ Please use this class as your chance to practice English speaking, and don't be afraid to express your feelings and opinions.
	到達目標 Students will be asked to participate in individual, pair and group work, and will also give presentations in front of the class. We will use the textbook "Communication Strategies I" during the semester, and the final test will be an interview test based on the vocabulary within.	

学びの準備	ねらい The aim of this class is to get students speaking more fluently and naturally in English, and feeling more confident in doing so.	メッセージ Please use this class as your chance to practice English speaking, and don't be afraid to express your feelings and opinions.
	到達目標 Students will be asked to participate in individual, pair and group work, and will also give presentations in front of the class. We will use the textbook "Communication Strategies I" during the semester, and the final test will be an interview test based on the vocabulary within.	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Friends	90分
	2	Friends	90分
	3	Free Time	90分
	4	Free Time	90分
	5	The Past	90分
	6	The Past	90分
	7	The Family	90分
	8	The Family	90分
	9	Work	90分
	10	Work	90分
	11	City Life	90分
	12	City Life	90分
	13	Beliefs	90分
	14	Beliefs	90分
	15	Mid-term test	90分
	16	The Future	90分
	17	The Future	90分
	18	Transportation	90分
	19	Transportation	90分
	20	Vices	90分
	21	Vices	90分
	22	Marriage	90分
	23	Marriage	90分
	24	Animals	90分
	25	Animals	90分
	26	Computers	90分
	27	Computers	90分
	28	The Generation Gap	90分
	29	The Generation Gap	90分
30	Travel	90分	
31	Final test	90分	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など Communication Strategies I by David Paul</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て Please bring a notebook, writing implements and the textbook to the class.</p>
	<p>評価 Active participation in class during the semester: 70%, Mid-term test: 10%, Final test: 20%</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 This is a mandatory class for English students.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-フィリップス O グレヴィル	1年		

学びの準備	ねらい Students will develop confidence and ability in their use of oral English communication in relation to everyday topics and situations.	メッセージ Come to this class and enjoy lots of talking!
	到達目標 The emphasis of this class is on effective oral communication. Learning to focus on getting one`s message across and understanding the gist of others when listening.	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Teacher and student self-introductions	Homework will
	2	Course overview. 50-50 introductory lesson	be based on
	3	Self profile and making friends	using English
	4	Speaking about other people	outside the
	5	50-50, U.1: Can you speak English?	classroom.
	6	Review future tense	
	7	Review past tense	There will be
	8	More past tense	little written
	9	Questions: Who, what, why?	homework.
	10	Free Time: What do you do?	
	11	Time - digital and fractional	
	12	Time 2	
	13	Time 3	
	14	Part-time job 1	
	15	Part-time job 2	
	16	Daily Routine 1	
	17	Daily Routine 2	
	18	Review lesson 1	
	19	Review lesson - presentations	
	20	Names of household items and locators	
	21	More objects and places	
	22	Like/dislike, love/hate	
	23	Past tense and 3rd person	
	24	3rd person 2 - Who is it?	
	25	3rd person 3 - adjectives. Describing people	
	26	Presentation Assessment- family members	
	27	Talking about family	
	28	Back to the future tense	
	29	Review and test preparation	
30	Test 1 - Interviews		
31	Test 2 - Interviews		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など "Fifty-Fifty" Book One (green cover) 3rd edition by Warren Wilson and Roger Barnard.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て Assessment will be based on participation, four speaking presentations throughout the semester and a final interview test.</p>
	<p>評価</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 Oral Communication III</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	クレイグ K ジェコブソン	1年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This course is designed to help students improve their English speaking and listening skills and their overall ability to communicate.	メッセージ Students must bring their textbook and a notebook to every class.
	到達目標 Develop autonomous learners	

学びの準備	到達目標 Develop autonomous learners
-------	-------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	Listening & vocabulary practice
	2	Useful English & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	3	Introductions & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	4	What Do You Do? & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	5	Day to Day & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	6	Where Are We? & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	7	Talking about Families & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	8	What Are You Interested In? & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	9	Talking about the Past & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	10	Looking at People & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	11	This One? That One? & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	12	I've Got a Feeling & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	13	Let's Go Shopping & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	14	That's Entertainment & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
	15	Dreams and Fantasies & Listening Tests	Listening & vocabulary practice
16	Final Interview Tests	Listening & vocabulary practice	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など Thompson, P. & Chase, C. Natural Speaking, Intercom Press (Available at Asano Bookstore)
	学びの手立て Regular attendance and a willingness to communicate in English are crucial for this class.

学びの実践	評価 Students will be evaluated based on their attendance, class participation, oral presentations and a variety of listening exams. Students should note that there are no makeup exams for listening exams that they might miss. Missing one listening exam, however, will not have any impact on one's final grade.
	次のステージ・関連科目 Oral Communications III

学びの継続	次のステージ・関連科目 Oral Communications III
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication II	後期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ジヨン ターバート	1年	ptt500@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This class is designed to improve students' speaking and listening skills as well as their overall ability to communicate effectively in English in real-life situations.	メッセージ In this class you will learn many useful expressions to help you to become better at speaking English. You will have many chances to speak English in pairs and groups.
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> You will be able to speak more smoothly and naturally. You will learn and be able to use in conversation a variety of useful vocabulary words. You will be able to give a short presentation in English. 	

学びの準備	ねらい This class is designed to improve students' speaking and listening skills as well as their overall ability to communicate effectively in English in real-life situations.	メッセージ In this class you will learn many useful expressions to help you to become better at speaking English. You will have many chances to speak English in pairs and groups.
	到達目標 <ul style="list-style-type: none"> You will be able to speak more smoothly and naturally. You will learn and be able to use in conversation a variety of useful vocabulary words. You will be able to give a short presentation in English. 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Self-introductions	Buy text/file
	2	Useful English	Useful English
	3	Useful English	Useful English
	4	Unit 2 (Jobs)	Jobs
	5	Jobs	Jobs
	6	Unit 3 (Time)	Time
	7	Unit 3 (Time)	Body language
	8	Speech format	Time/numbers
	9	Numbers	Numbers
	10	Prepositions of place	Prep. of place
	11	Unit 4 (Prepositions of place)	Prep. of place
	12	Unit 4 (Prepositions of place)	Prep. of place
	13	Unit 5 (Family)	Family
	14	Unit 8 (Describing people)	Vocabulary
	15	Unit 8 (Describing people)	Self-evaluations
	16	Vocabulary about personality	Vocabulary
	17	Listening midterm	Personality
	18	Unit 6 (Likes/dislikes)	Likes/dislikes
	19	Unit 6 (Reactions)	How often
	20	How often	How often
	21	Unit 10 (Emotions)	Emotions
	22	Unit 10 (Emotions)	Emotions
	23	Unit 10 (Emotions)	Emotions
	24	Unit 12 (Adjectives)	Adjectives
	25	Winter vacation activity	Adjectives
	26	Health problems	Health problems
	27	Unit 14 (Health problems)	Health problems
	28	Unit 14 (Health problems)	Interview prep
	29	Interview test	Interview prep
30	Interview test	Review	
31	Listening test/self-evaluations		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Natural Speaking (Intercom Press) will be used, as well as handouts. Students should bring dictionaries (paper or electronic) to class. Cell phone dictionaries cannot be used in class.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> • More than 30 minutes late to class= 1 absence • Being late twice= 1 absence • Less than 66% attendance= 不可 • Students should use English in class as much as possible. Students who repeatedly speak in Japanese will receive 不可. • Syllabus is subject to change.
	<p>評価</p> <p>Quizzes/listening tests (50%) Interview test (20%) Participation/pair and group work/homework (10%) Attendance (10%) Presentation (10%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>Students should continue working to improve their communication skills in Oral Communication III.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-フィリップス O グレヴィル	2年		

学びの準備	ねらい Students will build on basic skills to increase ability and confidence in their use of English for routine situations.	メッセージ We will do lots of talking and listening in class. With practice, your English ability will improve over this semester.
	到達目標 The emphasis of this class is upon effective oral communication with intensive practice of listening skills, vocal production and oral interaction.	

学びの準備	到達目標 The emphasis of this class is upon effective oral communication with intensive practice of listening skills, vocal production and oral interaction.
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introductions and Asking for information I	none
	2	Asking for information II	none
	3	Describing things I	none
	4	Describing things II	none
	5	Making requests I	none
	6	Making requests II	none
	7	Giving instructions I	none
	8	Giving instructions II	none
	9	Review Lessons 1-8	Review/prepare
	10	Solo speaking assessment	none
	11	Asking for permission I	none
	12	Asking for permission II	none
	13	Making excuses and giving reasons I	none
	14	Making excuses and giving reasons II	none
	15	Giving opinions I	none
	16	Giving opinions II	none
	17	Comparing things I	none
	18	Comparing things II	none
	19	Review Lessons 1-18	Review/prepare
	20	Pair presentation assessment	none
	21	Giving advice and making suggestions I	none
	22	Giving advice and making suggestions II	none
	23	Talking about experiences I	none
	24	Talking about experiences II	none
	25	Inviting I	none
	26	Inviting II	none
	27	Making predictions I	none
	28	Making predictions II	none
	29	Review lessons 1-28	Review/prepare
	30	Test - interview	Review/prepare
31	Test - interview	none	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Book Two, 3rd edition (red cover) from the "Fifty-Fifty" series. Edited by Warren Wilson and Roger Barnard.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>Although there is no written homework, students will be expected to practice with native speakers at every opportunity. This class will prepare students for those situations.</p>
	<p>評価</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-東恩納 ミシェル	2年	higaonna@okinawa-u.ac.jp	

学びの準備	ねらい Students will engage in basic conversations, ask and answer questions on conversational topics, speak about personal and everyday topics, and give their opinions.	メッセージ I hope you will Enjoy improving your English speaking ability through taking this class. You can learn useful language that you can use in everyday situations in English.
	到達目標 Students will improve their English speaking ability. Class provides extended listening and speaking practice for students where students actively participate in meaningful exchanges during pair work and group work. Focus is on listening and speaking proficiency.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Getting Started Personal Information	Preview lesson
	2	Asking for Information	Review lesson
	3	""	Preview lesson
	4	Describing Things	Review lesson
	5	""	Quiz prep
	6	Quiz 1	Preview lesson
	7	Making Requests	Review lesson
	8	Giving Instructions	Preview lesson
	9	""	Review lesson
	10	Asking for permission	Review lesson
	11	""	Preview lesson
	12	Making Excuses and giving reasons	Review lesson
	13	""	Preview lesson
	14	Giving Opinions	Review lesson
	15	""	Quiz prep
	16	Quiz 2	Preview lesson
	17	Comparing Things	Review lesson
	18	Giving Advice and Making Suggestions	Review lesson
	19	""	Preview lesson
	20	Talking about Experiences	Review lesson
	21	""	Preview lesson
	22	Inviting	Review lesson
	23	""	Quiz prep
	24	Quiz 3	Preview lesson
	25	Making Predictions	Review lesson
	26	""	Preview lesson
	27	Personal Goals and Dreams	Review lesson
	28	""	Homework Due
	29	Homework Due / Consolidation	Consolidation
	30	Review and Practice	Exam prep
31	Final Exam		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Fifty-Fifty Book Two Third Edition ISBN 978-962-00-5666-6</p> <p>Online Listening Homework Handout</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>Quizzes and exams must be prepared for outside of class. Homework requires 10 hours outside of classes.</p>
	<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Three brief dialog or other oral presentations 10% each 2. Attendance & participation 30% 3. Final interview exam 30% 4. 10 hours listening 10%
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>Basic conversations, asking and answering questions, speaking about personal and everyday topics, and giving opinions will be used in future careers.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ケイト オカラハン	2年		

学びの準備	ねらい This course is designed for students to enhance their existing language skills, and gradually over the course of the semester, build up their vocabulary through a range of discussions, and presentation activities. The title of the course indicates that all students will frequently have to voice opinions and speak English throughout the semester.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など Text will be announced on the first day of class
	学びの手立て
	評価 Grades will be based on attendance, in class participation, and semester long continuous assessment.

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	デビッド レイフィールド	2年	ds.layfield@gmail.com	

学びの準備	ねらい To speak English with more confidence and fluency.	メッセージ
	到達目標 To speak English with more Confidence; to use a bigger English Vocabulary; to understand spoken English better; to talk about your opinions and ideas in English.	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	
	2	Unit 1: Have You Two Met?	
	3	Unit 2: You Must be Excited	
	4	Unit 3: Going Places	
	5	Unit 4: I Love That!	
	6	Unit 5: Why?	
	7	Unit 6: What's it Like There?	
	8	Unit 7: Do You Remember When?	
	9	Unit 8: Making Plans.	
	10	Unit 9: What should I do?	
	11	Unit 10: Tell Me a Story.	
	12	Unit 11: In My Opinion.	
	13	Unit 12: Looking Ahead.	
	14	Review	
	15	Review	
	16	Final Tests	
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			

学	<p>テキスト・参考文献・資料など M. Helgessen, S. Brown & T. Mandeville English Firsthand 2, New Gold Edition. Pearson Longman 2008.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価 Participation in class 30%; Quizzes and Exercises 10%; Mid-term Test 30%; Final Test 30%.</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 After finishing this class, students should be able to take advanced communication classes.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Oral Communication III	前期	月2・木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ジョン カーバート	2年	ptt500@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This class is designed to: improve students' speaking and listening skills prepare students to be able to use English at work, when traveling and when talking with foreigners	メッセージ In this class you will learn how to better communicate with foreigners. You will learn many useful expressions and practice using those expressions in conversation.
	到達目標 ・You will learn many expressions used in daily life and in business situations. ・You will be able to give presentations in English. ・You will be able to give your opinion and have discussions. ・You will be able to talk about your culture in English.	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Self-introductions	Useful English
	2	How to give a speech	1st draft
	3	Prepare speech	Speech
	4	Present speech	Making requests
	5	Making requests	Making requests
	6	Asking for permission	Permission
	7	Asking for permission	Requests/perm.
	8	Requests/permission	Borrow/lend
	9	Giving advice/making suggestions	Advice
	10	Giving advice/making suggestions	Advice
	11	Making excuses/giving reasons	Excuses/reasons
	12	Making excuses/giving reasons	Excuses/reasons
	13	Conversational expressions	Expressions
	14	Conversational expressions	Expressions
	15	Making plans	Making plans
	16	Self-evaluations	Telephone
	17	Telephone skills	Telephone
	18	Telephone skills	Telephone
	19	Giving opinions	Opinions
	20	Giving opinions	Opinions
	21	Giving opinions	Opinions
	22	Discussion	Discussion
	23	Discussion	Discussion
	24	Discussion	Interview prep
	25	Describing Japanese things	Speech prep
	26	Describing Japanese things	Interview prep
	27	Interview test	Interview prep
	28	Interview test	Speech prep
	29	Speech	Speech prep
30	Speech	Review	
31	Review/self-evaluations		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>There is no assigned textbook for this class. The instructor will provide materials to be used in class. You will need to buy an A4 clear file folder to organize your handouts. Students should bring an English-Japanese/Japanese-English dictionary (paper or electronic) to class. Cell phone dictionaries cannot be used in class.</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> • More than 30 minutes late to class= 1 absence • Being late twice= 1 absence • Less than 66% attendance= 不可 • Students should use English in class as much as possible. Students who repeatedly speak in Japanese will receive 不可. • Syllabus is subject to change.
	<p>評価</p> <p>Quizzes (40%) Interview test (20%) Presentations (20%) Participation/pair and group work/homework (10%) Attendance (10%)</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>Students should continue working on improving their communication skills. By reviewing and building on the skills learned in this class, students will be able to work using English after graduation.</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光英語	前期	月1・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ケイト オカラハン	3年		

学びの準備	ねらい Students enrolled in this class will learn about different facets of the tourism industry and markets in Okinawa. The skills learned will include schedule coordination, tour planning and design and how to facilitate diverse target markets of sightseers visiting Okinawa.	メッセージ This is a team work class that will replicate the work environment. Full dedication to other team members is important to reach goals.
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など There is no prescribed text for this class. The students create the content by deciding which tourism sector to focus on. They will work through the course structure with this market sector in mind.
	学びの手立て
	評価 Active participation is required. Therefore being late and absent will detract from the possibility of full participation. Being present every class will not guarantee a passing grade. Team work and timely assignment submission is highly valued.

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 観光分野において活用できる実用的な科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光英語	前期	月1・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-東 菜美	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 観光業界での、専門的な用語や独特な言い回しを学び、旅行会社・ホテル・航空会社・レストラン等の観光事業に従事する上で役に立つ英語の能力を身に付ける。	メッセージ 毎回、観光に関わる場面やテーマ（空港搭乗手続き・機内サービス・レストランのメニュー・ホテル内のトラブル・ドレスコード等）を決めて、丁寧に解説します。この講義をきっかけに、沖縄の基幹産業である観光産業について理解が深まると嬉しいです。また、国内外の観光地の紹介や、観光事情、文化事情もお話ししますので、旅行に対する不安が解消し、きっと旅行に行きたくなります！
	到達目標 ・旅行や観光の際のさまざまな場面での説明を英語で行うことができる。 ・海外、国内の観光・地理・文化事情を英語で紹介できる。 ・観光英語検定の問題演習も行うので、受験、合格も目標にして欲しい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス、オリエンテーション、観光概論	シラバスをよく読むこと
	2	航空業界	テキスト第1章 予習、復習
	3	日本の航空会社と機内サービス	同上
	4	空港業務	テキスト第2章 予習、復習
	5	出入国審査	同上
	6	ホテル	テキスト第3章 予習、復習
	7	中間試験、ホテル	同上
	8	ショッピングと通貨	テキスト第4章 予習、復習
9	世界の観光地	同上	
10	世界遺産	テキスト第5章 予習、復習	
11	レストラン	テキスト第6章 予習、復習	
12	マナー	テキスト第7章 予習、復習	
13	世界の料理	テキスト第8章 予習、復習	
14	さまざまな旅行トラブル	テキスト第9章 予習、復習	
15	日本の観光地	テキスト第10章 予習、復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト 「ツアーコンダクターの英語 English for Tour Leaders Overseas」JTB総合研究所 参考文献 沖縄県観光学習教材ワークブック 沖縄県観光商工部観光振興課 数字が語る旅行業 社団法人日本旅行業協会		
	学びの手立て ・遅刻厳禁、予習復習を行い、熱心な参加を求める ・提出期限を過ぎた課題、他人の内容を写したレポートは受け取らない		
	評価 期末試験50%、中間試験30%、レポート10%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 観光英検は年に2回実施されます。講義内容が2級の試験範囲に関連する項目も多いため、試験対策にもなります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい レポートの作成・発表、スピーチ等の活動を通して日本語・英語による文章力、発表力・表現力の向上を目指します。	メッセージ クラスメートと協同して大学生活に慣れよう。
	到達目標 (1) 大学生としての基本的な学習態度を身につける (2) 読解力・発表力・表現力（日本語、英語）の向上を目指す	

学びの準備	到達目標 (1) 大学生としての基本的な学習態度を身につける (2) 読解力・発表力・表現力（日本語、英語）の向上を目指す

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	Orientation (シラバス説明、班・席・役員決め)
	2	前期学習計画作成
	3	Group Discussion, Group Presentationについて
	4	グループ課題発表
	5	図書館利用オリエンテーション (変動あり)
	6	スピーチコンテストについて、原稿作成
	7	Speech (1)
	8	Speech (2)
	9	キャリアガイダンス (変動あり)
	10	Speech Contest Demonstration
	11	Book Report 1 (Oral Presentation)
	12	Book Report 2 (Oral Presentation)
	13	先輩講話 (変動有)
	14	English Drill 1
	15	English Drill 1
16	Book Report 2 (Written Report)、ポートフォリオ提出、アンケート	
		時間外学習の内容

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜配布します。 授業の中で紹介します。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 情報収集（調査、読書）と発表（グループ・ペア・個人発表、学級英語スピーチコンテスト）、英語演習が主な活動となります。
-------	--

学びの実践	評価 授業態度（出席状況、発言）、発表、スピーチ、ポートフォリオ（ブックリポート、ワークシート、発表記録、その他配付資料）を総合的に評価します。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習II
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前澤 大樹	1 年	h.maezawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、基礎演習IIと合わせて、大学で高度で専門的な内容を学んでいく上で必要な「論理的に考える力」の基礎を養い、それと結び付く正確な読解力・適切な表現力・議論力を身に付けることを目指す。論理的な段落構成から始めて受講者間での討論や議論、グループ単位での発表を行い、それを文章にまとめたレポートを作成する。	大学で学ぶ上では、分野や扱う対象を問わず、自発的に迫り及して調べ考えようとする能動的な姿勢と、学んだことを応用する力、自らの考えを伝える能力が非常に重要です。今後より高度で専門的な学習を行うための土台を築けるよう、授業での活動を通してこのような取り組み方に十分に慣れ、大学生としての基本的な技能をしっかりと身に付けて欲しいと思います。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋道立って書かれた文章を読み、その論理構成と論旨を正確に把握できる。 2. 自らの考えを整理・再構成し、順序立てて論理的に述べることができる。 3. 妥当な根拠に基づいて意見や主張に賛成・反対し、また論点を明らかにして議論することができる。 4. 論旨が明快で説得力のある効果的な発表を行うことができる。 <p>*下記の進行日程はあくまで目安であり、受講者の理解度・達成度や活動実施状況により、実施内容を含め予定を変更する場合があります。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業概要と学習の進め方、導入	配布資料を読んでおく
2	段落の基本構造と段落構成(1)	小課題、配布資料を読んでおく	
3	段落構成の実践(1)、段落構成(2)	小課題、配布資料を読んでおく	
4	段落構成の実践(2)、段落構成(3)	小課題、配布資料を読んでおく	
5	小論の論旨と論理的構成を把握する	小課題、配布資料を読んでおく	
6	意見に賛成/反対する	小課題、配布資料を読んでおく	
7	主張の補強：適切な論拠の提示	小課題、配布資料を読んでおく	
8	複数意見の比較：課題の特定と検討	小課題、討論の準備	
9	小論を読んだの討論演習	議論の準備	
10	より自由な議論(1)	議論の準備	
11	より自由な議論(2)	小課題、発表テーマ選定準備	
12	グループ発表に向けて	グループ発表の準備	
13	グループ発表と全体での議論(1)	グループ発表の準備	
14	グループ発表と全体での議論(2)	グループ発表の準備	
15	グループ発表と全体での議論(3)	レポート作成の準備	
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など		
	配布資料を使用。 参考文献は、必要に応じ適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回までの配布物や必要な資料、また必要に応じて辞書等も必ず持参すること。 2. ほぼ毎回、何らかの小課題を出すことになると思われるが、提出を求めない場合(次回までに読む・調べる・考えてくる等)も必ず実施すること。実施しなかった場合、翌週以降の活動に支障を来す可能性がある。 3. 務めて積極的に活動に参加し、また進んで発言や質問を行うこと。議論等での活発な姿勢は他の受講者の向上にも貢献し、全体にとっての利益となる。 <p>*授業ではMoodleを用いた活動も行うため、初回授業時にコースへの登録を行う。</p>		
	評価		
	(1) グループ発表：30%、(2) レポート：25%、(3) 課題・質問・コメント等：45% の配分で得点を計算し、評価を決定する。但し、活動状況等に特筆すべき点(良い面・悪い面とも)がある場合は、±10%を上限として加点・減点を行う。また、出席回数が全体の2/3 (10回)に満たない場合は、その時点で不可とする。この際、遅刻・早退は1/3欠席として扱う(何れも30分以内。それ以上の遅刻・早退は欠席)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	後期開講の基礎演習IIは基礎演習Iと連続した内容を扱っており、原則的に続けて履修すること。また、この授業で学んだ取り組み方と基礎的技能は、他の様々な科目を履修する際に是非効果的に活かして欲しい。

※ポリシーとの関連性

国際化・情報化時代に対応できる人材の育成を目指し、日本語での4技能の力を十分に備え、さらに英語でも表現できるようになる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	1年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「読む」「書く」「話す」「聞く」の四技能の実践的な練習を通じて、大学で学ぶための必要な「日本語力」の育成を目標とする。個人発表、グループ発表の際には、レジュメを準備し内容を簡潔に明瞭にまとめ、分かりやすく話す。また、指定されたテキストを読み、それぞれのグループで大意とテーマをまとめ、発表し、それをもとに、全員でディスカッションを行う。	お互いに学び合い、楽しいゼミにしましょう。「4年間の大学生活は1年生のスタートにあり」です。目標を見つけ有意義な日々を過ごすための土台作りです。
到達目標	個人発表では、好きなテーマに関して調べ、発表し、お互いに意見を交換し合うことができる。グループ発表では、ピア活動によって仲間同士が協力的に学習を行いながら、知識を探究することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション（講義概要説明等）、登録の確認等	
2	自己紹介		
3	ベアーによるインタビュー		
4	個人発表 1		
5	図書館オリエンテーション（全1年次対象）		
6	個人発表 2		
7	個人発表 3		
8	キャリアガイダンス（全1年次対象）		
9	個人発表 4		
10	グループ発表 1		
11	先輩講話（全1年次対象）		
12	グループ発表 2		
13	留学生たちとの交流会		
14	グループ発表 3		
15	グループ発表 4		
16	ゼミ合宿（東村セミナーハウスへ）		
	テキスト・参考文献・資料など		
	配布資料と参考文献を中心に講義を行う。 参考図書リストをクラスで配布する。		
	学びの手立て		
	新聞記事、本をたくさん読みましょう。情報収集をして知識を蓄えていきましょう。仲間同士で話し合い、互いに学び合うことにより、良い社会的関係を築いていきましょう。		
	評価		
	総合的に評価するが、特に平常点を重視する。よって出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「基礎演習 I」を履修した後は、「基礎演習 II」を必ず履修すること。
-------	--

※ポリシーとの関連性 大学で学ぶために必要な基礎力を身に付ける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本演習では、「読む」「書く」「調べる」「発表する」といった4技能を磨くことにより、大学で学ぶために必要な基礎力の養成を図る。	メッセージ ほぼ隔週で課題を提出してもらいます。コツを掴むための練習だと思って積極的に取り組んでください。
	到達目標 主に日本語の読解力、表現力を向上させる。	

学びの準備	到達目標 主に日本語の読解力、表現力を向上させる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録確認、自己紹介	
	2	大学生としての心構え①	
	3	大学生としての心構え②	
	4	「読む」ポイント&要約練習	
	5	「読む」ポイント&要約練習	
	6	「書く」ポイント&課題①	
	7	課題①の講評	
	8	「書く」ポイント&課題②	
	9	課題②の講評	
	10	「書く」ポイント&課題③	
	11	課題③の講評	
	12	「書く」ポイント&課題④	
	13	課題④の講評	
	14	レポートの書き方	
15	まとめ		
16	最終課題提出		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布する。
-------	------------------------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 課題の内容と提出状況によって評価する。
-------	---------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前澤 大樹	1年	h.maezawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅰから引き続き、大学で高度で専門的な内容を学んでいく上で必要な「論理的に考える力」の基礎を養い、それと結びつく正確な読解力・適切な表現力・議論力を身に付けることを目指す。前期の内容を更に発展的に応用し、中間・最終2回の個人発表を行う。複数の文献を参照・比較し、自らの結論を導き、その内容をまとめたレポートを作成する。	大学で学ぶ上では、分野や扱う対象を問わず、自発的に迫り及して調べ考えようとする能動的な姿勢と、学んだことを応用する力、自らの考えを伝える能力が非常に重要です。今後より高度で専門的な学習を行うための土台を築けるよう、授業での活動を通してこのような取り組み方に十分に慣れ、大学生としての基本的な技能をしっかりと身に付けて欲しいと思います。
到達目標	1. 筋道立って書かれた文章を読み、その論理構成と論旨を正確に把握できる。 2. 自らの考えを整理・再構成し、順序立てて論理的に述べることができる。 3. 妥当な根拠に基づいて意見や主張に賛成・反対し、また論点を明らかにして議論することができる。 4. 論旨が明快で説得力のある効果的な発表を行うことができる。 *下記の進行日程はあくまで目安であり、受講者の理解度・達成度や活動実施状況により、実施内容を含め予定を変更する場合があります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業概要と学習の進め方、導入	小課題、配布資料を読んでおく
	2	質問・コメントの意義と活用	小課題、中間発表のテーマ選定準備
	3	中間発表の準備	中間発表の準備
	4	中間発表と質疑応答(1)	中間発表の準備
	5	中間発表と質疑応答(2)	中間発表の準備
	6	中間発表と質疑応答(3)	中間発表の準備
	7	中間発表と質疑応答(4)	小課題、配布資料を読んでおく
	8	文献・資料の適切な引用	小課題、最終発表の準備
	9	最終発表の準備	最終発表の準備
	10	最終発表と質疑応答(1)	最終発表の準備
	11	最終発表と質疑応答(2)	最終発表の準備
	12	最終発表と質疑応答(3)	最終発表の準備
	13	最終発表と質疑応答(4)	最終発表の準備
14	最終発表と質疑応答(5)	最終発表の準備	
15	最終発表と質疑応答(6)	レポート作成の準備	
16	レポート提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など 配布資料を使用。 参考文献は、必要に応じ適宜紹介する。		
学びの手立て	1. 前回までの配布物や必要な資料、また必要に応じて辞書等も必ず持参すること。 2. ほぼ毎回、何らかの小課題を出すことになると思われるが、提出を求めない場合(次回までに読む・調べる・考えてくる等)も必ず実施すること。実施しなかった場合、翌週以降の活動に支障を来す可能性がある。 3. 務めて積極的に活動に参加し、また進んで発言や質問を行うこと。議論等での活発な姿勢は他の受講者の向上にも貢献し、全体にとっての利益となる。 *授業ではMoodleを用いた活動も行うため、未登録者については初回授業時にコースへの登録を行う。		
評価	(1) 最終発表: 30%、(2) 中間発表: 15%、(3) レポート: 20%、(4) 課題・質問・コメント等: 35% の配分で得点を計算し、評価を決定する。但し、活動状況等に特筆すべき点(良い面・悪い面とも)がある場合は、±10%を上限として加点・減点を行う。また、出席回数が全体の2/3 (10回)に満たない場合は、その時点で不可とする。この際、遅刻・早退は1/3欠席として扱う(何れも30分以内。それ以上の遅刻・早退は欠席)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 翌年時の基礎演習Ⅲ・Ⅳでは、更に発展的な内容を扱う。また、この授業で学んだ取り組み方と基礎的技能は、その他の様々な科目を履修する際に是非効果的に活かして欲しい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	1年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング活動を通して英語による授業に対応できる技能の獲得を目指します。	メッセージ 自主学習力を身につけよう。
	到達目標 (1) 大学生としての基本的な学習態度を身につける (2) 映画の精聴、スピーチを通して読解力・発表力・表現力（英語）の向上を目指す (3) 英語運用能力の向上（英検2級レベル以上）を目指す	

学びの準備	ねらい リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング活動を通して英語による授業に対応できる技能の獲得を目指します。	メッセージ 自主学習力を身につけよう。
	到達目標 (1) 大学生としての基本的な学習態度を身につける (2) 映画の精聴、スピーチを通して読解力・発表力・表現力（英語）の向上を目指す (3) 英語運用能力の向上（英検2級レベル以上）を目指す	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation、後期学習計画作成	
	2	Listening & Speaking 1	
	3	Listening & Speaking 2	
	4	Listening & Speaking 3	
	5	Listening & Speaking 4	
	6	Listening & Speaking 5	
	7	Listening & Speaking 6	
	8	Listening & Speaking 7	
	9	先輩講話（変動有）	
	10	英語Presentationについて（Power Point）	
	11	Presentation原稿作成	
	12	Presentation 1	
	13	Presentation 2	
	14	Presentation 3	
	15	Presentation 4	
16	振り返り、発表上位者表彰式		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義中に適宜配布します 講義中に連絡します
	学びの手立て リスニング、ディスカッション、クイズ、プレゼンテーション（パワーポイント）を通して英語表現力の育成を図ります。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義中に適宜配布します 講義中に連絡します
	学びの手立て リスニング、ディスカッション、クイズ、プレゼンテーション（パワーポイント）を通して英語表現力の育成を図ります。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義中に適宜配布します 講義中に連絡します
	学びの手立て リスニング、ディスカッション、クイズ、プレゼンテーション（パワーポイント）を通して英語表現力の育成を図ります。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	1年		

学びの準備	ねらい 本演習では、「読む」「書く」「調べる」「発表する」といった4技能を磨くことにより、大学生に求められる基礎力を養成する。	メッセージ グループに分かれ、自由テーマで発表してもらいます。
	到達目標 後期は主に「調べる」「発表する」ための方法について実践的に学ぶ。	

学びの準備	到達目標 後期は主に「調べる」「発表する」ための方法について実践的に学ぶ。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録確認、スケジュールの説明	
	2	グループ分け、発表順序の確認	
	3	「調べる」方法①	
	4	「調べる」方法②	
	5	「発表する」方法①	
	6	「発表する」方法②	
	7	グループ①発表	
	8	グループ②発表	
	9	グループ③発表	
	10	グループ④発表	
	11	グループ⑤発表	
	12	グループ⑥発表	
	13	グループ⑦発表	
	14	グループ⑧発表	
	15	まとめ	
16	課題提出		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配布する。 参考文献： 『大学生 学びのハンドブック [3訂版]』（世界思想社、2015年） 『あなたの話はなぜ「通じない」のか』山田ズーニー著（筑摩書房、2010年）
-------	--

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 発表内容と課題の提出状況により評価する。
-------	----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

国際化・情報化時代に対応できる人材の育成を目指し、日本語での4技能の力を十分に備え、さらに英語でも表現できるようになる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	1年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前期の「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学の授業や研究発表の場に必要な読解能力、文章表現能力、口頭発表能力を培う。次の3つのことを行う。1. パワーポイントを使用しての個人発表 2. 指定されたテキストを読み、内容を要約、レジюмеを作成してのグループ発表 3. 個人で興味あるテーマを選んで深く調べ、比較的長いレポートの作成（授業内では、レジюмеを作成し口頭発表）	お互いに学び合い、仲間を作り、楽しいゼミにしましょう。好きなこと、ワクワクすることを見つけましょう。
到達目標	大学での学業に必要な読解能力及び表現能力を培う。P Pを使用してプレゼンテーションができるようになる。発表の際のレジюме作成ができる。テーマに沿ってレポートをまとめる。グループ発表では協働の学習の効果を学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション（講義概要説明等）、登録の確認等
	2	夏休みの宿題の発表
	3	課題1（Power Point使用）個人発表1
	4	課題1（Power Point使用）個人発表2
	5	課題1（Power Point使用）個人発表3
	6	課題1（Power Point使用）個人発表4
	7	課題2 グループ発表1
	8	課題2 グループ発表2
	9	課題2 グループ発表3
	10	課題2 グループ発表4
	11	課題3（レポート作成）個人発表1
	12	課題3（レポート作成）個人発表2
	13	課題3（レポート作成）個人発表3
14	課題3（レポート作成）個人発表4	
15	課題3（レポート作成）個人発表5	
16	ゼミ合宿（東村セミナーハウスへ）	
時間外学習の内容		
テキスト・参考文献・資料など	配布資料と参考文献を中心に講義を行う。 参考図書リストをクラスで配布する。	
学びの手立て	新聞記事、雑誌、インターネット等で情報を収集し、多くのことに興味を持ちましょう。	
評価	総合的に評価するが、特に平常点を重視する。よって出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「基礎演習Ⅰ」、「基礎演習Ⅱ」を履修した後は、「基礎演習Ⅲ」へ進む。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ケイト オカラハン	2年		

学びの準備	ねらい The focus of this seminar will be to teach students to go from paragraph to Essay. We will explore various types of writing styles using the assigned text book. Students will be expected to submit written assignments on a regular basis.	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など From Great Paragraphs to Great Essays. Heinle Cengage Learning
	学びの手立て
	評価 Priority will be given to attendance, active participation and timely assignment submission.

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 文化やことばについて批判的に考える思考力、それを理論的に表現するアカデミックスキルの習得を目的とする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	2年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 前期は「コミュニケーション」や「文化とことば」に関するテーマに焦点をあて、『自分で考える力』を育む事を目的とする。グループ毎に興味のあるテーマを選択し、グループ内での話し合いや議論を通して、自分達の立場や考え方を明確にプレゼンする力をつける。	メッセージ これからの大学生活、ならびに将来の社会生活において「考える力」は欠かせない要素でありながら、短期で身に付くスキルではありません。自分の知的興味に目を向け、知らない事を知る楽しさを体験しながら、「考える力」を実践的に身につけましょう。
	到達目標 このクラスを受講した学生は、自己の知的興味を新たに発見し、そのテーマに関する先行研究をリサーチする力を習得し、自分なりの意見を見いだしながら理論的に説明できるようになる。また、受動的学習ではなく、能動的にテーマに取り組むことにより「考える力」「自分の考えを伝える力」を育むことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション・クラスの概要【身につけるべき知識・読み物の配布】	
	2	自分達の興味を探ろう！【読み物に対する概要・各自の担当を決める】	
	3	アウトラインの書き方、関連文献の探し方	
	4	研究テーマってどうやって探すの？【研究テーマの決め方】	
	5	ブレインストーミングの方法	
	6	『ガイダンス』【先行研究の探し方・図書館リサーチ】	
	7	トピック① マンガにおけるオノマトペ	
	8	トピック② 方言の歴史 — 若い女性が東北方言を使いにくいわけ	
	9	トピック③ 台湾における言語編制の変遷	
	10	トピック④ ポライトネスとジェンダー	
	11	トピック⑤ 感情スクリプトと第2言語コミュニケーション	
	12	研究テーマについてのブレインストーミング	
	13	研究テーマについてのブレインストーミング	
	14	研究テーマの発表+アウトライン	
	15	研究テーマの発表+アウトライン	
	16	研究テーマの発表+アウトライン	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。必要な文献や資料は講義内で配布します。		
	学びの手立て 履修の心構え ・クラスは学生・講師と一緒に協力しながら進めていくものです。 ・いつでもお互いに質問やディスカッションができる風通しの良いクラスを作っていきましょう。		
	評価 【平常点：40点】講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし、5回クラスを欠席した時点で不可とする。 【課題・グループワーク・発表：60点】 グループ毎に興味の持てるテーマを見つけ、グループで調査・発表する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 受講終了後は、基礎演習Ⅳにおいてより深く自分のテーマに向き合ってほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	2年	研究室を訪問ときは必ず事前に予約を取ること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、英語で書く力を高めるためにリーディングスキルを徹底的に身につけることを目指す。まず、自分のこれまでの「英語の読み方」をチェックし、効果的なリーディングとは何かについて考える。そして皆さんの英語力をもとにして、読む目的や内容に合った効率の良いリーディング方法を学習する。	メッセージ 使用言語：日本語・英語。
	到達目標 英語を専攻する学生として当然身につけるべき学習習慣及び実践的英語運用能力を活用することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	To be announced in class
	2	Library workshop	"
	3	Preview; Finding the main idea	"
	4	Exploring the main idea	"
	5	Reading faster	"
	6	Understanding organization	"
	7	Recognizing logical writing	"
	8	Finding similarities & differences	"
	9	Stepping up to longer passages	"
	10	Summarizing longer passages	"
	11	Finding it fast; Searching for information	"
	12	Reading for Pleasure	"
	13	Reading between the lines	"
	14	Reading as a guessing game	"
	15	Getting the rough meaning	"
	16	Paper due	"
	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時に指示する。		
	学びの手立て ①課題提出期限厳守。②決められたルールを守る。③他人の意見をじっくり傾聴し、自主的かつ積極的に学ぶ姿勢を持つ。		
	評価 出席率及び授業参加態度(40%)、課題提出(30%)、レポート(30%)により総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「基礎演習Ⅳ」、「専門演習Ⅰ、Ⅱ」
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性 Students are expected to produce a research paper in English for this class.

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	2年	peter@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.	Also though students are expected to write in English, Okinawan, Japanese and other Asian issues are welcome topics for research.

到達目標	Students have an opportunity to focus in-depth one one topic for the course of the year, and produce an academic paper in English
------	---

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	Week by week students will develop their research in collaboration with the teacher.

テキスト・参考文献・資料など	No textbook is required for this class.
----------------	---

学びの手立て	Please choose a topic you are interested in, and that is not too broad (Japanese Culture), or too narrow (Okinawan traditional beard styles). After that don't change unless you are sure you have a better idea.
--------	---

評価	Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名 基礎演習Ⅲ	期別	曜日・時限	単位
		前期	水3	2
	担当者 クレイグ K ジェイコブソン	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Improving student ability to write sentences, paragraphs and reports in English, choose a research topic, gather and analyse information, present it in a written English report and then make an oral presentation	メッセージ Students should be prepared for a busy semester
	到達目標 Students in this class work together on the same topic at the same pace with each new task introduced in a guided approach to achieve a common goal. Students who miss deadlines will need to work extra hard to catch up.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Registration and Course Introduction	Writing and oral practice
	2	Student Self Introductions	Reading and writing
	3	Introduction to Rashamon and In a Grove	Reading and writing
	4	Akutagawa's Rashamon and In a Grove	Reading and writing
	5	Akutagawa's Rashamon and In a Grove	Reading and writing
	6	Kurosawa's Rashamon	Writing
	7	Kurosawa's Rashamon	Writing
	8	Group discussions of Rashamon	Writing
	テキスト・参考文献・資料など There is no text for this class. Students will be given a syllabus and will keep a journal and will bring both the syllabus and the journal to class each week. The content of the journal will be explained in class. Students will be given materials to help them learn how to use the APA style in written reports.		
	学びの手立て It is important for students to seek out help when the need it.		
	評価 Students will be evaluated based on their written reports, oral presentations, homework, and class participation. Students will also be evaluated on their attendance and their ability to meet deadlines.		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性 Students are expected to complete a research paper in English.
h.

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	2年	peter@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.	Also though students are expected to write in English, Okinawan, Japanese and other Asian issues are welcome topics for research

到達目標	Students have an opportunity to focus in-depth one one topic for the course of the year, and produce an academic paper in English
------	---

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) Week by week students will develop their research in collaboration with the teacher.
	テキスト・参考文献・資料など No textbook is required for this class.
	学びの手立て Please work on your topic over the summer break, and be ready to submit a 5-page draft in October, and at least one new draft per month from October to January.
評価	Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation.

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習III
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	2年	研究室を訪問ときは必ず事前に予約を取ること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期の「基礎演習III」に続き、本授業では、報告概要の書き方及びオーラルプレゼンテーションのテクニックを習得する。	メッセージ 使用言語：日本語・英語。
	到達目標 英語を専攻する学生として当然身につけるべき学習習慣及び実践的英語運用能力を活用することができる。	

学びの準備	到達目標 英語を専攻する学生として当然身につけるべき学習習慣及び実践的英語運用能力を活用することができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction; evaluating book reports; common errors	To be announced in class.
	2	Mini presentations: self-introduction	"
	3	The physical message (1)	"
	4	The physical message (2)	"
	5	The physical message (3)	"
	6	The physical message (4)	"
	7	The visual message (1)	"
	8	The visual message (2)	"
9	The story message (1)	"	
10	The story message (2)	"	
11	The story Message (3)	"	
12	The story Message (4)	"	
13	Final Performance	"	
14	Oral presentations (1)	"	
15	Oral presentations (2)	"	
16	Oral presentations (3)	"	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時に指示する。		
学びの手立て	①課題提出期限厳守。②決められたルールを守る。③他人の意見をじっくり傾聴し、自主的かつ積極的に学ぶ姿勢を持つ。		
評価	出席率及び授業参加態度(40%)、課題提出(20%)、口頭発表(40%)により総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「専門演習I、II」
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性

文化やことばについて批判的に考える思考力、それを理論的に表現するアカデミックスキルの習得を目的とする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	2年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	後期は各自が興味をもったテーマについて深く掘り下げる。「外国語学習」「方言とステレオタイプ」「視覚とことば」「アニメに使われる日本語のオノマトペとその英語訳からみる音のイメージ」「文化とことば」など様々なテーマについて考え、『クリティカルシンキング(批判的に考え自分の意見を持つこと)』の力を養うことを目的とする。	これからの大学生活、ならびに将来の社会生活において「考える力」は欠かせない要素でありながら、短期で身に付くスキルではありません。自分の知的興味に目を向け、知らない事を知る楽しさを体験しながら、「考える力」を実践的に身につけましょう。
到達目標	このクラスを受講した学生は、自己の知的興味を新たに発見し、そのテーマに関する先行研究をリサーチする力を習得し、自分なりの意見を見いだしながら理論的に説明できるようになる。また、受動的学習ではなく、能動的にテーマに取り組むことにより「考える力」「自分の考えを伝える力」を育むことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	各自の研究テーマについてのディスカッション①	
	3	各自の研究テーマについてのディスカッション②	
	4	レポート・論文の書き方①	
	5	レポート・論文の書き方②	
	6	具体的な研究方法について①	
	7	具体的な研究方法について②	
8	中間報告①		
9	中間報告②		
10	プレゼンの仕方について①		
11	プレゼンの仕方について②		
12	結果報告の仕方①		
13	結果報告の仕方②		
14	プレゼンテーション①		
15	プレゼンテーション②		
16	プレゼンテーション③		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用しません。必要な文献や資料は講義内で配布します。	
	学びの手立て	履修の心構え ・クラスは学生・講師が一緒に協力しながら進めていくものです。 ・いつでもお互いに質問やディスカッションができる風通しの良いクラスを作っていきましょう。	
	評価	【平常点：40点】講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし、5回クラスを欠席した時点で不可とする。 【課題・グループワーク・発表：60点】 興味の持てるテーマを見つけ、調査・発表する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 受講終了後は、卒業論文においてより深く自分のテーマに向き合ってほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ケイト オカラハン	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	The focus of this seminar will be to teach students to go from paragraph to Essay. We will explore various types of writing styles using the assigned text book. Students will be expected to submit written assignments on a regular basis.	

到達目標

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	From Great Paragraphs to Great Essays. Heinle Cengage Learning
学びの手立て	
評価	
Priority will be given to attendance, active participation and timely assignment submission.	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名 基礎演習IV	期別 後期	曜日・時限 水 3	単位 2
	担当者 クレイグ K ジャコブソン	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい Improving students ability to choose a topic, gather information, analyse the information, produce a written report and make an oral presentation on that report.	メッセージ Students will be given the freedom to choose their own topics and work at their own pace, but will need to be careful about meeting deadlines.
-------	--	---

到達目標 Students will be working independently this semester on their own research topics.
--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Introduction and Registration	Writing
	2	Individual Consultations	Writing
	3	Submission of Introduction and Body	Writing
	4	Return of Draft	Writing
	5	Individual Consultations	Writing
	6	Submission of First Full Draft	Writing
	7	Return of Draft	Writing
	8	Submission of Second Draft	Writing
	9	Return of Draft	Writing
	10	Individual Consultations	Writing
	11	Submission of Final Draft	Writing
	12	Oral Presentations Preparation Day	Oral presentation preparations
	13	Oral Presentations	Oral presentation preparations
	14	Oral Presentations	Oral presentation preparations
	15	Oral Presentations	Oral presentation preparations
16	Oral Presentations	Oral presentation preparations	

テキスト・参考文献・資料など There is no text for this class. Students will be given a syllabus and will keep a journal and will bring them to class each week. The content of the journal will be explained in class. Students should follow the standards of the APA Publication Manual.

学びの手立て It is important for students to seek out help when they need it.
--

評価 Students will be evaluated based on their written reports, oral presentations, homework and class participation. Students will also be evaluated based on their attendance and their ability to meet deadlines
--

学びの継続 次のステージ・関連科目 専門演習I

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語学概論Ⅰ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	2年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 言語学概論Ⅰでは、みなさんが日常生活でふと疑問に思ったことのある「ことばの不思議」に迫りながら、言語学の楽しさや奥の深さを伝えることを目標とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション「言語学って一体なに？」
	2	文化と言葉「文明のすすんでいない民族の言語は、先進国の言語より単純なの？」
3	文化と言葉「なまり（方言）と言語の違いって何？」	
4	言語の誕生「言語はいつどうやって生まれたの？」	
5	世界の言語「日本語はどこから来たの？」	
6	世界の言語「日本語と韓国語は本当に似ているの？」	
7	言葉とジェンダー「女言葉と男言葉って何？」	
8	言葉の変化 + 中間テスト	
9	音声学「世界の言語にはどんな音があるの？」	
10	音声学「どうやったら“良い英語の発音”ができるようになるの？」	
11	言語と思考「話す言語が違くと見える世界も違うの？」	
12	言語と思考「話す言語が違くと見える世界も違うの？」	
13	語形成「テレビジョンはテレビ、スマートフォンはスマフォ？」	
14	ライティングシステム「なぜアルファベット、漢字、平仮名など違った文字を使うの？」	
15	言語と認識「虹は何色？」	
16	講義のおさらい + 期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。	時間外学習の内容
	学びの手立て 履修の心構え ・クラスは学生・講師が一緒に協力しながら進めていくものです。 ・常に疑問を持ちながら、アクティブに講義に参加して下さい。	
	評価 【平常点：30点】講義内での課題・質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし、5回クラスを欠席した時点で中間テスト・期末テストの受講は不可 【中間テスト：30点】 【期末テスト：40点】 *初回の講義の出席が、履修条件となります。初回欠席者は履修不可となるのでご注意ください。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 言語学概論Ⅱで、「赤ちゃんの言語習得」や「動物のコミュニケーションシステム」など更に言葉の不思議について知識を深めていって下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語学概論Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	2年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 言語学概論Ⅱでは、「赤ちゃんの言語習得」「外国語学習」「脳の不思議」「動物のことば」など身近にあるテーマに目を向け、言語学の楽しさや奥の深さを伝えることを目標とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	【言語習得】赤ちゃんの最初の言葉が「ママ」なのはどうして？	
	3	【言語習得】赤ちゃんがことばを話せる様になるまで	
	4	【言語習得】言葉を失った女の子：社会からの隔離と言語習得	
	5	【外国語学習】外国語を学習するのはどうして難しいの？	
	6	【脳と言語】脳の不思議と脳の秘密：天才脳って何？	
	7	【脳と言語】脳の不思議と脳の秘密：天才脳って何？	
	8	講義＋中間テスト	
9	【失語症】脳を損傷するとどうなるの？：様々な失語症		
10	【失語症】脳を損傷するとどうなるの？：様々な失語症		
11	【アニマルコミュニケーション】動物にはことばがあるの？：イルカ・犬・サル・カワウソ		
12	【ゴリラと手話】手話で人間とコミュニケーションをとるゴリラ		
13	【パリエーション】英語にもパリエーションがあるって本当？		
14	【言語接触】新しいことばが生まれる時：ハワイの例から		
15	【言語接触】新しいことばが生まれる時：ハワイの例から		
16	講義のまとめ＋期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。		
	学びの手立て 履修の心構え ・クラスは学生・講師が一緒に協力しながら進めていくものです。 ・常に疑問を持ちながら、アクティブに講義に参加して下さい。		
	評価 【平常点：30点】講義内での課題・質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし、5回クラスを欠席した時点で中間テスト・期末テストの受講は不可 【中間テスト：30点】 【期末テスト：40点】 *初回の講義の出席が、履修条件となります。初回欠席者は履修不可となるのでご注意ください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語研究特論	集中	集中	2
	担当者 -平本 美恵	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	開講前はmie@hawaii.eduで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	このクラスは社会言語学の初学者を対象に、「ことばと社会」についてのおおまかな理解が得られるように構成されている。社会言語学の研究の方法論や概念を紹介し、それがもたらす新しい知見を、日本語及び英語のデータの分析を通して理解することを目的とする。主な内容：方言学、言語接触、稀少言語、バイ・マルチリンガリズム、敬語表現、言語と性差、言語とメディア他。	ことばは時代とともに常に変化しています。その変化を「言語の劣化」と批判的に捉えるのではなく、どうしてそのような変化が起こったのかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。ディスカッションを重視したクラスなので、各課題・試験は、知識だけではなく、授業で扱った考え方をを用いてデータや問題を「どう説明するか」という能力の評価に重点を置いた設問が課されています。
到達目標	このクラスを受講し、内容を理解した学生は、日常使われている言語についての批判的思考力を養い、自分なりの意見を構築し、それを先行研究の中に位置づけながら理論的に説明できるようになります。また、学習した知識を応用し、自らの生活に関った何らかの社会言語学的な知識を深めることができる。例：沖縄の稀少言語について説明できるようになる。謙譲語・尊敬語の使い分けを混同しなくなる。英語での会話をスムーズに進行できるようになる。方言や女性ことば・男性ことばの違いが分かり、言語や性差が原因の差別について批判的に考えられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	方言学、言語接触、稀少言語：概論1	自己問題意識のテーマを考察する。
	3	方言学、言語接触、稀少言語：応用1	課題発表の手法を学び進める。
	4	方言学、言語接触、稀少言語：概論2	自己問題意識のテーマを絞る。
	5	方言学、言語接触、稀少言語：応用2	同上
	6	方言学、言語接触、稀少言語：応用3	同上
	7	敬語表現1	敬語表現の復習
	8	敬語表現2	同上
	9	言語と性差1	女性語・男性語の復習
	10	言語と性差2	同上
	11	言語とメディア1	役割語のコンセプトを理解する。
	12	言語とメディア2	同上
	13	まとめテスト	テスト勉強
	14	グループ報告会1	発表準備・練習
15	グループ報告会2	同上	
16	グループ報告会3	同上	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。必要な文献や資料はインターネットにて配布します。
----	--

学びの手立て	履修の心構えとして、以下注意してください。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡してください。 ・ほぼ毎日、その課題において口頭で説明した内容について小テストがあります。講義中は集中してメモを取る。 ・筆記用具を忘れずに必ず持参すること。 ・講義内容に質問のある場合は、遠慮せずいつでも講師に質問してください。
--------	---

評価	1.まとめテスト(30%) 2.グループ報告：与えられたテーマについてグループで発表・説明する(50%) 3.平常点(20%)・・・質問や発言を適宜加点する。出欠状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」とする。20分以上の遅刻・早退は欠席扱いとなります。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義内で学習した知識を応用し、自らの生活と関連づけながら沖縄の稀少言語の現状について意見を述べる事、卒業後の社会生活で重要となる謙譲語・尊敬語の使い分け、並びに英語での会話をスムーズに進行する言語能力や論理的思考力を高める。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	CALL教授法	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前澤 大樹	3年	h.maezawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、CALL機器を利用した授業の方法と実践について学ぶことを目的とする。講義期間前半では、CALL機器の基本的機能・操作や利用法について実際の機器を確認しながら概説する他、更なる発展の可能性についての検討も行い、実践例についても幾つか紹介する。後半では、CALL教材の工夫を試みた後、CALL機器を活用した授業を実演する機会を設ける。	定義を広くとれば、CALLの関わりは近年教育の場で得られる様々な機器・設備に及び、かなり応用範囲の広いテーマだと思います。より多様な形で、今後も利用の機会は増えていくと考えられるので、指導法の幅を広げる意味でも基礎を学び、活用の可能性を考えてみてください。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> CALLの全般的特徴と性格、現在や今後の状況等についての基礎的知識を身に付ける。 CALL機器やCALL教材にはどのようなものがあるか、どんなことができるのかを把握し、基本的な操作・使用を行える。 CALL機器を活かした活動・授業を計画し、実践することができる。 CALL機能活用の初歩として、その利点を効果的に引き出すための教材を作成することができる。 <p>*下記の進行日程はあくまで目安であり、受講者の理解度・達成度や活動の実施、設備の状況等により、実施内容を含め予定を変更する場合があります。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業概要、導入	小課題
	2	CALLの基礎	小課題
	3	CALL授業の基礎(1)	小課題
	4	CALL授業の基礎(2)	小課題
	5	CALL機能の具体的活用(1)	小課題
	6	CALL機能の具体的活用(2)	小課題
	7	インターネットの活用	小課題
	8	更なる発展的活用と実践例	教材作成準備
	9	CALL教材の工夫と教材作成(1)	教材作成準備
	10	CALL教材の工夫と教材作成(2)	小課題、発表準備
	11	模擬授業によるCALL活用の実践(1)	小課題、発表準備
	12	模擬授業によるCALL活用の実践(2)	小課題、発表準備
	13	模擬授業によるCALL活用の実践(3)	小課題、発表準備
	14	模擬授業によるCALL活用の実践(4)	小課題
15	まとめ	レポート作成準備	
16	最終レポート提出		

テキスト・参考文献・資料など	配布資料を使用。 参考文献は、必要に応じ適宜紹介する。
----------------	--------------------------------

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> 前回までの配布物や必要な資料、また必要に応じて辞書等も必ず持参すること。 ほぼ毎回、何らかの小課題を出すことになると思われるが、提出を求めない場合(次回までに読む・調べる・考えてくる等)も必ず実施すること。実施しなかった場合、翌週以降の活動に支障を来す可能性がある。 務めて積極的に活動に参加すること。 <p>*授業ではMoodleを用いた活動も行うため、初回授業時にコースへの登録を行う。</p>
--------	---

評価	(1) 模擬授業: 30%、(2) 最終レポート: 20% (3) 課題・提出物・教材作成: 40%、(4) 質問・コメント等: 10%の配分で得点を計算し、評価を決定する。但し、活動状況等に特筆すべき点(良い面・悪い面とも)がある場合は、±10%を上限として加点・減点を行う。また、出席回数(10回)が全体の2/3 (10回)に満たない場合は、その時点で不可とする。この際、遅刻・早退は1/3欠席として扱う(何れも30分以内。それ以上の遅刻・早退は欠席)。更に、活動実施が極めて重要な授業のため、正当な事由無き欠席は大幅な減点対象となる。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語科教育法演習等、教職関連の科目と関連付けて取り組んでください。
-------	--

※ポリシーとの関連性 Vocabulary is a major challenge in this class, so I usually aim to develop related themes.

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	時事英語	後期	火2・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプル	2年	peter@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This class will be designed and redesigned through a process of negotiation based on students priorities, unfolding events in Okinawa, Japan and the world, and previous media projects which I have been involved with in Okinawa. Possibilities are likely to include an examination of reports into the recent Tohoku catastrophe, and appropriate courses of action</p>	<p>I always use today's or yesterday's news, so please follow the news if you want to follow this class.</p>
到達目標	To encourage students to think about serious events in the news, and to be able to talk and write about them.	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>The course is based on unfolding events, both those considered important by the teacher and the students, so planning in advance for this class is not possible.</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>Students are not required to buy a textbook, but please read the newspapers and watch TV news!</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>Go to demonstrations and other events, write about news stories on social media, talk about the news with friends.</p>
	<p>評価</p> <p>Evaluation will also be negotiated with the class, but is likely to include attendance, group work, and a final report.</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>My Graduation Thesis class</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 専門演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	水 4	2
	担当者 クレイグ K ジャコブソン	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい This course is designed to assist students in preparing the groundwork for a graduation thesis that takes a global perspective on issues related to education and/or children.	メッセージ Students should be prepared to work independently.
-----------------------	---	---

学 び の 準 備	到達目標 Students will spend the first part of this semester working together on the same topic to improve their English writing skills and understanding of educational and children's issues.
-----------------------	--

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	
	2	Mapping the world exercise introduced as homework	
	3	Mapping the world exercise submission. Introduction to Not One Less	
	4	Not One Less	
	5	Group Discussions of Not One Less	
	6	How to write an introduction	
	7	Introduction submission	
	8	Introduction returned	
	9	Individual Consultations	
	10	First draft submission	
	11	First draft returned	
	12	Individual consultations	
	13	Final draft submission	
	14	Topic selection, resources, plagiarism, APA	
	15	Submission of Research Plan	
16	Final class Evaluation		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など No text. Students will use the APA Publication Manual as a guide for writing papers.
-----------------------	--

学 び の 実 践	学びの手立て Students need to work independently and seek assistance when necessary
-----------------------	--

学 び の 実 践	評価 Grades will be based on attendance, ability to meet deadlines and the quality of the written work.
-----------------------	--

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 専門演習II
-----------------------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。“I’m loving it.”はなぜ進行形で表現出来るのか。“psychology”の“p”はなぜ発音されないのか。日本語では家畜名「豚」に「肉」を付けるだけで食肉の「豚肉」になるのに、英語では“pig”を“pork”と表現し、“pig meat”と普通なぜ表現しないのか。“look”は視線を向けて見るはずなのに、“He looks happy.”と「...のように見える」とい	素朴な疑問が大切です。誰でもどこかで頭によぎった questions を講義にぶつけてください。
到達目標	英語の謎が解けるの1点です。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 別途連絡します。 別途連絡します。
	学びの手立て あらゆる情報を収集したのち、論理に則って整理しよう。根拠の乏しい主張を除去できる賢明な判断が求められます。
評価	① 授業出席度 (原則皆勤) ② presentation ③ 疑問解明度 ④ 質疑応答・全体討論 ⑤ task 評点 ⑥ 受講姿勢 ⑦ 中間・期末試験 ⑧ term paper

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II につなげる。
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	3年		

学びの準備	ねらい イギリスの代表的な劇作家シェイクスピアの作品を読みます。前期は『ロミオとジュリエット』を取り上げ、受講生みんなでディスカッションをしながら読み進めていきます。シェイクスピアの豊かな比喻表現に触れ、読解力を鍛えるとともに、キリスト教やギリシャ神話についての知識も少しずつ身に付けていくことを目指します。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールの詳細については、初回の授業で通知します。 ・場面全体の流れをつかむために訳本やビデオを参考にしながら、重要なセリフに関しては原文を精読します。 ・いくつかのグループに分かれ、毎週担当を決めて発表してもらいます。 ・指定されたテーマについて、学期末にレポートを提出してもらいます。
	テキスト・参考文献・資料など 初回の授業で指示します Romeo and Juliet 大場建治注釈（大修館） 『シェイクスピア大辞典』荒井良雄他編集主幹（日本図書センター）
	学びの手立て
	評価 発表内容と学期末レポートにより総合的に評価します

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前澤 大樹	3年	h.maezawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、英語という言語の特徴や背後にある仕組みについて考える視点と基礎的な知識・方法論を学ぶとともに、その中で自らが興味を覚える事実を見出し、卒業論文のテーマに発展させられるような「疑問」を見付けることを目指す。説明を行う担当者を割り当てた上で全員で文献を読む一方、関心のある現象を探してレポートを作成する。	卒業論文で英語学・言語学に関するテーマを選ぶか否かに関わらず、学問的な視点や考え方・議論の仕方、文献を正確に読み解く力は、全ての分野で必ず役立つものです。まずは専門的な学びの基礎を着実に身に付けるつもりで、意欲的かつ積極的に授業に取り組んでください。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語という言語について学問的に考える上での視点や知識・方法論・議論の仕方の基礎を身に付ける。 2. 英語で書かれた入門的な専門文献を読んで、その内容を正確に理解できる。 3. 特定の主題について関連する文献や資料を探し出し、必要な情報を得ることができる。 4. 英語に関する事実から興味を憶えるものを見付け、発展性のある疑問を設定することができる。 <p>*下記の進行日程はあくまで目安であり、受講者の理解度・達成度や活動実施状況により、実施内容を含め予定を変更する場合があります。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業概要と学習の進め方、導入	小課題、配布資料を読んでおく
2	言語学・英語学の下位領域(1)	小課題、配布資料を読んでおく	
3	言語学・英語学の下位領域(2)	小課題、配布資料を読んでおく	
4	言語学・英語学の下位領域(3)	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
5	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
6	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
7	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
8	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
9	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
10	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
11	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
12	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
13	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
14	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
15	文献読解	小課題、文献を読んで疑問点を整理	
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など		
	配布資料を使用。 参考文献は、必要に応じ適宜紹介する。		
	学びの手立て		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 辞書及び前回までの配布物や必要な資料は必ず持参すること。 2. ほぼ毎回、何らかの課題を出すことになると思われるが、提出を求めない場合(次回までに読む・調べる・考えてくる等)も必ず実施すること。実施しなかった場合、翌週以降の活動に支障を来す可能性がある。 3. 務めて積極的に参加し、進んで発言や質問を行うこと。議論等での活発な姿勢は他の受講者の向上にも貢献し、全体にとっての利益となる。 <p>*授業ではMoodleを用いた活動も行うため、初回授業時にコースへの登録を行う。 *学習効果を高めるため、理解に行き詰った際などは何度でも積極的に質問に来ることを推奨する。</p>		
	評価		
	(1) 文献読解担当: 30%、(2) レポート: 30%、(3) 課題・質問・コメント等: 40% の配分で得点を計算し、評価を決定する。但し、活動状況等に特筆すべき点(良い面・悪い面とも)がある場合は、±10%を上限として加点・減点を行う。また、出席回数が全体の2/3 (10回)に満たない場合は、その時点で不可とする。この際、遅刻・早退は1/3欠席として扱う(何れも30分以内。それ以上の遅刻・早退は欠席)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	後期開講の基礎演習IIは専門演習IIと連続した内容を扱っており、原則的に続けて履修すること。

※ポリシーとの関連性

興味のあるテーマをより深く、批判的に考える思考力、それを理論的に表現するアカデミックスキルの習得を目的とする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	3年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「卒業論文を見据えたゼミ」を展開します。前期は『自分で考える力』を育む事を目的とする。自分の興味のあるテーマを選択し、ゼミ内でのディスカッション・先行研究の理解を通して、卒論に繋がる研究を進める。</p>	<p>4年次の卒業論文、ならびに将来の社会生活において「考える力」は欠かせない要素でありながら、短期で身に付くスキルではありません。自分の知的興味に目を向け、知らない事を知る楽しさを体験しながら、「考える力」を実践的に身につけましょう。</p>
到達目標	このクラスを受講した学生は、自己の知的興味を新たに発見し、そのテーマに関する先行研究をリサーチする力を習得し、自分なりの意見を見いだしながら理論的に説明できるようになる。また、受動的学習ではなく、能動的にテーマに取り組むことにより「考える力」「自分の考えを伝える力」を育むことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション・クラスの概要	講義内で適宜指示する
	2	卒業論文を見据えた研究の進め方①	講義内で適宜指示する
	3	卒業論文を見据えた研究の進め方②	講義内で適宜指示する
	4	自分達の興味を探ろう！ 【読み物に対する概要と研究方法①】	講義内で適宜指示する
	5	自分達の興味を探ろう！ 【読み物に対する概要と研究方法②】	講義内で適宜指示する
	6	研究テーマについてのディスカッション①	講義内で適宜指示する
	7	研究テーマについてのディスカッション②	講義内で適宜指示する
	8	研究テーマについてのディスカッション②	講義内で適宜指示する
	9	先行研究の役割と探し方①	講義内で適宜指示する
	10	先行研究の役割と探し方②	講義内で適宜指示する
	11	研究の進捗状況の発表とディスカッション①	講義内で適宜指示する
	12	研究の進捗状況の発表とディスカッション②	講義内で適宜指示する
	13	研究の進捗状況の発表とディスカッション③	講義内で適宜指示する
14	研究の進捗状況の発表とディスカッション④	講義内で適宜指示する	
15	研究の進捗状況の発表とディスカッション⑤	講義内で適宜指示する	
16	専門演習Ⅱに向けての準備		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用しません。必要な文献や資料は講義内で配布します。		
学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスは学生・講師と一緒に協力しながら進めていくものです。 ・いつでもお互いに質問やディスカッションができる風通しの良いクラスを作っていきましょう。 		
評価	<p>【平常点：40点】講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし、5回クラスを欠席した時点で不可とする。</p> <p>【課題・発表：60点】 各自興味のあるテーマを見つけ、研究の進捗状況を発表する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>受講終了後は、専門演習Ⅱにおいてより深く自分のテーマに向き合ってほしい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 口頭発表、小論文によって卒業論文の作成の前提となる技術を身につける。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岡野 薫	3年	授業時にお知らせします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ドイツ語圏はヨーロッパの中で存在感を増しつつある地域のひとつである。このドイツ語圏の文化の中から、自分に関心のあるテーマを見つけ、調査・研究し、その成果を口頭発表や小論文にまとめる。そのために必要な方法を実践を通して学ぶ。	テキストの中から関心のあるテーマを選んで研究し、口頭発表、全員での議論をおこなう。口頭発表と議論とをふまえて小論文を書く。グループ・ワーク、グループ発表もおこなう。

到達目標	専門演習を通じて次の二点を学ぶ。(1) ドイツ語圏の文化について学ぶことで、日本や英語圏と比較し、それぞれの文化の価値を相対化できる視点を涵養する。(2) 卒業論文に向けて、独力で、テーマを設定し、論文を執筆できる力を養成する。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	導入講義 (一) : テーマの選定	テキストの目次を読んでおくこと。
	3	導入講義 (二)	
	4	導入講義 (三)	
	5	第5~15週 : 学生発表	
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16	まとめ		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：宮田眞治、畠山寛、濱中春編『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房 2015）。</p> <p>参考文献：授業時に随時紹介する。</p>
----	---

学びの手立て	<p>演習は受講者の参加によって成立するため、ひとりひとりが積極的に参加すること。自分の発表だけでなく、他の受講者の口頭発表、質問の仕方を見ながら学んで欲しい。受講者同士がお互いに学びあえる場になることを願っている。</p>
--------	--

評価	<p>平常点 (30%) と口頭発表・小論文 (70%)。平常点は出席と授業参加 (議論の際のコメントなど) による。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習 II</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岡野 薫	3年	授業時にお知らせします。	

学びの準備	ねらい ドイツ語圏はヨーロッパの中で存在感を増しつつある地域のひとつである。このドイツ語圏の文化の中から、自分に興味のあるテーマを見つけ、調査・研究し、その成果を口頭発表や小論文にまとめる。そのために必要な方法を実践を通して学ぶ。	メッセージ テキストの中から興味のあるテーマを選んで研究し、口頭発表、全員での議論をおこなう。口頭発表と議論とをふまえて小論文を書く。
	到達目標 専門演習を通じて次の二点を学ぶ。(1) ドイツ語圏の文化について学ぶことで、日本や英語圏と比較し、それぞれの文化の価値を相対化できる視点を涵養する。(2) 卒業論文に向けて、独力で、テーマを設定し、論文を執筆できる力を養成する。	

学びの準備	到達目標 専門演習を通じて次の二点を学ぶ。(1) ドイツ語圏の文化について学ぶことで、日本や英語圏と比較し、それぞれの文化の価値を相対化できる視点を涵養する。(2) 卒業論文に向けて、独力で、テーマを設定し、論文を執筆できる力を養成する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	第2～15週：学生発表	
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16	まとめ		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目 とくになし。
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野口 正樹	3年	noguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。例えば、動詞 "go" の活用形は "go, went, gone" ですが、過去形の "went" だけ形が大きく違うのはなぜ? "Do you know him?" といった簡単な言い方があるのに、"Do you know who he is?" といった言い方をする/出来るのはなぜ? "I think that 文." を "I think 文." と "that" を省いて表現するのはなぜ? "play baseball" なのに "play th	メッセージ 無理に質問を作り上げるのは失敗の素です。中高大の英語学習でふと疑問に思ったことを取り上げましょう。
	到達目標 英語の謎を解くので1点です。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など 別途連絡します。 別途連絡します。
	学びの手立て 情報は取捨選択しよう。自分の頭で再考し、つじつまが合う論理展開を目指そう。
	評価 ① 授業出席度 (原則皆勤) ② presentation ③ 疑問解明度 ④ 質疑応答・全体討論 ⑤ task 評点 ⑥ 受講姿勢 ⑦ 中間・期末試験 ⑧ term paper

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰにつなげる。
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西原 幹子	3年		

学びの準備	ねらい 前期に引き続き、シェイクスピアの作品とその時代背景について学びます。後期はシェイクスピアの喜劇A Midsummer Night's Dream『夏の夜の夢』を読みます。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールの詳細については、初回の授業で通知します。 ・場面全体の流れをつかむために訳本やビデオを参考にしながら、重要なセリフに関しては原文を精読します。 ・いくつかのグループに分かれ、毎週担当を決めて発表してもらいます。 ・指定されたテーマについて、学期末にレポートを提出してもらいます
	テキスト・参考文献・資料など 初回の授業で指示します A Midsummer Night's Dream 石井正之助注釈（大修館） 『シェイクスピア大辞典』荒井良雄他編集主幹（日本図書センター）
	学びの手立て
	評価 学期末レポート、授業への貢献度を総合的に評価します

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

興味のあるテーマをより深く、批判的に考える思考力、それを理論的に表現するアカデミックスキルの習得を目的とする。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	3年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「卒業論文を見据えたゼミ」を展開します。後期は『自分の考えを表現する力』を育む事を目的とする。自分の興味のあるテーマをどのように検証するのか、その研究手法と結果の取り扱いに焦点をあて、卒論に繋がる研究を進める。	メッセージ 4年次の卒業論文、ならびに将来の社会生活において「考える力」は欠かせない要素でありながら、短期で身に付くスキルではありません。自分の知的興味に目を向け、知らない事を知る楽しさを体験しながら、「考える力」を実践的に身につけましょう。
	到達目標 このクラスを受講した学生は、自己の知的興味を新たに発見し、そのテーマに関する先行研究をリサーチする力を習得し、自分なりの意見を見いだしながら理論的に説明できるようになる。また、受動的学習ではなく、能動的にテーマに取り組むことにより「考える力」「自分の考えを伝える力」を育むことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画			
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	イントロダクション・クラスの概要	講義内で適宜指示する
		2	卒業論文を見据えた研究の進め方①	講義内で適宜指示する
		3	卒業論文を見据えた研究の進め方②	講義内で適宜指示する
		4	研究手法について①	講義内で適宜指示する
		5	研究手法について②	講義内で適宜指示する
		6	研究テーマ・手法についての個人発表①	講義内で適宜指示する
		7	研究テーマ・手法についての個人発表②	講義内で適宜指示する
		8	個別指導①	講義内で適宜指示する
	9	個別指導②	講義内で適宜指示する	
	10	個別指導③	講義内で適宜指示する	
	11	個別指導④	講義内で適宜指示する	
	12	結果の分析方法とディスカッション①	講義内で適宜指示する	
	13	結果の分析方法とディスカッション②	講義内で適宜指示する	
	14	研究発表とディスカッション①	講義内で適宜指示する	
	15	研究発表とディスカッション②	講義内で適宜指示する	
	16	卒業論文への準備		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。必要な文献や資料は講義内で配布します。			
	学びの手立て 履修の心構え ・クラスは学生・講師が一緒に協力しながら進めていくものです。 ・いつでもお互いに質問やディスカッションができる風通しの良いクラスを作っていきましょう。			
	評価 【平常点：40点】講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし、5回クラスを欠席した時点で不可とする。 【課題・発表：60点】 各自興味のあるテーマを見つけ、研究の進捗状況を発表する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 受講終了後は「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」においてより深く自分のテーマに向き合ってほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名 専門演習Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 水4	単位 2
	担当者 クレイグ K ジャコブソン	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ Office: 5-421 mail: jacobsen@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい This course is designed to assist students in preparing the groundwork for a graduation thesis that takes a global perspective on issues related to education and/or children.	メッセージ Students should be prepared to work independently
-------	---	--

到達目標 Students will spend this semester carrying out the research plan they developed in the first semester.
--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Course Registration and Introduction	Writing
	2	Submission of introduction	Writing
	3	Return of introduction	Writing
	4	Submission of first drafts	Writing
	5	Return of draft	Writing
	6	Individual Consultations	Writing
	7	Submission of draft	Writing
	8	Return of draft	Writing
	9	Submission of draft	Writing
	10	Individual Consultations	Writing
	11	Final draft submission and summary exam. Preparations for student presentations	Writing
	12	Student presentations	Oral presentation preparations
	13	Student presentations	Oral presentation preparations
	14	Student presentations	Oral presentation preparations
15	Student presentations	Oral presentation preparations	
16	Student presentations		
テキスト・参考文献・資料など No text. Students will use the APA Publication Manual as a guide for writing papers.			
学びの手立て Students need to work independently and seek assistance when necessary.			
評価 Grades will be based on attendance, ability to meet deadlines and the quality of students' written work and presentations.			

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文I
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前澤 大樹	3年	h.maezawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰで学んだことに基づいて、各自文献を読みながら自らが興味を覚える事を見出し、卒業論文のテーマに発展させられるような「疑問」を見付けることを目指す。各自興味のある現象について中間・最終2回の口頭発表を行う。同じテーマに関する複数の文献を比較・検討し、論点をまとめて発表した上で、その内容を文章にまとめて作成する。</p>	<p>卒業論文で英語学・言語学に関するテーマを選ぶか否かに関わらず、学問的な視点や考え方・議論の仕方、文献を正確に読み解く力は、全ての分野で必ず役立つものです。まずは専門的な学びの基礎を着実に身に付けるつもりで、意欲的かつ積極的に授業に取り組んでください。</p>
到達目標	<p>1. 英語という言語について学問的に考える上での視点や知識・方法論・議論の仕方の基礎を身に付ける。 2. 英語で書かれた入門的な専門文献を読んで、その内容を正確に理解できる。 3. 特定の主題について関連する文献や資料を探し出し、必要な情報を得ることができる。 4. 英語に関する事実から興味を憶えるものを見付け、発展性のある疑問を設定することができる。 *下記の進行日程はあくまで目安であり、受講者の理解度・達成度や活動実施状況により、実施内容を含め予定を変更する場合があります。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	授業概要、英語の構文・現象(1)	小課題、配布資料を読んでおく
2	英語の構文・現象(2)	小課題、中間発表のテーマ選定準備	
3	中間発表の準備	中間発表の準備	
4	中間発表と質疑応答(1)	中間発表の準備	
5	中間発表と質疑応答(2)	中間発表の準備	
6	中間発表と質疑応答(3)	中間発表の準備	
7	中間発表と質疑応答(4)	中間発表の準備	
8	中間発表と質疑応答(5)	小課題、最終発表の準備	
9	最終発表の準備	最終発表の準備	
10	最終発表と質疑応答(1)	最終発表の準備	
11	最終発表と質疑応答(2)	最終発表の準備	
12	最終発表と質疑応答(3)	最終発表の準備	
13	最終発表と質疑応答(4)	最終発表の準備	
14	最終発表と質疑応答(5)	最終発表の準備	
15	最終発表と質疑応答(6)	レポート作成の準備	
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>配布資料を使用。 参考文献は、必要に応じ適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>1. 辞書及び前回までの配布物や必要な資料は必ず持参すること。 2. ほぼ毎回、何らかの課題を出すことになると思われるが、提出を求めない場合(次回までに読む・調べる・考えてくる等)も必ず実施すること。実施しなかった場合、翌週以降の活動に支障を来す可能性がある。 3. 務めて積極的に参加し、進んで発言や質問を行うこと。議論等での活発な姿勢は他の受講者の向上にも貢献し、全体にとっての利益となる。 *授業ではMoodleを用いた活動も行うため、未登録者については初回授業時にコースへの登録を行う。 *学習効果を高めるため、理解に行き詰った際などは何度でも積極的に質問に来ることを推奨する。</p>		
評価	<p>(1) 最終発表: 30%、(2) 中間発表: 15%、(2) レポート: 30%、(3) 課題・質問・コメント等: 25% の配分で得点を計算し、評価を決定する。但し、活動状況等に特筆すべき点(良い面・悪い面とも)がある場合は、±10%を上限として加点・減点を行う。また、出席回数が全体の2/3 (10回)に満たない場合は、その時点で不可とする。この際、遅刻・早退は1/3欠席として扱う(何れも30分以内。それ以上の遅刻・早退は欠席)。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この授業で学んだ基礎的技能は、翌年時の卒業論文Ⅰ・Ⅱで是非効果的に活かして論文作成に繋げていって欲しい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	早期英語教育	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	2年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 早期英語教育・小学校英語活動について学習しながら英語力の向上を図ります。	メッセージ 英語指導に興味にある人、自らの英語力を向上させたい人が対象です。
	到達目標 (1) 第一・第二言語習得に関する基礎知識を身につける (2) 早期英語（小学校外国語活動）に関する基礎知識を身につける (3) 英語力の向上を図る	

学びの準備	到達目標 (1) 第一・第二言語習得に関する基礎知識を身につける (2) 早期英語（小学校外国語活動）に関する基礎知識を身につける (3) 英語力の向上を図る
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	
	2	First language acquisition	
	3	First language acquisition	
	4	First language acquisition	
	5	Second language acquisition	
	6	Second language acquisition	
	7	Second language acquisition	
	8	Mid-term Exam	
	9	Early English education	
	10	Early English education	
	11	Early English education	
	12	Early English education in Japan	
	13	Early English education in Japan	
	14	Early English education in Japan	
	15	Early English education in Japan	
16	Final Exam		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 英文・和文の資料・著書を授業の中で紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て (1) 事前に教科書や資料を熟読し授業に参加する (2) 授業では事前に読んだ内容について発表・討論形式で理解を深める (3) 授業の主な学習形態はペア・グループとする (4) 授業は英語で行う
-------	--

学びの実践	評価 (1) Class participation 50% (2) Tests 30% (3) Assignments 20%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ケイト オカラハン	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	4年	研究室を訪問ときは必ず事前に予約を取ること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学生生活の集大成として各自が設定したテーマに沿って、学術論文作成の基本を学びながらオリジナルな論文に仕上げることを目指す。対象分野は、言語学や外国語教育、コミュニケーション、異文化理解などである。	メッセージ 創造性あふれる卒業論文を完成させることを通じて、専門知識をより深めるだけではなく、問題提起、課題解決の方法、論理的な文章作成の方法などを学び、社会に出た後にも役立つ「思考力、判断力、表現力」を身につけること。
	到達目標 テーマ設定から研究計画の立案・実施、データの整理・分析・考察、論文の構成まで学ぶ。学生各自の問題意識に基づいてテーマを設定し、研究計画を立て、実験や観察、調査などを進める。ゼミでは定期的にその経過報告を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	各回の授業ごとに指示する
	2	テーマ設定	"
	3	調査方法	"
	4	文献収集と整理	"
	5	参考文献の引用	"
	6	データ分析と考察	"
	7	アウトラインの作成・提出	"
	8	参考資料リストの作成・提出	"
	9	論文の構成 (1)	"
	10	論文の構成 (2)	"
	11	論文の構成 (3)	"
	12	論文執筆・個別指導 (1)	"
	13	論文執筆・個別指導 (2)	"
	14	論文執筆・個別指導 (3)	"
15	口頭発表・草稿提出 (1)	"	
16	口頭発表・草稿提出 (2)	"	
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料（英語・日本語）。参考資料は個別テーマに応じて適宜配布または紹介する。		
	学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②他人の意見をじっくり傾聴し、自主的かつ積極的に学ぶ姿勢を持つことを期待する。		
	評価 出席・授業参加態度（50%）、口頭発表・卒業論文（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文II」
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	4年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 研究の方法、論文執筆方法について学習し、自らの研究の方向性を明確化します。	メッセージ 4年間の集大成。まずは興味のある分野・トピックをできるだけ絞りこもう。
	到達目標 (1) テーマ設定 (2) 文献リスト・ノート作成 (3) 研究計画作成	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation	
	2	論文とは（講義）	
	3	グループ発表1	
	4	グループ発表2	
	5	グループ発表3	
	6	先行研究報告	
	7	資料収集、テーマ絞り込み、参考文献リスト作成	
	8	参考文献リスト作成・提出	
	9	テーマ決定、文献ノート作成	
	10	テーマ決定、文献ノート作成	
	11	テーマ決定、文献ノート作成	
	12	アウトライン作成	
	13	アウトライン作成	
	14	アウトライン作成	
15	アウトライン作成		
16	アウトライン作成・提出		
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で連絡します。 講義内で別途配布または連絡します。		
	学びの手立て 論文を書く前にモデルとなる論文（先行研究）を読もう。		
	評価 授業態度（出席率、発言、積極性）、提出物を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文II（夏休中にデータ収集・分析、下書きまで進めること）
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	4年	peter@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい The purpose of this class is to give students, either individually or in groups an opportunity to begin work on a creative graduation thesis project.	メッセージ Last year some students produced a traditional graduation thesis in English, while others organized and went on a study tour to the Philippines,
	到達目標 To begin working on a project which students will feel proud of on graduating.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) Initially, in groups, students will create a short presentation based on the work of a contemporary Okinawan artists (i.e. dancer, writer, performance artist, drama group). Then, either individually, or in groups, students will begin to develop a creative project. This could include, but is not limited to, short plays, installations, performance art, and creative writing. The creative use of language, and in particular Okinawan language varieties will be greatly encouraged.
	テキスト・参考文献・資料など No text is required for this class.
	学びの手立て This will depend on the type of project students decide to create.
	評価 Assessment will be based on students' contributions to the project both in and out of class, and peer evaluation, perhaps by a democratically appointed group leader

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文II
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性

本学科で学んだ講義を基に、専門的知識や情報処理能力を活かし、卒業論文を仕上げる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	4年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい 大学生生活4年間の締めくくりとして明快で論理的な論文を書くことを目的とする。テーマについては、日本語教育、バイリンガル教育、第二言語習得、日英語比較等、言語教育・言語文化に関するものであればとくに限定しない。	メッセージ 興味のあるテーマを探しましょう。長期に渡って地道に書きあげていく作業なので、1年間、楽しく取り組める好きなテーマを選択しましょう。
	到達目標 まず資料の収集方法、資料の読み方、論文の体裁、執筆方法など、論文作成の基本を再確認する。続いて、テーマの最終設定をし、論文のアウトラインについて決定した後、発表を行い、論文執筆へ取り掛かる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	テキストの読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）
	3	テキストの読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）
	4	テキストの読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）
	5	個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）
	6	個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）
	7	個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）
	8	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）
9	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）	
10	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）	
11	個人発表（主要先行文献の要旨発表および現段階での課題について）	
12	個人発表（論文概要について）	
13	個人発表（論文概要について）	
14	個人発表（論文概要について）	
15	個人発表（論文概要について）	
16	まとめおよび夏季休暇中の作業日程の確認	
実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。	
	学びの手立て テーマに沿った先行研究の読み込みをできるだけたくさんしましょう。資料、参考文献の収集もこの時期でおきましょう。資料や情報がキーとなります。	
	評価 出席率、発表内容、討議への貢献度等、総合的な観点から評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文Ⅰ」を履修した後は、「卒業論文Ⅱ」へ進む。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ケイト オカラハン	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

※ポリシーとの関連性

本学科で学んだ講義を基に、専門的知識や情報処理能力を活かし、卒業論文を仕上げる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	4年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文を完全にまとめあげていくことを目的とする。後期は夏季休暇中におおよそ書き上げた各自の論文について中間発表をすることから始める。発表する際は、レジュメ、参考文献リストおよび資料を準備し、ゼミのメンバー全員に配布する。この段階で論文の体裁、参考文献リストの様式などについて再度チェックする。あわせて、発表後の討議と講評を参考に論文の最終仕上げに入る。	大学4年間の集大成として全力を注ぎ、各自で計画的に進めて、最後まで書き上げましょう。
到達目標	各自の設定したテーマについて、資料収集、結果、分析、考察とまとめをし、学術論文を書きあげる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	中間発表（討議および講評）	
	3	中間発表（討議および講評）	
	4	中間発表（討議および講評）	
	5	中間発表（討議および講評）	
	6	中間発表をうけての個人面談および指導	
	7	中間発表をうけての個人面談および指導	
8	中間発表をうけての個人面談および指導		
9	中間発表をうけての個人面談および指導		
10	中間発表をうけての個人面談および指導		
11	下書き原稿提出		
12	下書き原稿返却、加筆修正		
13	下書き原稿加筆修正		
14	最終原稿提出		
15	論文最終発表会（学外ゼミ）		
16	卒業論文集作成		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。 各自の研究テーマに応じて適宜紹介する。		
学びの手立て	論文作成のプロセスにそって地道に研究して行けば、卒業論文は、仕上がります。ひたすら書くことです。		
評価	出席率、発表内容、討議への貢献度、卒業論文の内容、など総合的な観点から評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 論理的な文章の書き方を将来の職業にも活かせるようにする。どんな人が読んでも伝わる文章作成を心がける。
-------	---

※ポリシーとの関連性 Students will be expected to write and communicate in English h.

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ピーター シンプソン	4年	peter@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい The purpose of this class is for students to complete the creative project they began in the first semester, share it with the public, and write a report explaining the history and purpose of their project.	メッセージ Last year some students produced a traditional graduation thesis in English, while others organized and went on a study tour to the Philippines,
	到達目標 To produce a successful project which students will feel proud of on graduating.	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) Students will complete the creative project they began in the first semester and either display or perform it in front of an audience, either at the university festival or some other forum. They will then write an extended report in English (1,000-1,500) explaining the history and rationale behind the project, and their reflections on creating it.
	テキスト・参考文献・資料など No text book is required for this class.
	学びの手立て This will depend on the nature of the project students decide to pursue.
	評価 Assessment will be based on students' contributions to the project both in and out of class, and peer evaluation, perhaps by a democratically appointed group leader

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文I
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	4年	研究室を訪問ときは必ず事前に予約を取ること。e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学生生活の集大成として、各自が設定したテーマに沿って、学術論文作成の基本を学びながらオリジナルな論文に仕上げることが目指す。対象分野は、言語学や外国語教育、コミュニケーション、異文化理解などである。	メッセージ 創造性あふれる卒業論文を完成させることを通じて、専門知識をより深めるだけでなく、問題提起、課題解決の方法、論理的な文章作成の方法などを学び、社会に出た後にも役立つ「思考力、判断力、表現力」を身につけること。
	到達目標 原稿執筆の個別指導が中心となる。学生が収集したデータを系統的に整理・分析を行い、その結果を考察し論文としてまとめる。数回の個人発表をしながら、卒論を作成していく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	各回の授業ごとに指示する
	2	中間報告 (1)	"
	3	中間報告 (2)	"
	4	論文執筆・個別指導 (1)	"
	5	論文執筆・個別指導 (2)	"
	6	論文執筆・個別指導 (3)	"
	7	論文執筆・個別指導 (4)	"
	8	論文仮提出	"
	9	手直し	"
	10	論文再提出	"
	11	手直し	"
	12	論文本提出	"
	13	口頭発表・質疑応答 (1)	"
	14	口頭発表・質疑応答 (2)	"
15	口頭発表・質疑応答 (3)	"	
16	口頭発表・質疑応答 (4)	"	
	テキスト・参考文献・資料など 配布資料 (英語・日本語)。参考資料は個別テーマに応じて適宜配布または紹介する。		
	学びの手立て ①課題提出期限の厳守。②他人の意見をじっくり傾聴し、自主的かつ積極的に学ぶ姿勢を持つことを期待する。		
	評価 出席・授業参加態度 (50%)、口頭発表・卒業論文 (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	津波 聡	4年	satoshi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 研究成果をまとめ、発表会において報告する。	メッセージ 4年間の集大成を発表しよう。
	到達目標 (1) 卒業論文を仕上げる (2) 論文の内容を発表し、質疑に答える	

学びの準備	ねらい 研究成果をまとめ、発表会において報告する。	メッセージ 4年間の集大成を発表しよう。
	到達目標 (1) 卒業論文を仕上げる (2) 論文の内容を発表し、質疑に答える	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日程・進捗状況確認、卒業論文集作成委員選出	
	2	論文執筆（個別指導）	
	3	論文執筆（個別指導）	
	4	論文執筆（個別指導）	
	5	論文執筆（個別指導）	
	6	1st Draft提出	
	7	論文執筆（個別指導）	
	8	論文執筆（個別指導）	
	9	論文執筆（個別指導）	
	10	論文執筆（個別指導）	
	11	論文執筆（個別指導）	
	12	2nd Draft提出	
	13	卒論発表会	
	14	卒論発表会	
	15	卒論発表会	
16	卒論発表会		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜配布します。 講義内で別途配布または連絡します。
	学びの手立て 提出期限を厳守しよう（卒論集作成、卒論発表会の日程は変更できません）。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜配布します。 講義内で別途配布または連絡します。
	学びの手立て 提出期限を厳守しよう（卒論集作成、卒論発表会の日程は変更できません）。

学びの実践	評価 出席状況、論文内容、発表、提出期限を総合的に評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	追立 祐嗣	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	学びの手立て
	評価

学びの実践	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化コミュニケーション論	前期	火2・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ケイト オカラハン	4年		

学びの準備	ねらい This will be a lecture style class with the odd break for discussion of themes that have been explored. The class will be taught in English. The student should be prepared to speak his or her opinion on the topics that arise. This will be a challenging class with many opportunities to get deeper into the concept of culture.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) We shall follow the contents of the assigned textbook. All students MUST purchase a copy by the third class. Some of the topics covered will be Education: values and expectations, Work Practices and Attitudes, Family types and traditions.	
	テキスト・参考文献・資料など Beyond Language Cross Cultural Communication. Deena Levine Mara B. Adelman Longman 3, 550Y	
	学びの手立て	
	評価 Attendance, Participation, four essay tests and a final paper will get towards grades in this class.	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Discussion Skills	後期	月2・木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ケイト オカラハン	3年		

学びの準備	ねらい The goal of this class is to enhance and develop student's discussion skills by giving them a forum in which to use and improve them. Various types of discussion will be analyzed and effectuated. With close attention being paid to appropriate language for different settings. Please note that this class will be conducted entirely in English.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント <u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u> Themes shall be student generated whilst material will be supplied by the professor.
	テキスト・参考文献・資料など Details of the text will be given on the first day of class.
	学びの手立て
	評価 60% of this class grade will be earned in the class during the semester. A detailed breakdown will be provided on the first day of classes. 40 % will come from two oral performances

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Debate	前期	月3・木3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	次のステージ・関連科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	同時通訳	前期	火3・金3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 美智子	3年	授業終了後に教室で受付けます。質問はmichikoshimabukuro@gmail.comまで。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>通訳の訓練法を通して英語、日本語の能力を高める。通訳者の心構え、訓練メソッドを説明を行う。リスニング強化、英語要約を行う。音読重視。逐次通訳及び、同じテキストを用いて、サイトトランスレーション、同時通訳の基礎訓練を行う。プロ通訳者のパフォーマンスを見る。同時通訳のペアワークについて学ぶ。</p>	<p>英語のレベルも日本語のレベルも高く設定します。また厳しく指導を行います。毎回授業に出席するという心構えで参加する学生に勧めます。遅刻は原則として認めません。講義の初日のオリエンテーションは必ず受講すること（通訳訓練メソッドの説明を行うため）。クラス毎に宿題がありますので必ず予習をしてください。スピーチなどの音声ファイル録音用の記録メディアを携帯してください。</p>

学びの準備	到達目標
	<p>1. 速い英語をシャドウすることにより集中力が高まる。リスニングの量が多い為、把握する力が高まる。英語で要約するスキルが付く。2. 丁寧な日本語で訳出することが求められる為に日本語能力が高まる。3. スピーチ、対談、ニュースを聞くことにより国際情勢、国内情勢、ビジネス、医療、文化などの分野で知識が高まる。4. 英語を目で追いながら訳出するサイトトランスレーションにより、素早く文献の内容を把握する力がつく。5. 英語の数字を的確にメモし、把握し、日本語に変換するスキルがつく。6. プロ通訳者のパフォーマンスを見ることにより、通訳者の態度、スキルを学ぶ。7. 英語を聞きメモを取るスキルがつく。同時通訳の基礎が身につく。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	通訳について。訓練メソッド説明、単語増強の必要性、リスニング強化について	2週毎のシラバスに
	2	テキスト1：英語のシャドーイング、英語要約、逐次通訳、ノートテイキング	明記された宿題を宅で行う。
	3	テキスト1：サイトトランスレーション、同時通訳練習、プレゼンを行う。	以下同じ。
	4	テキスト2：指定テキストのシャドー、サイトラ。英語のインタビューを聞いて英語要約	
	5	テキスト2：ノートテイキング、逐次通訳。同時通訳練習、プレゼンを行う。	
	6	テキスト3：日本語のスピーチを聞いてシャドー、英語の要約。逐次通訳を行う。	
	7	テキスト3：ペアでサイトラを行い、同時通訳練習、プレゼンまで。	
	8	テキスト4：英語のスピーチのシャドー、要約、サイトラまで。	
	9	テキスト4：ペアでサイトラ練習、同時通訳練習、プレゼンまで。	
	10	テキスト5：プロ通訳の入る映画記者会見を見てシャドー、通訳分析を行う。	
	11	テキスト5：ペアでサイトラ、同通練習、プレゼンまで。	
	12	テキスト6：数字の英語を聞いてメモを取る。桁の大きな数字を練習問題で拾う。	
	13	テキスト6：数字の英語を聞き取る練習の続き。	
	14	テキスト7：日本語のエッセイ朗読を聞いて英語で要約、ノートテイキング、逐次通訳。	
	15	テキスト7：ペアでサイトトランスレーション、同通練習、プレゼンまで。	
	16	16-29はテキストを替えて上記の繰り返しとなります。	
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30	期末テストのリハーサルを行う。PC録音のため、一度リハーサルを行います。		
31	期末テスト実施：通訳の実技テストを行い、講師がその録音を聴き、評価する。		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>1. (予定) 「超音読レッスン・世界の名スピーチ編」 鹿野晴夫著 IBCパブリッシング出版 2000円程度 2. 講師の編集するテキスト(新聞記事、online記事、音声ファイルとして、スピーチ及びインタビュー、ニュース、エッセイ、通訳ビデオなど。 参考文献： 1. 「トレンド日米表現辞典」小学館03-3230-5745 2. 少なくとも20万語以上の英語辞書、広辞苑。3. 通訳翻訳ジャーナル 4. 英語字幕付きのシネマ</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>学びの手立て：遅刻は原則として認めない。理由如何により4分までは認めるがそれ以降は欠席扱いとする。授業初日は受講必須ですので必ず受ける事(通訳メソッドの説明を行います)。2週間ごとにシラバスを配布します。テキストや資料はクリアファイルに入れて毎回持参してください。クラス毎に課題がありますので。リスニング、シャドーイング、サイトラ(頭出しの訳出)などの予習が必要です。宿題はやったものとして授業を進めます。出席を重視しますので極力休まないようにしてください。</p>
	<p>評価</p> <p>評価方法：1. 学期の終了時に通訳実技テストを行う(成績は5段階で評価し、3以上が講座を修了することができます。2. 出席に関しては全クラスの3/4以上を修了の条件とする。出席重視。3. 課題のレポートを提出する：「プロ通訳のパフォーマンス分析」</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>通訳の基礎を学んだ後は、実際に通訳の現場で通訳をやることです(ボランディア通訳など)更に、通訳付きの講演会があれば見て分析を行い自分の通訳に活かすことです。長い道のりがあります。あきらめずにスキルを伸ばす強い気持ちが必要です。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日英語比較研究	後期	火2・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	3年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義では日本語と英語の比較を通して、表現方法から見える「物事の考え方や捉え方」、文化的背景に由来する「発想や価値観」などの共通点や相違点を学ぶ。映画やドラマ・ことわざ・日常会話など、身近な材料を用いた日本語と英語の比較研究から、日本人学習者が英語を学習する際に役立つアプローチ方法を探る。	メッセージ
	到達目標 このクラスを受講し、内容を理解した学生は、文化的背景に由来する「発想の違い」や「価値観の違い」が、どのように英語や日本語に表れているのかが理解できるようになります。また、学習した知識から、日英語における映画やドラマ・ことわざ・日常会話などの身近な材料に隠されている、様々な言語的・文化的相違について自分の言葉で説明できるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	「文化」に根付いた英語・日本語表現	
	3	「文化」に根付いた英語・日本語表現	
	4	英語・日本語を通してみる「自己」の捉え方	
	5	英語・日本語を通してみる「自己」の捉え方	
	6	英語・日本語を通してみる「縄張り意識」	
	7	英語・日本語を通してみる「縄張り意識」	
	8	「する」言語と「なる」言語	
	9	「する」言語と「なる」言語	
	10	英語・日本語を通してみる「事象」の捉え方	
	11	英語・日本語を通してみる「事象」の捉え方	
	12	プレゼンテーション課題の選択	
	13	プレゼンテーション課題のディスカッション	
	14	ことば遊びからみる英語と日本語	
	15	ことば遊びからみる英語と日本語	
	16	ジョークからみる英語と日本語【同音異義語】	
	17	ジョークからみる英語と日本語【同音異義語】	
	18	「時間表現」からみる英語と日本語	
	19	「空間表現」からみる英語と日本語	
	20	共感覚と言葉	
	21	共感覚と言葉	
	22	プレゼンテーション①	
	23	プレゼンテーション②	
	24	プレゼンテーション③	
	25	プレゼンテーション④	
	26	英語・日本語を通してみる「慣用句」	
	27	英語・日本語を通してみる「敬語表現」	
	28	英語・日本語を通してみる「表現構造」の違い	
	29	メタファーからみる英語と日本語	
30	メトノミーからみる英語と日本語		
31	講義のまとめ・期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義内で資料を適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て 履修の心構え ・クラスは学生・講師と一緒に協力しながら進めていくものです。 ・常に疑問を持ちながら、アクティブに講義に参加して下さい。</p>
	<p>評価 【平常点：30点】講義内での質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし、10回クラスを欠席した時点で不可とする。 【課題・グループワーク・発表：30点】グループ毎に興味の持てるテーマを見つけ発表をする。 【期末テスト：40点】講義内容の学習・確認を目的とする。 *初回の講義の出席が、履修条件となります。初回欠席者は履修不可となるのでご注意ください。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語現代文法Ⅰ	前期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい みなさんは「日本語」を知っていますか？もちろん毎日話しているのだから当然知っていると思うかもしれませんが、「話せる」と「ことばを知る」とは異なるものです。このクラスでは、名詞・形容詞・動詞の種類、授受表現や使役文などを通し、日本語学習者に対して日本語を説明するために必要な基礎知識を学ぶ事を目的とします。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション 【日本語を説明してみよう！】	
	2	「このケーキ食べるですか？」の違いを説明しよう【名詞，動詞，形容詞】	
	3	「楽しいのテレビを見たい」の違いを説明しよう 【イ形容詞，ナ形容詞，その他の品詞】	
	4	「頂上を登った」の違いを説明しよう 【格助詞】	
	5	「楽しく暮らす」vs.「楽しく住む」？ 【出来事動詞・存在動詞】	
	6	「TVのチャンネルを変えなかった」の違いを説明しよう！ 【動詞の種類の見分け方】	
	7	「TVのチャンネルを変えなかった」の違いを説明しよう！ 【動詞の種類の見分け方】	
	8	これまでのまとめ・復習	
	9	講義のまとめ・中間テスト	
	10	「この作文は小学生に書かれました」はどうして不自然？ 【受動文・間接受動文】	
	11	「この作文は小学生に書かれました」はどうして不自然？ 【受動文・間接受動文】	
	12	「食べられさせた」の違いを説明しよう 【使役文】	
	13	She is happy = 「あの子は嬉しい」？ 【人称・内面表現・外面表現】	
	14	「私は友達にプレゼントをくれた」の違いを説明しよう 【授受表現】	
15	「昨日，大学に行った途中でネコをみかけた」の違いを説明しよう 【時制】		
16	講義のまとめ・期末テスト		
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。		
学びの手立て	履修の心構え ・クラスは学生・講師が一緒に協力しながら進めていくものです。 ・常に疑問を持ちながら、アクティブに講義に参加して下さい。		
評価	【平常点：30点】講義内での課題・質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし，5回クラスを欠席した時点で中間テスト・期末テストの受講は不可 【中間テスト：30点】 【期末テスト：40点】 *初回の講義の出席が、履修条件となります。初回欠席者は履修不可となるのでご注意ください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語現代文法Ⅱで、更に知識を深めていって下さい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

身近な日本語について学習者の視点から考える思考力、またそれを理論的に検討報告するアカデミックスキルの習得を目的とする。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語現代文法Ⅱ	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	1年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	みなさんは「日本語」を知っていますか？もちろん話しているのだから知っていると思うかもしれませんが、「話せる」と「ことばを知る」とは異なるものです。テレビからの1コマ、バイトでの会話など、身近な例をとりあげながら日本語の文法や使用方法について考えていきたいと思ひます。日本語現代文法Ⅰを受講していない方でも、学べる様な講義形態になっています。	
到達目標	このクラスを受講した学生は、日頃何気なく使用している日本語について、理論的に説明できるようになります。また、学習した知識を応用し、日本語学習者が直面している問題を深く理解し、効果的に説明できるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション「日本語現代文法とは？」	講義内で適宜指示する
	2	「夏休み、石垣とか行って〜」（注）行ったのは石垣のみ 【『〜とか』って何？】	講義内で適宜指示する
	3	「私は蕎麦タルトです」 【特別な『AはBだ』文】	講義内で適宜指示する
	4	「英米の里です」「私は英米の里です」「私が英米の里です」 【『は』と『が』の違い】	講義内で適宜指示する
	5	「そんなに飲めるなんて、肝臓がお強いようですね」 【正しいようで間違っている敬語】	講義内で適宜指示する
	6	「お茶、おビール、おケーキ、お便所？」 【知っておきたい敬語の色々】	講義内で適宜指示する
	7	講義・中間テスト	講義内で適宜指示する
8	「そんなお下品なお遊び、知らなくてよ！」【男ことば・女ことば・ステレオタイプ】	講義内で適宜指示する	
9	「そんなお下品なお遊び、知らなくてよ！」【役割語】	講義内で適宜指示する	
10	「『シカとする』は花札が語源って知ってた？」【ことばの由来と隠語】	講義内で適宜指示する	
11	「cu b4 zzzz. WDYT?」これって何？【造語・若者ことば・メールことば】	講義内で適宜指示する	
12	「旅行中、犬にえさをやってあげようか？」はどうして愛犬家を怒らせるの？【授受表現】	講義内で適宜指示する	
13	コソアドことばの使い分け【視点】	講義内で適宜指示する	
14	「『自分、不器用ですから。。。』の高倉健は外国人の目にはどう映るの？」【プラグマティクス】	講義内で適宜指示する	
15	これまでのまとめ・復習	講義内で適宜指示する	
16	講義・期末テスト	講義内で適宜指示する	
テキスト・参考文献・資料など	講義内で適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。		
学びの手立て	履修の心構え ・クラスは学生・講師が一緒に協力しながら進めていくものです。 ・常に疑問を持ちながら、アクティブに講義に参加して下さい。		
評価	【平常点：30点】講義内での課題・質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし、5回クラスを欠席した時点で中間テスト・期末テストの受講は不可 【中間テスト：30点】 【期末テスト：40点】 *初回の講義の出席が、履修条件となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語現代文法Ⅰ・Ⅱで日本語の構造や文法を学習した皆様には、「世界の言語」に目を向け、その言語が持つ珍しい音や文化の奥深さ、また赤ちゃんの日本語習得過程や英語の学習過程、ゴリラの手話などを『言語学概論Ⅰ・Ⅱ』で学んで欲しいと思ひます。また『日英語比較研究』にて、日本語話者と英語話者にみられる「発想の違い」や「価値観の違い」を言語比較から読み解くことにチャレンジして欲しいと思ひます、
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ケリ 綾子	1年	1回目の授業で連絡方法をお知らせします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ピア活動（仲間同士が話し合いを通じて協力的に学び取る方法）を通して論証型レポートの書き方を学びます。読み手に伝わる文章を作り上げ、レポートの質をあげることを目標にします。	レポートの書き方を知り、書けるようになりたいと思っている人、大学生生活の中のレポートを得意分野にしたい人は是非受講してください。参加型のクラスです。受講生どうしが話し合いをします。その話し合いの中から学びとる形で授業が進みます。朝一番のクラスですが、積極的に学びたい、人の話に耳を傾ける勇気がある学生の受講を歓迎します。
到達目標	①レポートとは何かがわかる ②レポートの書き方がわかる ③ピア活動によって仲間同士が協力的に学習を行いながら、知識を探求することが出来る ④ピア・レスポンスで相手に伝わる文章が書けるようになる ⑤ピア活動で、学習仲間を自ら作ることができる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション 1課 この授業で何を学ぶのか	偏愛マップの作成、課題4小論文
	2	級友を知る 1課 レポートとは何か 2課 レポートの形を知る 課題2	2課語彙調べのシート 2課課題1
	3	小論文を使ってピアワーク 2課 レポートのテーマ 課題3、4、5	仮テーマを決める
	4	仮テーマ提出 図書館での情報収集法	思考マップ、構想マップ
	5	小テスト 2課 課題レポートの形を知る 3課 課題3、6	情報カード作成
	6	4課 テーマを絞り込み目標を規定する Q&A構成表	構成表の記入 目標規定文を書く
	7	4課 目標を仮に規定する 5課 文章組み立て 序論、本論、結論	5課 課題3
	8	5課 文章を組み立てる 課題3ピアワーク アウトライン 課題4	アウトラインの表
	9	6課 組み立てを再検討 課題1ピア レスポンス 序論を書き始める	序論
	10	7課 パラグラフを書く 課題7 本論 主張を書く（中心文、理由、証拠	課題7シート 本論を書いてみよう
	11	論文を書く為の力養成（文体、文末、文法など）6課アウトラインにそって本文	p.86課題①を読み課題2をする
	12	8課 本文を書き込んでいく	下書きを進める
	13	9課 引用しながら書く 参考文献の書き方	下書き（第一稿）提出
	14	10課 文章・表現・形式を点検 課題5 13課 レポート全体を振り返る	下書き（第二稿）作成
15	113課 学んだことを振り返る 第2稿を使い、ピア・レスポンス	最終稿を仕上げる	
16	レポート提出とまとめ		

実践	テキスト・参考文献・資料など 『ピアで学ぶ 大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房
----	--

学びの手立て	受講生どうしの話し合いから学び取る形式（ピア活動）で授業が進むので、1. 1校時が始まる9時には席についている（5回以上の欠席は成績は不可となります） 2. 活動を通して学ぶ 3. 人の意見を聞く 4. どうすればいいのか考える 5. 読むこと、書くことを楽しむ 6. 自分たちのクラスを作るという意欲を持つ
--------	--

評価	毎回の活動（30%）ピアワークの活動の参加度提出シート（20%）毎回提出シートに記入し振り返りを行います 宿題（20%）つぎの活動につながる準備として資料集め、考えなどを書く宿題 レポート（30%）学期をとおしてレポートを仕上げます
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 今回は学んだ論証型レポートに書き方を、他のレポートを書く力として活用してほしい。また、学ぶこと研究する楽しさを感じてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

「論理的な文章」作成の過程での論理的思考力、批判的思考力の育成、及び、コミュニケーション能力、日本語表現能力の向上。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	元山 由美子	1年	E-mail:yumimoto3@gmail.com	

学びの準備	ねらい 大学におけるレポートとは何かを理解し、ピア活動（仲間同士が話し合いを通じて協力的に学びとる学習活動）を通して、レポートの作成方法や議論の仕方などを学びます。情報の収集や分類を行い、立場を明確にし、論理的に展開していく論証型のレポートを完成させることをめざします。	メッセージ 「書く」ことに苦手意識を持っていませんか。「書く」上でのルールをればわかりやすい文章を書くことは可能です。一人では不可能なことも仲間同士が話し合うことで、解決していきます。日本語で話す、聞く、読む、書くことを改めてとらえなおし、よりよい社会人になるための基盤をここで身につけてほしいと思います
	到達目標 ①レポートの文体・表記など書記日本語の基礎を身につける。②レポートを書く際に気をつけるべきことに気づく。③論理的文章の書き方（書く手順や構成）がわかるようになる。④ピア活動でコミュニケーション能力を養う。⑤文献検索と文献処理ができるようになり、必要な情報を収集することができる。⑥批判的・論理的思考力を育成する。⑦他者の論文を読み、そのテーマについての自分の意見・反論・疑問点について述べるができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション 1課 この授業で何を学ぶかを知る	小論文を書いてみる（宿題）
	2	1課 レポートとは何か、批判的思考力とは何か	小論文提出
	3	2課 レポートの形を知り、アイデアを練る	テーマを決める（仮）
	4	図書館での情報収集法（参考文献や資料の探し方を知る）	思考・構想マップ作成
	5	3課 構想を練り、情報を調べる	情報・文献カードの作成
	6	4課 テーマを絞り込み、目標を規定する	構成表完成
	7	5課 文章を組み立てる 文章の構成を知り、文章展開のパターンを知る	目標規定文の提出
	8	5課 文章を組み立てる アウトラインの作成	アウトラインを仕上げる
	9	6課 組み立てを再検討する	序論の作成
	10	7課 パラグラフを書く	本論を書く
	11	論文を書くための基礎力養成（書き言葉/文のねじれ/あいまいな文などの練習）	宿題プリント配布
	12	8課 本文を書き込んでいく	引用文の準備
	13	9課 引用しながら書く	結論を完成させる
	14	10課 文章・表現・形式を点検する	形式を整える
	15	13課 学んだことを振り返る	下書きを提出（添付）
16	レポート提出&まとめ		

実践	テキスト・参考文献・資料など 大島弥生他 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現「第2版」 プロセス重視のレポート作成』 ひつじ書房 木下是雄 『レポートの組み立て方』 ちくまライブラリー 樋口裕一 『やさしい文章術—レポート・論文の書き方』 中公新書ラクレ 野口悠紀雄(2002) 『「超」文章法』 中公新書 その他必要に応じて随時紹介
----	--

学びの手立て	①教師の一方通行の授業ではなく、教師とクラスメート同士の双方向の授業形態です。受身ではなく、積極的に調べる・考える・話すことが求められます。②大学では、議論の場で自分の意見を聞き手に伝わるように発言し、レポートや卒業論文で自分の書きたいテーマを見つけ、それを読み手にわかるように表現しなくてはなりません。まずは、意見を持つこと、そして、書きたいテーマを見つけることが学びを深める第一歩です。身近な問題や社会・世界の出来事に関心を持ち、それについて知識を増やし、考えを深めましょう。③毎回テキストを読んで授業に臨むこと。
--------	---

評価	毎回の活動20%、提出物20%、レポート60%などで総合的に評価する。
----	-------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①この授業だけでは、レポートや論文を書く力が十分ついたとは言えません。書く力を伸ばすためには、日本語を読み書きする力の大切さを理解し、文字情報にふれる機会を意識的に増やしましょう。②社会人への第一歩として、他者とわかり合える「論理的な視点」で考え、その結果を「プレゼンテーション」する技能を身につけるといいでしょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-ケリ 綾子	1年	1回目の授業で連絡方法をお知らせします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。具体的には、普段の生活の中で気になっている日本語についてグループごとに実態調査をし、発表します。	日本語に関する調査、考察、発表、レポート作成に興味がある学生の受講を歓迎します。アンケート作って調査をしてみると、今まで答えてきたアンケートの意図を再発見するかもしれません。

到達目標	①言葉に興味を持てる。②アンケートの質問の善し悪しがわかる。③結果を分析することができる。④パワーポイントなどを使って結果を発表することができる。⑤分析、考察を加えレポートが書ける。⑥発表を聞いて質疑応答に積極的に参加できる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション プロジェクトワークの目的	
	2	ウチナーヤマトグチ 文体 文章の書き方	アンケートで調べたいこと
	3	敬語 メール文 プロジェクトワークについて アンケートについて	アンケート質問案
	4	プロジェクトワーク (1) アンケート質問事項作成	アンケート案をメール添付で提出
	5	プロジェクトワーク (2) 発表の仕方、資料の作り方 試しアンケート	アンケート用紙 印刷
	6	プロジェクトワーク (3) レジュメの作り方 項目別に予測をたてる	アンケート調査実施
	7	プロジェクトワーク (4) アンケート集計、考察	アンケート結果考察の資料探し
	8	プロジェクトワーク (5) 引用/参考文献の記入方法 レジュメ、資料作成	発表準備
	9	プロジェクトワーク (6) 質疑応答の仕方、発表評価の記入法	発表準備 レジュメ
	10	発表練習 各グループで口頭練習	発表準備
	11	発表 (1)	発表15分 質疑応答 5分
	12	発表 (2)	レポート第一稿提出
	13	発表 (3)	発表評価結果を参考にレポート修正
	14	発表 (4)	レポート最終チェック
15	発表 (5)	レポート最終稿提出	
16	振り返りとまとめ		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業で必要資料を配布します。
-------	----------------------------------

学びの手立て	グループでの活動（アンケート調査、集計、結果発表、レポート作成など）をしながら学びます。そのためグループ活動に積極的に参加しようという意欲をもって受講してください。グループ活動が進むように遅刻や欠席がないようにしてください。尚、欠席5回以上の場合成績は不可となります。遅刻は3回で欠席1回と計算します。
--------	---

評価	平常点・教室活動 (30%) 提出物・レポート (20%) プロジェクトワーク・発表 (50%)
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 アンケート調査の経験をもとに、言語に関する疑問や実態を分析することへの興味を持ち、研究とは何かを考えてほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	元山 由美子	1年	E-mail:yumimoto3@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは外国語を習得するための土台となります。この授業では、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。後期は、書く、調べる、発表するなどのアカデミック・スキルのトレーニングをします。具体的には、普段の生活の中で気になっている日本語についてグループごとに実態調査をし、発表します。</p>	<p>このクラスを受講する学生の期待像は、次のとおりです。①言語に興味がある。②日本語に関する調査、考察、発表、レポート作成に興味がある。③アンケート調査をしてみようと思っている。④グループ活動に積極的に参加しようという意欲がある。⑤発表の仕方が知りたい。⑥発表や分析を通して、研究の面白さを知りたい。①～⑤に当てはまる人はぜひ受講してください。</p>

到達目標	<p>①普段使っている日本を意識し、言葉について深く知る。②目的に沿ったアンケート調査票を作成することができる。③調査の結果をグラフにし、分析・考察することができる。④プレゼンテーションしたい内容を基にしたレジюмеやパワーポイントなどの発表資料とレポートとの表現形式の違いを学ぶ。⑤資料の準備・提示の仕方、話し方、態度など、効果的な発表の方法を知る。</p>
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション プロジェクトワークの目的	シラバスを読んでおく
	2	自分の日本語を振り返る ウチナーヤマトグチ	宿題プリント配布
	3	敬語、メール文	トピックを決める
	4	プロジェクトワークについて グループ分け、トピック決定	
	5	プロジェクトワーク(1) アンケートの質問事項の作成方法	テストアンケートをとる
	6	プロジェクトワーク(2) アンケートの質問事項完成	アンケート用紙の印刷
	7	プロジェクトワーク(3) 予測をたてる、参考文献の記入の仕方	アンケートをとる
	8	プロジェクトワーク(4) 集計、考察、	
	9	プロジェクトワーク(5) 発表資料作成、質疑応答の仕方、発表評価の記入法	グラフやパワーポイントの作成
	10	発表練習 各グループで口頭練習、レジюме作成	発表原稿の作成、レジюмеの印刷
	11	発表(1)	
	12	発表(2)	
	13	発表(3)	
	14	発表(4)	レポートの提出
15	発表(5)		
16	まとめ		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト:ハンドアウトを配布する。 参考文献:『日本語バイリンガルへのパスポート』沖縄国際大学日本語教育教材開発研究会(1000円) 適宜紹介する。</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ作業が中心になるので、欠席・遅刻は厳禁です。どうしても欠席・遅刻をする場合は事前に連絡してください。 ・発表はパワーポイントで行うので、パワーポイントの作成やグラフの作成方法などが学べるクラスの受講は必須です。 ・現代は、プレゼンテーション能力が問われる時代です。プレゼンテーション能力とは、発表すべきよい内容を持ち、それを効率よく他者に伝える力です。しかし、うまくいかないこともあります。次のよりよい発表のために、発表後の意見やコメントを通して発表資料をさらに改善し、すべての発表が終了した後に最終発表資料として提出してください。
--------	---

評価	<p>平常点(出席、授業への参加度など) 30%、提出物・レポート 20%、プロジェクトワーク・発表 50% などで総合的に評価</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本語を客観的に見る力をつけるために、「日本語文法」の受講をすると、さらに日本語の知識が深まります。日本語の知識と運用能力を測定する「日本語検定」(特定非営利活動法人日本語検定委員会が主催)は就職にも役に立つので、ぜひチャレンジしましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Public Speaking	後期	月3・木3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て

学びの継続	評価
	次のステージ・関連科目

学びの継続	
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス英語	後期	火1・金1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島袋 美智子	2年	授業終了後に教室で受付けます。 michikoshimabukuro@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスに関する英語表現を学ぶ。テキストを用いて発音、シャドウイングを行う。英語名刺の作成、英文履歴書、Eメールの書き方を練習する。商品開発をグループで行いプレゼンを行う。ビジネストリップ計画と請求書作成を行う。ウェブを用いて情報収集を行う練習をする。ペアでビジネス起業を想定して企画を行いプレゼンを行う。</p> <p>到達目標</p> <p>1 英語のビジネスカード（名刺）が作成できる。英文履歴書が作成できる。2 英語で資料請求や就活のメールが書ける。3 商品開発の企画、プレゼンを通してチームワークやプレゼンができる。プレゼンの分析ができる。4 海外出張の企画を作り、航空券の予約、ホテル予約、請求書が作成できる。5 電話の英語表現を発話練習することにより色々なシチュエーションで電話表現ができる。6 英語の数字を聞き取ることができる。特に電話番号、時間など。桁の大きな数字に慣れることによりメモで数字が取れる。日本語へ変換することができる。7 ビジネス起業をペアで企画することにより、金融機関からの融資、返済計画を立てることができる。8 英語の新聞を読み内容を把握できる。</p>	<p>実際に企画やリサーチを行いますので講義ではなく実践のクラスを想定して下さい。厳しく指導します。タスクは全て仕上げて提出して下さい。クラス内で行うことは限られていますので毎回持ち帰りの課題を出します。ウェブサーチなどを通して英語のサイト検索になれるようにして下さい。ビジネス関連の動画を沢山見ることが勧めます。タスクについて分からない事は必ず講師に確認して下さい</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/スケジュール/約束事/タスクの提出について	2週間毎のシラバスに明記された宿題を行う。
	2	英語のビジネスカード（名刺）を作成する。クラスメートと名刺交換を行う。	以下同じ。
	3	名刺のモデル回覧、英文履歴書の作成を行う。日本語履歴書との違いを認識する。	
	4	英文履歴書の続き。クラスメートと交換して相違点を分析する。モデルの回覧。	
	5	Eメールを2つ英語で作成する。1 資料請求、2 履歴書添付の就活メール	
	6	Eメール作成の続き。交換して分析、プレゼン	
	7	商品開発のプレゼンを想定してグループに分かれて企画を行う。	
	8	商品開発の企画、スライドを作成する。ウェブサーチ、作業分担を行う。	
	9	商品開発の続き。スライドをまとめる。プレゼンの準備。	
	10	商品開発のプレゼンを行う。グループ1-3まで。残りの学生はプレゼンの分析を行う。	
	11	商品開発のプレゼンの続き。グループ4-6まで。プレゼンの分析。	
	12	ビジネストリップを想定して企画を行う。グループに分かれて企画書作成の準備。	
	13	ビジネストリップの企画続き。ウェブサーチ、航空券、ホテルの予約。観光も調べる。	
	14	ビジネストリップの仕上げ。会社への請求書を作成する。プレゼンを行う。	
	15	数字の英語1 数字のチャートで英語の数字の発音、桁について学ぶ。聞き取り練習。	
	16	数字の英語2 数字の聞き取り練習を行う。	
	17	電話の英語表現1 ウェブの動画でビジネスの電話表現を学ぶ。発話する。	
	18	電話の英語表現2 ペアで電話の表現を想定して練習を行う。プレゼン。	
	19	ビジネスの記事を英字新聞で読む。単語を拾う。音読のプレゼン。タスクの返却。	
	20	英語のシネマを見る。見ながら台詞を書き出す。提出する。	
	21	ビジネス起業1 ペアで何を起業するか企画する。アイデアを出す。作業分担。	
	22	ビジネス起業2 金融機関から資金を借りる。人件費、オフィス賃貸など企画	
	23	ビジネス起業3 商品の内容、年間売り上げ目標など。スライドの作成をする。	
	24	ビジネス起業4 広告について。負債の返済計画。会社名決める。	
	25	ビジネス起業5 スライドを用いてプレゼンを行う。グループ1	
	26	ビジネス起業6 スライドを用いてプレゼンを行う。グループ2	
	27	ビジネス起業7 プレゼン続き。グループ3	
	28	タスク返却 ビジネス記事を読む。	
	29	期末テストについて説明。タスク返却。	
30	テキストのレビューを行う。大学からのアンケート記入。		
31	期末テスト実施（リスニング、ディクテーション、記述問題、講座アンケート）		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 (予定) 「英会話ペラペラビジネス100」 スティーブソレイシイ著 アルク出版 2160円程度 2 The Wall Street Journalなどのニュースサイトで情報収集
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>遅刻は原則として認めない。理由如何により4分までは認めるがそれ以降は欠席扱いとする。授業初日はオリエンテーションですので必須とします。2週間ごとにシラバスを配布しますので講座の内容を常に把握すること。テキストや資料はクリアファイルに入れて毎回持参してください。クラスごとに課題がありますので宿題は必ずやること。授業は宿題をやったものとして進めます。出席を重視しますので極力休まないようにしてください。疑問、質問は必ず講師に聞いて確認すること。</p>
	<p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1学期末にテストを実施する(100のうち60以上が講座を修了できる) 2出席重視 3タスクの全提出を評価の最低条件とする 4グループワーク、ペアワークへの積極的参加、プレゼンテーションの評価。 5最終評価は1から4までを見て総合的に判断する。
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネスの基礎を学んだ後は、個々の事項について知識をさらに深めていくこと。常に好奇心を持ち、世の中の動きを察知すること。自主性、積極性を持ち続けること。失敗しても諦めない強い気持ちがビジネスパーソンには必要です。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネス英語	後期	火1・金1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ケイト オカラハン	2年		

学びの準備	ねらい The students attending this class will be introduced to various facets of the world of international business. From product inception to international marketing and all the steps in between. This will be an active, fast moving, challenging class. Students must be prepared for the lessons by doing research outside the classroom before every class.	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) While the basis of the class will follow the text structure, extra work will be required of the students every week before the next meeting. The students will need to bring the extra research into class every week.	
	テキスト・参考文献・資料など Widgets, Pearson Longman publishers	
	学びの手立て	
	評価 The students will earn their grades through active participation (bringing the required research to class every week to use), evaluated group role play, presentations and attendance. A detailed breakdown will be distributed on the first day of class.	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Pronunciation Workshop	後期	月2・木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 イニッド	2年	By appointment only. e.lee@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>This lecture-lab course provides training in recognition and reproduction of English speech. Students will learn all aspects of English pronunciation (e.g. individual sounds, accent, rhythm, connected speech, reduction, phrasing, intonation) and develop listening and speaking skills through receptive and productive practice.</p> <p>到達目標</p> <p>By the end of the course, students will have identified their personal strengths and weaknesses as a speaker of English and gained the knowledge and skills that help them communicate more effectively.</p>	<p>There is no shortcut to success. Anyone who is serious about improving their pronunciation skills must practice, practice, practice.</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Introduction	To be announced in class.
2	Vowels (1)	"	
3	Vowels (2)	"	
4	Vowels (3)	"	
5	Review; Quiz I	"	
6	Consonants (1)	"	
7	Consonants (2)	"	
8	Consonants (3)	"	
9	Review; Quiz II	"	
10	Accent & Rhythm	"	
11	Liasion	"	
12	Reduction	"	
13	Review; Quiz III	"	
14	Phrasing	"	
15	Intonation	"	
16	Review; Quiz IV	"	
	テキスト・参考文献・資料など		
	To be announced in class.		
	学びの手立て		
	Regular class attendance and active participation are essential. All students are expected to comply with classroom rules, participate in class activities and finish homework assignments on time. Failure to do so will result in poorer grades, possibly zero points.		
	評価		
	Attendance, Class Participation & Assignments (50%), Quizzes (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「英語音声学」
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	Pronunciation Workshop	前期	月1・木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	里 麻奈美	2年	開講前はm.sato@okiu.ac.jpで、開講中は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 単語も文法もあっているはずなのに何故か英語が通じない。。。こんな『ジレンマ』感じた事はありませんか？このクラスでは、「英語の発音が上手になりたい」と願うみなさんに、①英語の音を正しく発音するためには「唇、舌、歯」をどのように使えばいいのか、②連続する単語の発音や、③音の脱落やイントネーションの重要性などについて、ひとつずつ丁寧に練習していく事を目的とします。	メッセージ 発音の上達には「地道な個人練習」が必須です。このクラスでコンセプトを学んだら、実践練習で自分の発音に磨きをかけて下さい。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内に適宜指示する
	2	CALLの使い方・ウォークショップ	同上
	3	英語らしい発音って何？【今の発音力を録音しておこう！早口言葉】	同上
	4	子音【日本語にもある有声音vs. 無声音】	同上
	5	子音【日本語にもある有声音vs. 無声音】	同上
	6	子音【日本語にはない有声音vs. 無声音】	同上
	7	子音【日本語にはない有声音vs. 無声音】	同上
	8	子音【鼻音と強敵のR vs. L】	同上
	9	子音【ややこしい音】と子音の復習	同上
	10	子音【ややこしい音】と子音の復習	同上
	11	連続する子音	同上
	12	連続する子音	同上
	13	母音	同上
	14	母音	同上
	15	母音	同上
	16	これまでのまとめ・復習	同上
	17	復習・中間テスト	
	18	単語どうしのつながり	同上
	19	単語どうしのつながり	同上
	20	音の脱落	同上
	21	音の脱落	同上
	22	縮約形	同上
	23	縮約形	同上
	24	リズム	同上
	25	リズム	同上
	26	複合語と句	同上
	27	複合語と句	同上
	28	イントネーション	同上
	29	イントネーション	同上
30	これまでのまとめ【今と4月の発音を比較しよう！】	同上	
31	これまでの復習・期末テスト		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義内で適宜配布するので、テキストの購入は必要ありません。</p>
	<p>学びの手立て 履修の心構え ・クラスは学生・講師と一緒に協力しながら進めていくものです。 ・常に疑問を持ちながら、アクティブに講義に参加して下さい。 ・このクラスは「workshop」です。Labをフル活用しながら、自主的に発音練習をすることが重要です。</p>
	<p>評価 【平常点：40点】講義内での課題・質問・発言などを含む受講姿勢や態度 *ただし、10回クラスを欠席した時点で中間テスト・期末テストの受講は不可 【中間テスト：30点】 【期末テスト：30点】 *初回の講義の出席が、履修条件となります。初回欠席者は履修不可となるのでご注意ください。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目 「英語音声学」</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	翻訳研究	前期	火2・金2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	素民喜 琢磨	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価
	次のステージ・関連科目